

令和2年度社会福祉推進事業

「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の 教育力向上に向けた研修

研修概要及び科目別資料集



令和3年3月

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けた研修 研修概要及び科目別資料集

Contents

本資料について	1
16 科目のモデル研修プログラム	1
I 新カリキュラムに関すること	
1. 求められる介護福祉士像と新カリキュラム	4
荻原順子／目白大学 人間学部 人間福祉学科	
2. 介護福祉士養成課程における修得度評価基準	12
川井太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科	
本間美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科	
3. カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～	18
津田理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	
II 介護教員講習会の基礎分野に関すること	
4. 基礎：新たな視点	24
①地域における介護実践	26
井上善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科	
②チームケアを推進するためのマネジメント	29
新口春美／金城大学 社会福祉学部	
5. 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画	31
白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	
6. 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎	41
白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	
III 介護教員講習会の専門分野に関すること	
7. 介護過程の展開方法A	50
上田剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科	
8. 介護過程の展開方法B	56
平野啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻	
9. 介護のためのケーススタディ	66
野田由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース	
10. 学生指導	76
溝部佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科	
11. 実習指導方法	86
石岡周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科	
IV 教育方法に関すること	
12. アクティブラーニングを活用した授業展開	96
藤村裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科	
13. 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】	108
嶋田直美／和歌山YMCA国際福祉専門学校 介護福祉士科	
14. 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】	115
木村あい／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	
15. ICTを用いた新たな授業方法	120
①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題	122
吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科	
②ICT (Google 社の G Suite) を活用した、双方向性の授業展開	125
中山見知子／群馬県立伊勢崎興陽高等学校 福祉系列長	
16. 「地域」を学ぶ授業のつくり方	131
吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科	

本資料について

本書は、令和2年度に介護福祉士養成課程の教育内容の充実及び教員の教育力向上のために作成された研修プログラムに基づき、モデル研修として実施された16科目のパワーポイントスライドをまとめた資料集である。

令和3年度以降、介護福祉士の養成に関係する教育機関の教員及び関係者は、教育力向上のための研修、OJT、勉強会等において本資料及び本資料を使用したモデル研修動画を視聴することが可能となる。なお視聴にあたっては、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会に視聴申し込みをする必要がある。本資料は、視聴するモデル研修動画を選択したり、視聴の際の手元資料として活用を図っていただきたい。

16科目のモデル研修プログラム ～教育内容の充実及び教員の教育力向上に向けた研修～

本書に資料として掲載しているモデル研修16科目は、大別して「Ⅰ新カリキュラムに関すること」「Ⅱ介護教員講習会の基礎分野に関すること」「Ⅲ介護教員講習会の専門分野に関すること」「Ⅳ教育方法に関すること」の4分野で組み立てをした。モデル研修のプログラムを構築するために実施された養成校や教員に対する調査結果を参考に、教員が教育上の課題として考えている内容、あるいは学び直しの要望が高かった内容である“新カリキュラムにある新しい視点への対応”“学生指導”“個人差に対応した授業展開”“介護過程”などを盛り込み、同時に新型コロナウイルス感染症拡大によりリモート等による授業展開ニーズがたかまっていることからICTを活用した授業方法などの科目を設定している。

モデル研修動画は各科目60分以内とし、視聴者が視聴選択の参考とできるように主な対象者を明示し、研修内容もそれに応じた内容として講義を展開した。なお、本資料をもとに実施・展開されているモデル研修16科目は、試行的な取り組みであり、内容は限定的であることをご理解いただきたい。

16科目のモデル研修プログラム

分野	科目名及び担当者（敬称略）	主な対象
Ⅰ 新カリキュラムに関する こと	1. 求められる介護福祉士像と新カリキュラム 荏原順子／目白大学 人間学部 人間福祉学科	新任、非常勤
	2. 介護福祉士養成課程における修得度評価基準 川井太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 本間美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科	専任
	3. カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～ 津田理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科	全教員

分野	科目名及び担当者（敬称略）	主な対象
Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること	4. 基礎：新たな視点 ①地域における介護実践 井上善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 ②チームケアを推進するためのマネジメント 新口春美／金城大学 社会福祉学部	全教員
	5. 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画 白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	新任、非常勤
	6. 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎 白井幸久／群馬医療福祉大学短期大学部	新任、非常勤
Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること	7. 介護過程の展開方法A 上田剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科	新任、非常勤
	8. 介護過程の展開方法B 平野啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻	専任
	9. 介護のためのケーススタディ 野田由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース	新任
	10. 学生指導 溝部佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科	専任
	11. 実習指導方法 石岡周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科	新任、非常勤
Ⅳ 教育方法に関すること	12. アクティブラーニングを活用した授業展開 藤村裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科	全教員
	13. 個人差に対応した授業展開【外国人留学生】 嶋田直美／和歌山YMC A国際福祉専門学校 介護福祉士科	全教員
	14. 個人差に対応した授業展開【学習に課題を抱える学生】 木村あい／神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科	全教員
	15. ICTを用いた新たな授業方法 ①生活支援技術を遠隔授業として行った成果と課題 吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校介護福祉学科 ②ICTを活用した、双方向性の授業展開 中山見知子／群馬県立伊勢崎興陽高等学校 福祉系列長	全教員
	16. 「地域」を学ぶ授業のつくり方 吉岡俊昭／トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校介護福祉学科	全教員

以降、各科目において掲載している参考文献（テキスト）は共通資料とし、書名のみを記載している。資料の詳細は、下表を参照されたい。また、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会のウェブサイトがアップロードされているので、適宜ダウンロードするなどして対応をしていただきたい。

共通資料一覧

- ・ 共通 1) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成 31/2019 年 3 月）「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」



- ・ 共通 2) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成 31/2019 年 3 月）「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」



- ・ 共通 3) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（平成 31/2019 年 3 月）「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」



- ・ 共通 4) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（令和 2/2020 年 3 月）「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」



I 新カリキュラムに関すること

◆科目1 求められる介護福祉士像と新カリキュラム（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none">・介護福祉士養成教育の全体像を把握することができる・介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」を理解できる・カリキュラムの3領域と医療的ケアの展開内容を理解できる
講師	・荏原 順子 / 目白大学 人間学部 人間福祉学科
研修概要	(1) 目標とカリキュラムの展開の観点 ・求められる介護福祉士像に即した教育内容 ・チームマネジメント能力を養うための教育内容、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 (2) 3領域と医療的ケア ・養成カリキュラム3領域と医療的ケア
時間数	(1) 30分 / (2) 30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none">・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」・介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて：厚生労働省 第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 資料 平成30年2月15日

■展開内容

この科目は介護福祉士養成教育の内容についての全体像を理解する科目である。まず、介護福祉士の教育の指針となる「求められる介護福祉士像」の内容を理解する。それに基づきカリキュラムの中に展開されている内容を理解する（3領域と医療的ケア）。以上により、介護福祉士養成教育の全体像を把握することができるという構成である。

「求められる介護福祉士像」は、平成29年に出された「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」をもとに旧カリキュラムを見直し、新カリキュラムの柱となっているものである。介護福祉士が、チームの中で中核的な役割を果たし、リーダーの役割を担っていくためにどのようなカリキュラムの見直しをするのかということで検討された。その姿を具体的に実現するために新カリキュラムに展開される5つの観点は、①チームマネジメント能力を養うための教育内容、②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、③介護過程の実践力の向上、④認知症ケアの実践力の向上、⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上が、必要な教育内容のポイントとして挙げられている。「求められる介護福祉士像」では、目指していくべき姿として「専門職として自立的に介護過程が展開できる」ということが挙げられている。介護福祉士として領域「こころとからだのしくみ」や「人間と社会」で、人権・人の尊厳を理解し制度を把握し地域や環境のことを学び、「介護」で、介護の技術を学び、全てを集約して展開されるのが「介護過程」であり、介護の実践の過程である「介護過程」をしっかりと展開していける介護福祉士が求められている。

また、「関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアが実践できる」ということについては、チームケアが単にできるということではなく、他の職種がどんな役割を担っている

のか、他の職種の専門性をしっかりと理解し、その上で介護福祉士の役割を理解してチームケアが実践できること。そして「制度を理解し、地域や社会のニーズに対応できる」ということでは、より介護の実践が地域包括ケアの理念のもと、介護が必要な人が地域で生活していく、そのため、施設で生活しても施設が地域の中に働きかけていくということを実践できるように介護福祉士が学んでいくことなどが挙げられている。全体構成では、介護福祉士の養成は総時間数 1,850 時間で、①領域「人間と社会」、②領域「介護」、③領域「こころとからだのしくみ」、④「医療的ケア」に分けられ、この3領域と医療的ケアの関連性が重要であり、3つの領域が「連動」「統合」によって関連づけられている。

介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて（概要）

平成29年10月4日 社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会

○ 介護職の業務実態状況を踏まえ、介護福祉士とそれ以外の者で明確に業務分掌はされている。

○ 介護職業務では業務を分担できるほどの職員がいないこと、勤務系サービスでは1人で対応することから勤務時に複数の業務を実施する必要があり、過剰な業務系サービスでは業務のローテーションが実現することから介護職員が担当で介護を提供する必要があること、に留意が必要。

○ 管理者の認識では、認知症の認知症状態のある利用者やコミュニケーションが必要な利用者などへの対応、介護過程の展開におけるアセスメントや介護計画の作成・見直しなどの業務は介護福祉士が専門性をもって取り組むべきという認識が高い。

○ また、介護職のリーダーについて、介護職の統合力や人材育成力などの能力が求められるもの、十分に発揮できていないと懸念している管理者が多い。一方で、介護職の指導・育成や介護過程の展開等を重視している事業所では、リーダーの役割等を明確にし、キャリアパスへ反映するなどの取組を行っている。

○ 介護分野への参入にあたって不安を感じていたことには、「業務時等への対応」「介護保険制度等の理解」「ケアの適切性」といったことが挙げられている。

業務内容に応じた各人材の役割・機能に着目するのではなく、利用者の多様なニーズに対応できるよう、介護職のグループによるケアを推進していくことで、介護人材に求められる機能や必要な能力等を明確にし、介護分野に参入した人材が業務・能力に応じてキャリアアップを図り、各人材が期待される役割を担っていくようにすべき。

実態に向けた具体的な対応

介護職のグループにおけるリーダーの育成

○ 介護職がグループで提供する介護サービスの質や介護福祉士の社会的評価の向上に向け、一定のキャリアパスや程度の実務経験を経た介護福祉士を介護職のグループにおけるリーダーとして育成。

介護福祉士の専門性におけるキャリアアップの意識

○ 介護福祉士の専門職として、介護職のグループの中で中核的な役割を担い、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加などに伴う介護ニーズの複雑化・多様化・高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要。

介護福祉士による指導的ケアの実施の促進

○ 実態との役割分掌について、「認知・看護職等の働き方ビジョン検討会」の留意も踏まえ、利用者への職務振り分けや実務の実態状況や研修体制の整備状況などの実態を踏まえ、

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像

< 平成19年度カリキュラム改正時 >

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域（在宅）を適切に汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

社会状況や人々の意識の移り変わり、制度改正等

< 今回の改正で目指すべき像 >

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

高い倫理性の保持

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像は介護福祉教育の指針

求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅に関わらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

+ 高い倫理性の保持

養成校ごとの独自性

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	介護福祉士教育の目標と「求められる介護福祉士像」
(2)	カリキュラムの中に展開されている観点： チームマネジメント能力を養うための教育内容、 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等
(3)	介護福祉士の養成カリキュラムの領域： 3領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」と医療的ケア

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムの中に展開されている五つの観点

- ① チームマネジメント能力を養うための教育内容
- ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
- ③ 介護過程の実践力の向上
- ④ 認知症ケアの実践力の向上
- ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムの中に展開されている五つの観点

- ① チームマネジメント能力を養うための教育内容
 - ・ 介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を発揮することが求められている。→ リーダーシップやフォロワーシップを含めた、チームマネジメントに関する教育内容の拡充を図る。
- ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
 - ・ 対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められている。→ 各領域の特性に合わせて地域に関連する教育内容の充実を図る。
- ③ 介護過程の実践力の向上
 - ・ 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応する→ 各領域で学んだ知識と技術を領域「介護」で統合し、アセスメント能力を高め実践力の向上を図る。

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラムの中に展開されている五つの観点

④認知症ケアの実践力の向上

- 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容
- 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する内容

⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

- 施設・在宅に関わらず、地域の中で本人が望む生活を送るための支援を実践するために、介護と医療の連携を踏まえ、人体の構造・機能の基礎的な知識や、ライフサイクル各期の特徴等に関する教育内容の充実を図る。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

- | | |
|-----|--|
| (1) | 介護福祉士教育の目標と「求められる介護福祉士像」 |
| (2) | カリキュラムの中に展開されている観点：
チームマネジメント能力を養うための教育内容、
対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上等 |
| (3) | 介護福祉士の養成カリキュラムの領域：
3領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」と医療的ケア |

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3領域と医療的ケア

- 2で述べた五つの観点は、これまでの介護福祉士の養成カリキュラムの領域、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域と「医療的ケア」の中で展開されている。

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

養成施設ルート 3領域と医療的ケア

介護福祉士の養成カリキュラム
総時間数 1850時間

- ① 領域「人間と社会」 240時間
- ② 領域「介護」 1260時間
- ③ 領域「こころとからだのしくみ」 300時間
- ④ 「医療的ケア」 50時間

教育内容	時間数
人間と社会	240
人間の尊厳と自立	30以上
人間関係とコミュニケーション	30以上
社会の理解	60以上
人間と社会に関する選択科目	---
介護	1,260
介護の基本	180
コミュニケーション技術	60
生活支援技術	330
介護過程	150
介護総合演習	120
介護実習	450
こころとからだのしくみ	300
発達と老化の理解	60
認知症の理解	60
障害の理解	60
こころとからだのしくみCA	180
医療的ケア	50
総時間数	1,850

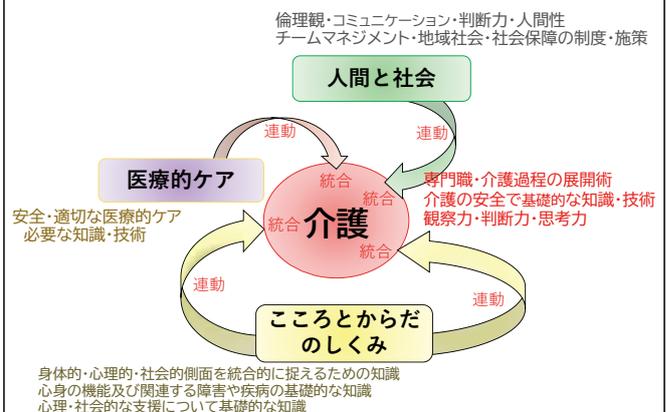
16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程 カリキュラム 領域と時間数 総時間数 1850時間

領域:人間と社会	合計240時間
人間の尊厳と自立	30時間以上
人間関係とコミュニケーション	60時間以上
社会の理解	60時間以上
人間と社会に関する選択科目	---
領域:介護	合計1260時間
介護の基本	180時間
コミュニケーション技術	60時間
生活支援技術	330時間
介護過程	150時間
介護総合演習	120時間
介護実習	450時間
領域:こころとからだのしくみ	合計300時間
こころとからだのしくみ	120時間
発達と老化の理解	60時間
認知症の理解	60時間
障害の理解	60時間
領域:医療的ケア	合計50時間以上
医療的ケア	50時間以上+演習

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

科目の領域の関係



到達目標を達成するための
介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

領域：「人間と社会」の目的

「人間の尊厳と自立」「人間関係とコミュニケーション」「社会の理解」

- 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
- 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。
- 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。
- 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。
- 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい
領域：人間と社会

人間の尊厳と自立

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

人間関係とコミュニケーション

(1) 対人援助に必要な人間関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。

(2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

社会の理解

(1) 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。

(2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。

(3) 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。

(4) 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目と時間数(例)

領域：人間と社会 合計240時間

人間の尊厳と自立 30時間以上

人間関係とコミュニケーション
60時間以上

社会の理解 60時間以上

人間と社会に関する選択科目

人間の尊厳と自立 30時間以上
社会福祉入門 30時間
生命倫理 30時間

人間関係とコミュニケーション
60時間以上

人間関係論 30時間
組織と人材管理 30時間
チームマネジメント 30時間

社会の理解 60時間以上
高齢者福祉論 30時間
障害者福祉論 30時間

人間と社会に関する選択科目
地域福祉論 30時間

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

到達目標を達成するための
介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

領域：「介護」の目的

「介護の基本」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」
「介護過程」「介護総合演習」「介護実習」

- 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
- 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。
- 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
- 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
- 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。
- 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい

領域：介護

介護の基本

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

コミュニケーション技術

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

生活支援技術

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

介護過程

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい

領域：介護

介護総合演習

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

介護実習

(1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。

(2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目と時間数(例)

領域:介護 合計1260時間	
介護の基本 180時間	介護の基本 180時間 介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 30時間×6
コミュニケーション技術 60時間	コミュニケーション技術 60時間 コミュニケーション論 30時間 コミュニケーション技術 30時間
生活支援技術 300時間	生活支援技術 300時間 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 60時間×5
介護過程 150時間	介護過程 150時間 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 30時間×5
介護総合演習 120時間	介護総合演習 120時間 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 30時間×4
介護実習 450時間	介護実習 450時間 介護福祉実習Ⅰ 100時間 介護福祉実習Ⅱ 100時間 介護福祉実習Ⅲ 250時間

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

到達目標を達成するための
介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

領域:「こころとからだのしくみ」の目的 「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」 「認知症の理解」「障害の理解」

1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、**身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識**を身につける。
2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、**医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識**を身につける。
3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる**心理・社会的な支援について基礎的な知識**をつける。

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目のねらい

領域:こころとからだのしくみ

こころとからだのしくみ

介護を必要とする人の生活支援を行うため、**介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する**学習とする。

発達と老化の理解

人間の成長と発達の過程における、**身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する**学習とする。

認知症の理解

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する**基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する**学習とする。

障害の理解

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する**基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する**学習とする。



こころとからだのしくみ

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目名と時間数(例)

領域:こころとからだのしくみ 合計300時間	
こころとからだのしくみ 120時間	こころとからだのしくみ 120時間 こころとからだのしくみⅠ 30時間 こころとからだのしくみⅡ 30時間 こころとからだのしくみⅢ 30時間 こころとからだのしくみⅣ 30時間
発達と老化の理解 60時間	発達と老化の理解 60時間 発達と老化の理解Ⅰ 30時間 発達と老化の理解Ⅱ 30時間
認知症の理解 60時間	認知症の理解 60時間 認知症の理解Ⅰ 30時間 認知症の理解Ⅱ 30時間
障害の理解 60時間	障害の理解 60時間 障害の理解Ⅰ 30時間 障害の理解Ⅱ 30時間

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

到達目標を達成するための
介護福祉士養成課程カリキュラム領域ごとの目的

「医療的ケア」の目的

医療的ケア+演習

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、**医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。**

29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「医療的ケア」と演習の内容

- 基本研修(講義形式・実時間で50時間以上)
 - 演習 ※基本研修を修了した学生に限る。
 - ・ 喀痰吸引:口腔(5回以上)、鼻腔(5回以上)
 - ・ 気管カニューレ内部(5回以上)
 - ・ 経管栄養:胃ろう又は腸ろう(5回以上)、経鼻経管栄養(5回以上)
 ※併せて、救急蘇生法演習についても1回以上実施すること。
 - 実地研修(可能な限り、実地研修又は見学を実施)※基本研修・演習修了者に限る。
- 教員要件:**5年以上の実務経験を有する医師・保健師・助産師・看護師であって医療的ケア研修会を終了したもの

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程カリキュラム 科目名と時間数(例)

領域: 医療的ケア 合計50時間以上 (実時間)	医療的ケア I 30時間(15回) 医療的ケア II 30時間(15回)
医療的ケア 50時間以上+演習	1.5×30回=45時間 プラス1.5×4=6時間 医療的ケア演習 各項目5回

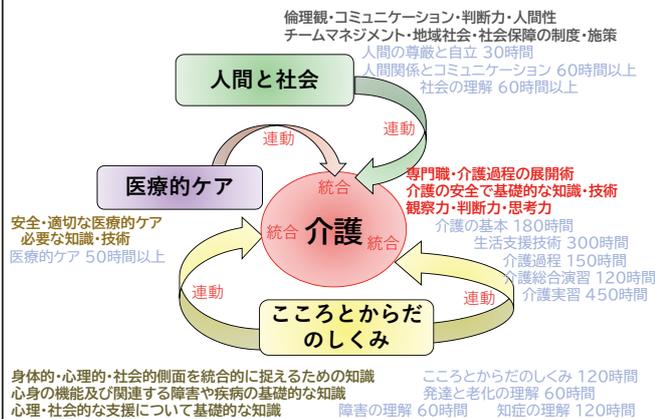
31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程 カリキュラム 領域と時間数 総時間数 1850時間

領域: 人間と社会 合計240時間 人間の尊厳と自立 30時間以上 人間関係とコミュニケーション 60時間以上 社会の理解 60時間以上 関連科目-----	領域: 介護 合計1260時間 介護の基本 180時間 コミュニケーション技術 60時間 生活支援技術 300時間 介護過程 150時間 介護総合演習 120時間 介護実習 450時間
領域: ことごとからだのしくみ 合計300時間 ことごとからだのしくみ 120時間 発達と老化の理解 60時間 認知症の理解 60時間 障害の理解 60時間	領域: 医療的ケア 合計50時間 医療的ケア 50時間以上+演習

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

科目の領域におけるねらい・科目・連動・統合のイメージ

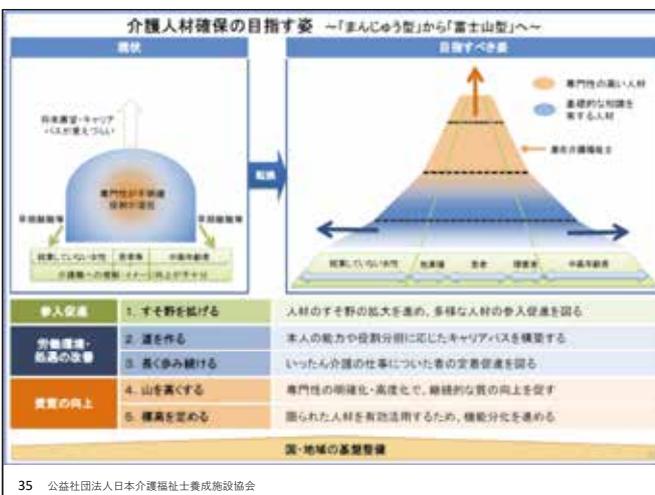


33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像は介護福祉教育の指針

求められる介護福祉士像	
1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する	養成校ごとの独自性
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる	
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
10. 介護職の中で中核的な役割を担う	
+	
高い倫理性の保持	

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

参考文献

- 1) 介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き: 日本介護福祉士養成施設協会 平成31年3月
- 2) 介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて: 厚生労働省 第13回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 資料 平成30年2月15日

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目2 介護福祉士養成課程における修得度評価基準（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における修得度評価基準の目的、期待される効果について理解する ・修得度評価基準の活用方法について理解する
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・川井 太加子／桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 ・本間 美幸／北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科
研修概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景・目的について ・修得度評価基準の枠組みとなる7つのコンピテンシーと24の具体的能力について ・修得度評価基準の見方と活用方法について ・「介護過程」を例にあげて
時間数	40分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」

■展開内容

はじめに介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景そして目的を説明しその上で、どのような流れで修得度評価基準項目が作成されたかについて解説している。また、評価基準作成の視点や作成過程においてでた意見等も紹介している。

次に流れに沿って、コアコンピテンシー7項目、その下位項目として作成した24の能力、そして24の具体的能力を柱に導き出した120の修得度評価基準項目を紹介している。

次に、修得度評価基準の見方と活用方法について「介護過程」を例にあげて説明している。

■工夫点

「介護福祉士養成課程における修得度評価基準」の活用方法として、授業科目「介護過程」を例にとり説明した。具体的には『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』と見比べながら、120の評価基準も一つひとつがこの『教育方法の手引き』における「想定される教育内容の例」と関連付けられていることを説明した。

■留意点

本研修は、分野Iの新カリキュラムに関する事の科目2である。新カリキュラムが目指す介護福祉士養成のねらいを理解して、各養成校が独自にカリキュラム作成の工夫をすることを期待する。そのためには、科目1の「求められる介護福祉士像と新カリキュラム」と本科目を受講したうえで、科目3「カリキュラムツリー作成～学びの流れと科目間連携～」を受講することで、分野Iの総体的な理解が深まると考える。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：専任

分野 I 新カリキュラムに関すること

科目 2 介護福祉士養成課程における 修得度評価基準

公開期間：令和3年3月3日～12日

川井太加子 / 桃山学院大学
本間 美幸 / 北翔大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護福祉士養成課程における修得度評価基準の目的、期待される効果について理解する。
- 修得度評価基準の活用方法について理解する。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

- 介護福祉士養成課程における修得度評価基準作成の背景・目的について
- 修得度評価基準の枠組みとなる7つのコンピテンシーと24の具体的能力について
- 修得度評価基準の見方と活用方法について
- 「介護過程」を例に挙げて

40分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(1)

介護福祉士養成課程における 修得度評価基準作成の 背景・目的

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成の背景

- ① 平成24(2012)年3月介護福祉士養成課程卒業時に修得しておくべき介護技術等の指標の作成
- ② 平成31(2019)年3月介護福祉士養成課程における修得度評価基準の作成



5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成の目的

見直しを行った教育内容がその「目的」や「ねらい」にそって体系的、効果的に教授されるために、修得すべき知識や技術の評価指標を作成する。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』より

■想定される養育内職の例 (10) ところどころのしくみ

養育内職の種類	実施の場	実施の時期	実施の回数
1. 入浴介助	介護福祉士養成施設	1年次	1回
2. 食事介助	介護福祉士養成施設	1年次	1回
3. 排泄介助	介護福祉士養成施設	1年次	1回
4. 移動介助	介護福祉士養成施設	1年次	1回
5. 褥瘡予防	介護福祉士養成施設	1年次	1回
6. 介護記録	介護福祉士養成施設	1年次	1回
7. 介護相談	介護福祉士養成施設	1年次	1回
8. 介護計画	介護福祉士養成施設	1年次	1回
9. 介護評価	介護福祉士養成施設	1年次	1回
10. 介護改善	介護福祉士養成施設	1年次	1回

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(2)

修得度評価基準の枠組みとなる
7つのコアコンピテンシーと
24の具体的能力について

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成の視点

- 修業年限等に関係なく、1,850 時間をベースとした介護福祉士養成課程に共通するものとする。
- 新たな「求められる介護福祉士像」及び平成29 (2017) 年度に見直された新カリキュラムと結びつけた内容とする。
- 介護福祉士養成課程を卒業するまでに修得すべき基準とする。
- 段階別等の細かい評価基準を作成するのではなく、一定の方向性をあらわす基準を示し、その活用方法は各養成校の方針・判断にゆだねる。

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準作成

(1) コアコンピテンシーの作成

- ① 他資格における先行研究を参考に、「介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシー」の枠組み【たたき台】を作成。
- ② これと「求められる介護福祉士像」にある項目との関係を整理し、介護に特有な、あるいは重要な7つのコアコンピテンシーについて整理した。

* コアコンピテンシーとは：中核となる能力・実践能力

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(2) コアコンピテンシーと具体的能力

- ① コアコンピテンシーの能力をより具体化し、下位項目として24の具体的能力を示した。
- ② 24の具体的能力は、コアコンピテンシーがどのような能力から構成されているかについて示すものであり、新カリキュラムの「教育に含むべき事項」「留意点」「想定される教育内容の例」を基に作成している。

参考とした資料

- ・「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」(平成30年6月、一般社団法人日本看護系大学協議会)
- ・「相談援助実習・実習指導ガイドラインおよび評価表」(平成25年11月、一般社団法人日本社会福祉士養成校協会実習教育委員会)
- ・「福祉系大学における人材養成機能向上に関する調査研究報告書」(平成24年3月、社団法人日本社会福祉教育学校連盟)

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7つのコアコンピテンシーと24の具体的能力

1 介護を実践するための基本能力	(1) 尊厳を保持し、自立を支援する能力 (2) 対象となる人の権利を擁護する能力 (3) 意思表示や意思決定を支援する能力 (4) 支援に必要な人間関係を形成する能力
2 対象となる人を生活者として理解する能力	(5) 生活者を身体的・心理的・社会的・実存的側面から理解する能力 (6) 生活者をとりまく環境を理解する能力 (7) ライフサイクルの観点から生活者を理解する能力
3 心身の状況に応じた介護を実践する能力	(8) 対象となる人や家族をエンパワメントする能力 (9) 対象となる人の日常生活や社会生活を支援する能力 (10) 障害や認知症、慢性疾患などのある人を支援する能力 (11) 介護予防やリハビリテーション、終末期などの状況に応じて支援する能力
4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力	(12) 生活の場や家族形態・状況に応じて支援する能力 (13) 安心・安全な生活環境を整える能力 (14) 制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する能力 (15) 災害などの非常事態に対応し、支援する能力
5 介護過程を展開する実践能力	(16) 対象となる人をアセスメントする能力 (17) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力 (18) 機転に基づき生活支援技術を選択し実践する能力 (19) 実践を評価し、改善する能力
6 チームで働くための実践能力	(20) チームの一員としての役割を自覚し、協働する能力 (21) 他の職種・機関などと連携する能力
7 専門職として成長し続ける能力	(22) 実践の中で研鑽を深め、研究する能力 (23) 介護にかかわる情報を発信する能力 (24) 自身の健康を管理する能力

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準項目

①7つのコアコンピテンシーとその下位項目である24の具体的能力を柱に、それらに結びついている新カリキュラムの「留意点」や「想定される教育内容の例」から「介護福祉士養成課程における修得度評価基準」120を作成した。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

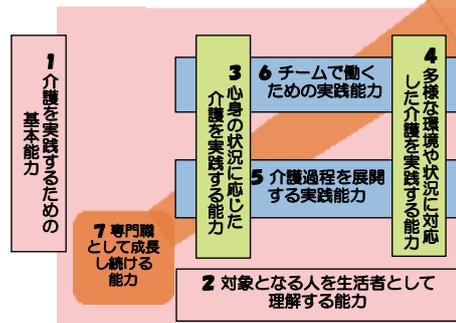
コアコンピテンシー	具体的能力	留意点	教育内容の例	想定される教育内容の例
1 介護を実践するための基本能力	1. 本人の意思決定を尊重するために必要なコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	11 介護に必要な人々のコミュニケーション	11 介護に必要な人々のコミュニケーション
	2. 本人の意思決定に必要となる事項への理解を深め、説明できる	コミュニケーション技術	12 介護に必要な人々のコミュニケーション	12 介護に必要な人々のコミュニケーション
	3. 相手の特性に応じたコミュニケーション技術を活用できる	コミュニケーション技術	13 相手の特性に応じたコミュニケーション	13 相手の特性に応じたコミュニケーション
2 対象となる人を生活者として理解する能力	1. 介護に必要な人の生活の場や状況、多様性、社会との関わりを説明できる	介護の場	11 介護に必要な人々の理解	11 介護に必要な人々の理解
	2. 自己観察やコミュニケーション技術、説明できる	コミュニケーション技術	12 介護に必要な人々の理解	12 介護に必要な人々の理解
	3. 介護に必要な人々の生活の場や状況、多様性、社会との関わりを説明できる	コミュニケーション技術	13 相手の特性に応じたコミュニケーション	13 相手の特性に応じたコミュニケーション

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コアコンピテンシー	具体的能力	留意点	教育内容の例	想定される教育内容の例
3 心身の状況に応じた介護を実践する能力	1. 介護に必要な人々の生活の場や状況、多様性、社会との関わりを説明できる	介護の場	11 介護に必要な人々の理解	11 介護に必要な人々の理解
	2. 自己観察やコミュニケーション技術、説明できる	コミュニケーション技術	12 介護に必要な人々の理解	12 介護に必要な人々の理解
	3. 介護に必要な人々の生活の場や状況、多様性、社会との関わりを説明できる	コミュニケーション技術	13 相手の特性に応じたコミュニケーション	13 相手の特性に応じたコミュニケーション
4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力	1. 介護に必要な人々の生活の場や状況、多様性、社会との関わりを説明できる	介護の場	11 介護に必要な人々の理解	11 介護に必要な人々の理解
	2. 自己観察やコミュニケーション技術、説明できる	コミュニケーション技術	12 介護に必要な人々の理解	12 介護に必要な人々の理解
	3. 介護に必要な人々の生活の場や状況、多様性、社会との関わりを説明できる	コミュニケーション技術	13 相手の特性に応じたコミュニケーション	13 相手の特性に応じたコミュニケーション

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシーとその構造



コアコンピテンシー (core competency) とは、中核となる能力・実践能力

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準としての7つのコアコンピテンシー

■ 1 介護を実践するための基本能力

さまざまな生活背景や多様な価値観をもつ対象に対して、介護福祉の専門職として人権尊重や権利擁護を基盤に人間関係を形成する能力である。

■ 2 対象となる人を生活者として理解する能力

介護の対象となる人を生活者としてとらえ、身体的・心理的・社会的・実存的側面から全人的に理解し、生活環境やライフサイクルの観点からも理解することができる能力である。

■ 3 心身の状況に応じた介護を実践する能力

対象となる人をエンパワメントするかわりや、対象となる人の心身の状況に応じて日常生活や社会生活を支援すること、障害や認知症あるいは介護予防や終末期などの特定の状態・状況にある人に対して支援する能力である。

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

■ 4 多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力

介護の対象となる人の生活の場や状況に応じて支援することや、安心・安全な生活環境を整えること、制度や社会資源を活用して支援すること、災害などの非常事態に対応して支援する能力である。

■ 5 介護過程を展開する実践能力

知識・技術を用いてアセスメントし、アセスメントに基づき介護計画を作成する能力である。さらに、介護計画に対して根拠に基づき生活支援技術を適切に実践すること、実践を評価し、評価をもとに改善につなげる能力である。

■ 6 チームで働くための実践能力

同職種及び他職種からなる包括的なチームで働くため、チームの一員としての役割を自覚し協働する能力、他職種機関などと連携する能力である。

■ 7 専門職として成長し続ける能力

介護福祉士としての専門的能力を発展させながら成長し続けていくことを意味する。そのために、実践の中で研鑽し研究することや、介護にかかわる情報を適切な方法で発信すること、自身の健康を管理することができる能力である。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

評価基準作成により得られる効果

修得度評価基準の作成により、

- ① 当該科目で評価すべき項目や内容、評価方法の明確化が図られ、科目間で評価内容や評価項目の重複がなくなる
- ② 仮に重複したとしても、当該科目に相応しい評価方法が選択できる
- ③ 科目間での評価の構造化を図ることにより、より体系的な評価が可能となることが考えられる。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(3)

修得度評価基準の活用方法について

～「介護過程」を例に挙げて～

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コアコンピタンス	目標的能力【243】	介護福祉士養成課程における目標的評価基準【240】	科目	得意にならば卒業	認定される修得内容の例
介護過程を展開する実践能力	【156】対象となる人をアセスメントする能力	91. 介護実践におけるアセスメントの意義を理解し説明できる	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		92. 事例と実情を鑑み、評価が評価・福祉に資する	介護過程	①介護過程の趣旨の理解	1) 対象者の状態・状況に応じた介護過程の構築 2) 自己療と学習 3) 事例研究
		93. 状況に応じた介護や生活支援の計画を立案し、生活課題や介護の方向性を検討できる	介護過程	①介護過程の趣旨の理解	1) 対象者の状態・状況に応じた介護過程の構築 2) 自己療と学習 3) 事例研究
		94. 利用者や家族の意向を汲み取り、人権の心構え、人権の尊重と福祉について説明できる	介護過程	①介護過程の趣旨と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
	【157】アセスメントに基づき介護計画を作成する能力	95. 介護実践における介護計画立案の意義について説明できる	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		96. 立案した介護計画の趣旨や内容について、関係者や家族等に説明できる	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		97. アセスメントにより決定した生活課題や介護の方向性に基づき、介護計画を立案できる	介護過程	①介護過程の趣旨の理解	1) 対象者の状態・状況に応じた介護過程の構築 2) 自己療と学習 3) 事例研究
	【158】根拠に基づき生活支援技術を生かして実践する能力	98. 立案した介護計画を、利用者や家族の意向や状況に応じて実践する	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		99. 日々の介護実践を、専門職の連携と連携して実践する	介護過程	①介護過程の趣旨の理解	1) 対象者の状態・状況に応じた介護過程の構築 2) 自己療と学習 3) 事例研究
		100. 実践の状況に応じて実践方法を改善する	介護過程	①介護過程の趣旨の理解	1) 対象者の状態・状況に応じた介護過程の構築 2) 自己療と学習 3) 事例研究

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コアコンピタンス	目標的能力【243】	介護福祉士養成課程における目標的評価基準【240】	科目	得意にならば卒業	認定される修得内容の例
介護過程を展開する実践能力	【156】対象となる人をアセスメントする能力	101. 介護実践における評価の意義を理解できる	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		102. チーム（関係者・家族等）に評価の意義を説明できる	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		103. チーム（関係者・家族等）に評価の意義を説明できる	介護過程	①介護過程の意義と趣旨の理解	1) 介護過程の意義・目的 2) 介護過程を実施するための一連の力 3) アセスメント
		104. 介護計画に基づき実践できるが、介護計画は状況に応じて変更可能な105. 評価結果の状況に基づき、再アセスメントの必要性について説明できる	介護過程	①介護過程の趣旨の理解	1) 対象者の状態・状況に応じた介護過程の構築 2) 自己療と学習 3) 事例研究

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

- 介護過程を展開する実践能力
- (1) 対象となる人をアセスメントする能力
 - (2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
 - (3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力
 - (4) 実践を評価し、改善する能力

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

- 介護過程を展開する実践能力
- (1) 対象となる人をアセスメントする能力
 - (2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
 - (3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力
 - (4) 実践を評価し、改善する能力

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(1) 対象となる人をアセスメントする能力

91. 介護実践におけるアセスメントの意義と着眼点を説明できる
92. 事例と実習を通して、情報の分析・解釈・統合ができる
93. 状況に応じた介護や生活支援という目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる
94. 利用者の活動に影響をおよぼしている人間の心理、人体の構造と機能について説明できる

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』より

■ 設定される教育内容の例 (ア) 介護過程

教育内容の例 (ア) 介護過程	介護過程	介護過程	介護過程
1. 介護過程とは、利用者一人ひとりの状態やニーズを把握し、そのニーズに応じた介護を提供するための一連の作業を指す。2. 介護過程は、利用者一人ひとりの状態やニーズを把握し、そのニーズに応じた介護を提供するための一連の作業を指す。3. 介護過程は、利用者一人ひとりの状態やニーズを把握し、そのニーズに応じた介護を提供するための一連の作業を指す。4. 介護過程は、利用者一人ひとりの状態やニーズを把握し、そのニーズに応じた介護を提供するための一連の作業を指す。			

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』より

■ 設定される教育内容の例 (10) こころとからだのしくみ

教育内容の例 (10) こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ
1. こころとからだのしくみとは、人間の身体や心臓の仕組みを指す。2. こころとからだのしくみとは、人間の身体や心臓の仕組みを指す。3. こころとからだのしくみとは、人間の身体や心臓の仕組みを指す。4. こころとからだのしくみとは、人間の身体や心臓の仕組みを指す。			

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

修得度評価基準の活用方法 まとめ

『教育方法の手引き』と併せて活用する

- ① 自校のカリキュラムの組み立てに活用する
- ② 科目ごとの教授内容の見直しに活用する



28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目3 カリキュラムツリー作成 ～学びの流れと科目間連携～（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・科目間連携、統合が理解できる ・カリキュラムツリーとその活用が理解できる 				
講師	・津田 理恵子／神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科				
研修概要	<table border="0"> <tr> <td>(1) 科目間連携・統合</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 </td> </tr> <tr> <td>(2) カリキュラムツリーとその活用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合 </td> </tr> </table>	(1) 科目間連携・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 	(2) カリキュラムツリーとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合
(1) 科目間連携・統合	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・科目間連携・統合と例 				
(2) カリキュラムツリーとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリーと例 ・カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・カリキュラムツリー活用の場合 				
時間数	(1) 30分／(2) 30分計 60分				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 				

■展開内容

前半は、介護福祉士養成新カリキュラムにおける領域ごとの科目において習得する知識や技術は、科目間連携やその先にある統合を意識して教授することが重要であることから、科目間連携と統合の意味と、1850時間の科目間連携と統合について説明している。

後半は、学びの流れを具体的に示すカリキュラムツリーについて説明し、介護福祉士養成課程新カリキュラムにおける専門科目のみのカリキュラムツリーの作成例を示している。そのうえで、カリキュラムツリーの活用により期待できる効果と活用の場合について説明している。

■工夫点

科目間連携、統合とカリキュラムツリーの具体的な内容については例題を用いて説明している。受講者が、介護福祉士養成課程におけるカリキュラムにおける領域ごとの科目のつながりを、カリキュラムツリーを通して客観的にみることで、一つひとつの科目の位置づけや目的などを捉えなおし、介護福祉士養成施設ごとのカリキュラムツリーを再考する動機づけになるよう、例題を示している。さらに、この科目内においては、領域ごとに介護が赤、こころとからだのしくみが黄、人間と社会が緑、医療的ケアが紫と、一貫した色分けによって図示している。

■留意点

本研修は、分野Iの新カリキュラムに関することの3番目の科目である。そのため、科目1、2の目指すべき介護福祉士像、コアコンピテンシーを受講したうえで、本研修を受講することで本研修の理解が深まると考えるため、本研修受講前に目指すべき介護福祉士像とコアコンピテンシーの受講を勧める。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

対象：全教員

分野 I 新カリキュラムに関すること

科目3 カリキュラムツリー作成
～学びの流れと科目間連携～

公開期間：令和3年3月3日～12日

津田 理恵子 / 神戸女子大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 科目間連携、統合が理解できる
- カリキュラムツリーと活用が理解できる

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

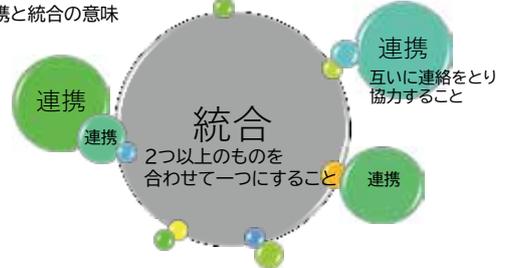
本科目の流れ

(1)	①科目間連携・統合 ・ 介護福祉士養成新カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携 ・ 科目間連携・統合と例	30分
(2)	②カリキュラムツリーとその活用 ・ カリキュラムツリーと例 ・ カリキュラムツリー活用により期待される効果 ・ カリキュラムツリー活用の場合	30分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

I 科目間連携・統合
1)介護福祉士養成カリキュラムにおける学びの流れと科目間連携

①連携と統合の意味



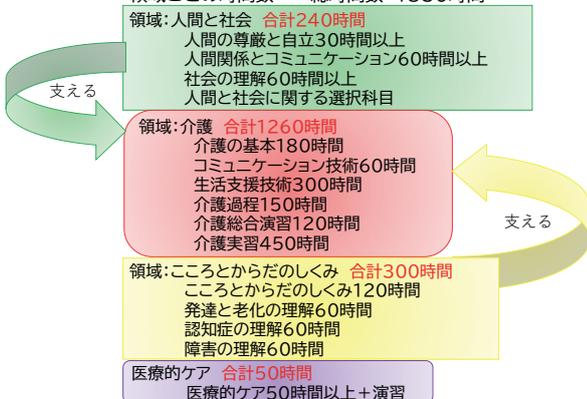
科目間連携…一つひとつの科目が互いにつながる

連携 + 連携 + 連携 + 連携 = 統合

↓
科目の統合…一つひとつの複数科目が相互につながり、まとまりをもった全体を形成すること

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②介護福祉士養成課程 新カリキュラム
領域ごとの時間数 総時間数 1850時間



5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2)科目間連携・統合
学年ごとの科目間連携・統合のイメージ

1回生前期・科目の例



1回生後期・科目の例



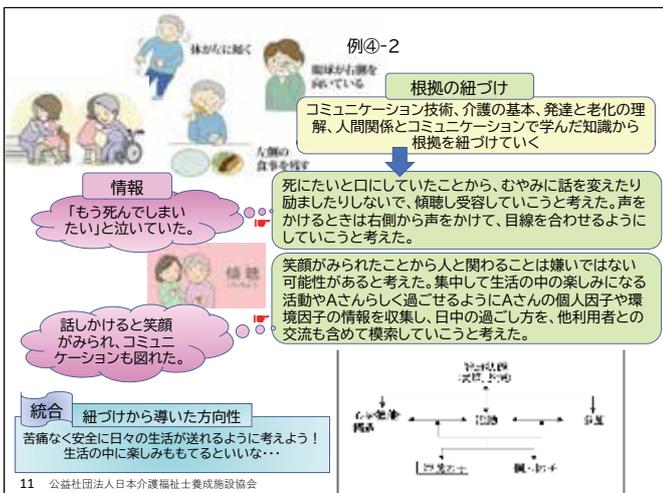
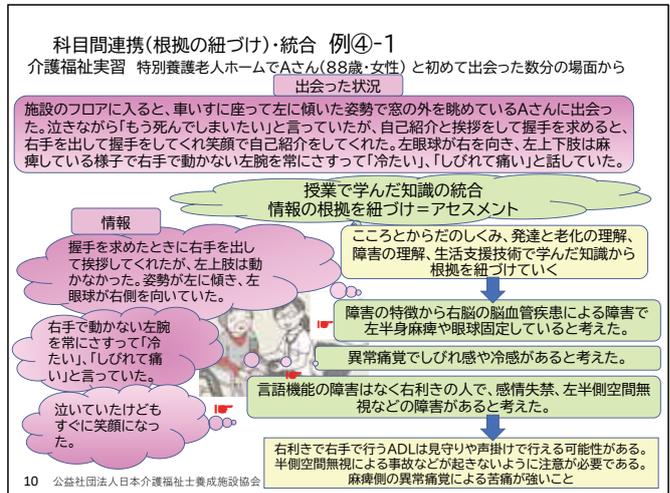
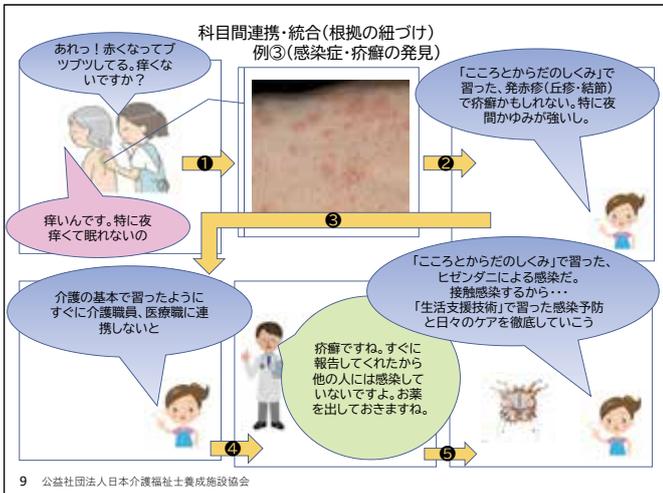
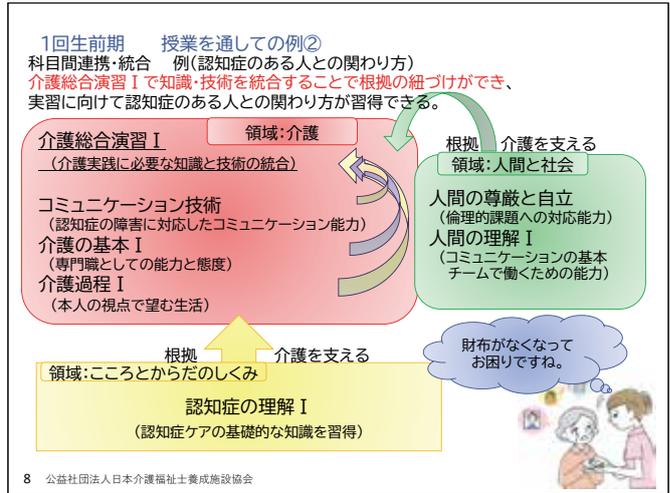
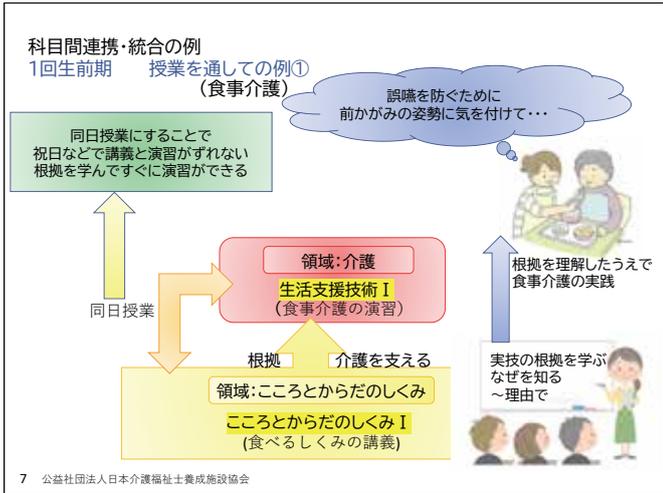
2回生前期・科目の例



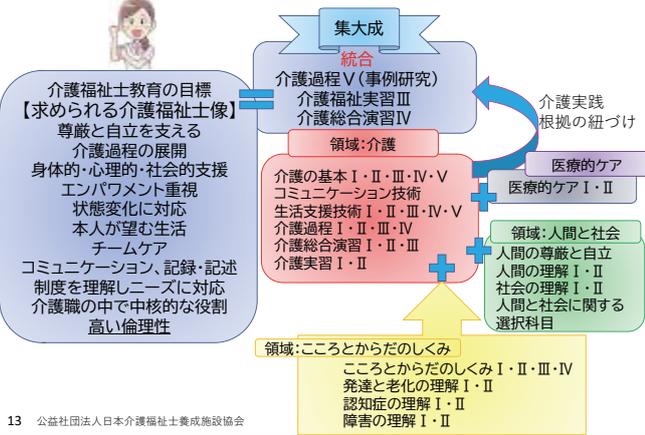
2回生後期・科目の例



6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



2年間の科目間連携・統合(介護福祉士教育の目標)



13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

IIカリキュラムツリーとその活用

1)カリキュラムツリーとは

カリキュラムマップとカリキュラムツリーの違い

カリキュラムマップ

授業科目と教育目標の関係を示した表
履修系統図であるカリキュラムツリーを発展させたもの
①学位授与の方針(ディプロマポリシー)
②教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)
③各授業科目(群)
①~③の対応を明示し、卒業までに身につけるべき能力を養うためにそれぞれの**授業科目(群)が果たす役割**を示したもの



カリキュラムツリー

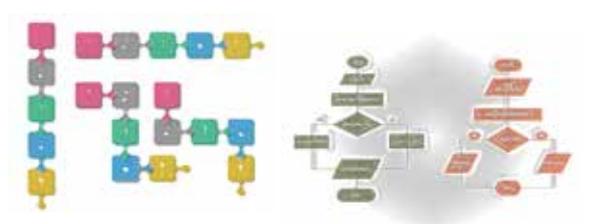
教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
各授業科目のつながりを示したもの
関連する科目を線で結んだり学修の順序を示し
授業科目間の**系統性**を図示したもの



14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

なぜカリキュラムツリーをつくるのか?

教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ、各授業科目のつながりを示しカリキュラムの年次進行、カリキュラムの体系性を一望し学習内容の順次性、授業科目間の関連性を同時に図示化・ビジュアル化する(フローチャート)



(フローチャート見本)

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

例1 介護福祉士養成課程新カリキュラム 専門科目のカリキュラムツリーの例

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
統合				介護過程VI(事例研究)
実習関連	介護総合演習I	介護福祉実習I	介護総合演習III	介護総合演習IV
実習関連	介護の基本I 介護過程I	介護の基本II 介護過程II 介護過程III	介護の基本III 介護過程IV	介護の基本IV 介護過程V
演習科目	生活支援技術I コミュニケーション技術	生活支援技術II	生活支援技術III 生活支援技術IV(家政)	生活支援技術V
講義科目	こころとからだのしくみI 認知症の理解I 人間の尊厳と自立 社会の理解I	こころとからだのしくみII 障害の理解I 発達と老化の理解I 社会の理解II	こころとからだのしくみIII 障害の理解II 発達と老化の理解II 人間の理解II	こころとからだのしくみIV 障害の理解II 人間と社会に関する選択科目

領域:介護(赤) 領域:こころとからだのしくみ(青) 領域:人間と社会(緑) 医療的ケア(紫)

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

※同日授業実施

例2	人間と社会	介護	こころとからだのしくみ	医療的ケア
2回生後期	人間と社会に関する選択科目	生活支援技術V 介護の基本IV 介護の基本V 介護過程V 介護過程VI(事例研究) 介護総合演習IV 介護福祉実習III	こころとからだのしくみIV	
2回生前期	人間の理解II	生活支援技術III 生活支援技術IV 介護総合演習III 介護福祉実習II 介護の基本III	こころとからだのしくみIII 障害の理解II 発達と老化の理解II	医療的ケアI 医療的ケアII
1回生後期	社会の理解II	生活支援技術II 介護過程II 介護過程III 介護総合演習II 介護福祉実習I 介護の基本II	こころとからだのしくみII 障害の理解I 発達と老化の理解I 認知症の理解II	
1回生前期	社会の理解I 人間の尊厳と自立 人間の理解I	介護の基本I コミュニケーション技術 生活支援技術I 介護総合演習I 介護過程I	こころとからだのしくみI 認知症の理解I	

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

※同日授業実施 青:連携を意識した科目

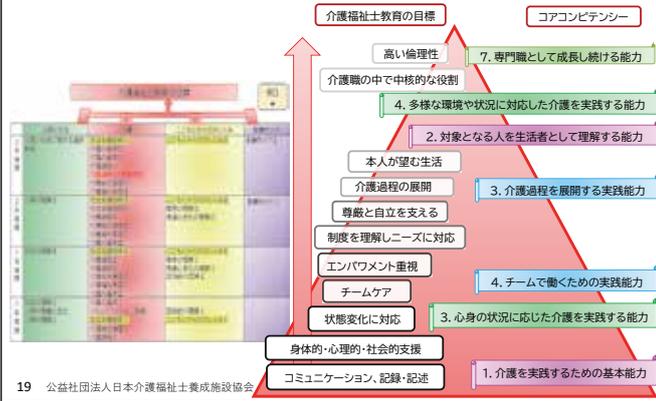
例3	介護福祉士教育の目標			
	人間と社会	介護	こころとからだのしくみ	医療的ケア
2年後期	人間と社会に関する選択科目	生活支援技術V 介護の基本IV 介護の基本V 介護過程V 介護過程VI(事例研究) 介護総合演習IV 介護福祉実習III	こころとからだのしくみIV	医療的ケアII
2年前期	人間の理解II	生活支援技術III 生活支援技術IV 介護過程IV 介護総合演習III 介護福祉実習II 介護の基本III	こころとからだのしくみIII 障害の理解II 発達と老化の理解II	医療的ケアI
1年後期	社会の理解II	生活支援技術II 介護過程II 介護過程III 介護総合演習II 介護福祉実習I 介護の基本II	こころとからだのしくみII 障害の理解I 発達と老化の理解I 認知症の理解II	
1年前期	社会の理解I 人間の尊厳と自立 人間の理解I	介護の基本I コミュニケーション技術 生活支援技術I 介護総合演習I 介護過程I	こころとからだのしくみI 認知症の理解I	

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

赤い字(集大成)※同日授業実施

2)カリキュラムツリーの活用により期待される効果

専門科目のカリキュラムツリーと、
介護福祉士教育の目標・コアコンピテンシー7項目



カリキュラムツリー 活用により期待される効果



カリキュラムツリーは、
介護福祉教育の目標、コアコンピテンシーを視野に入れて、
介護福祉士養成施設ごとの独自性を取り入れたカリキュラムを
ビジュアル化して示すもの。
ビジュアル化＝視覚化・見える化・イラスト化して伝えやすくすること

どういった学生を育成したいのか……

例えば ICTに強い……情報などの科目を設定
国際力に強い……海外研修などの科目を設定
介護福祉士養成課程専門科目＋独自性としての一般科目



ビジュアル化したカリキュラムツリーにより科目間連携や統合が一目瞭然になる。
キャップ制の中での科目の優先順位や、バランスが一目瞭然になる。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生にとってのメリット 活用により期待される効果 1

カリキュラムツリーには、
介護福祉士養成課程で学ぶ科目が配置

それを目に見える形で
ビジュアル化することで、

その科目の位置づけ、
学ぶ意義と動機づけ、
その科目と他の科目間連携
が明確になる

カリキュラムツリーを見ると、
ここからだのしくみを
1回生前期から学ぶのは、
生活支援技術の根拠を
学ぶために必要な科目間連携で
1回生に基本的な知識と技術を
習得することが、
今後の科目の統合に
つながっていることがわかった。
難しいけど頑張ろう！



21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生にとってのメリット 活用により期待される効果 2

カリキュラムツリーで科目間連携や
統合を意識しながら
2年間過ごすことで

介護福祉士教育の目標が
常に意識され

日々の授業への取り組みの
モチベーション向上につながる

国家試験を受験して合格後に
専門職者として活躍していく
学生にとっては
学習意欲の向上から
国家試験合格率上昇につながる

カリキュラムツリーを見てると将来、
専門職者として利用者さんの望む生活が
支援できるようになりたいと思えた。
そのためには、日々の学習が大事！
時間を大切に学びながら
国家試験に合格できるよう
積み重ねていこう！



22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉実習におけるメリット 活用により期待される効果 3

介護福祉実習の手引きに
「カリキュラムツリー」を明示して
実践現場の介護職員に説明することで

専門職者としての介護福祉士を
育成するための実習であることが
再認識されるだけでなく

目指すべき介護福祉士像の
周知にもつながる

目指すべき介護福祉士像、
コアコンピテンシー……なるほど。
この学校はこの考えに基づいて
科目を配置して介護福祉士養成に
取り組んでいるっていうことが。
意識して実習生を育てていこう！
学生に目標してもらえよう！
目指すべき介護福祉士像に恥じない
介護をしていこう！



23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3)カリキュラムツリー活用場

オリエンテーション

教員:新任教員・非常勤

学生:入学時・各科目

国家試験対策

各科目のまとめ

履修登録

各科目のシラバス(授業の到達目標)作成

介護福祉実習の手引き(学生・実習先施設の実習指導担当者)……など



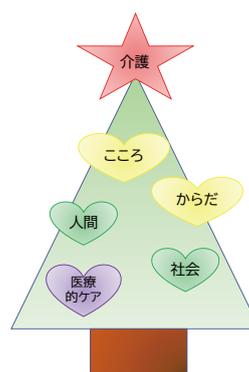
24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員としてカリキュラムツリーを作成する過程を通して
科目間連携・統合、科目の位置づけを捉えなおすことができる

客観的な授業の振り返りが自然にできて
自己研鑽につながる



カリキュラムツリーの作成は、
楽しく、やりがいにつながる！！



参考文献

- ・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
(平成31/2019年3月)「介護福祉士養成課程新
カリキュラム教育方法の手引き」
- ・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
(平成31/2019年3月)「介護福祉士養成課程に
おける修得度評価基準の策定等に関する調査研
究事業報告書」

ご清聴ありがとうございました

Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること

◆科目4 基礎：新たな視点（対象：全教員）

①地域における介護実践 ②チームケアを推進するためのマネジメント

目的・ねらい	(1) 求められる介護福祉士像を志向して介護福祉教育を展開するために、新カリキュラムにおいて教授が求められる地域における介護実践について理解する (2) 求められる介護福祉士像を志向して介護福祉教育を展開するために、新カリキュラムにおいて教授が求められるチームケアを推進するためのマネジメント方法について理解する
講師	(1) 井上 善行／日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 (2) 新口 春美／金城大学 社会福祉学部
研修概要	(1) ・新カリキュラムにおける「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」の観点の教育上の展開 ・地域共生社会の実現に資する介護福祉実践の理解 (2) OJT、OFF-JT、ティーチング、コーチング、スーパービジョンなど人材育成の方法を概説する。
時間数	(1) 40分／(2) 20分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・ 共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・ 共通3) 「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・ 「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」最終とりまとめ（令和元年12月26日 地域共生社会推進検討会） ・ その他

本科目では、介護福祉士の教育内容の見直しにおいて提示された5つの観点のうち、①「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」および②「チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充」の2点の理解を深めることを目的として授業を展開した。

(1)については、「地域における介護実践」というテーマで、利用者に対する介護実践そのものが地域で展開されていることの利用者にとっての意義の理解を図った。まず、コミュニティにおけるつながりがソーシャルサポートの重要な位置づけを担っていることについて説明した。次に、そうしたコミュニティにおける他者とのつながりが意味するところとして、利用者自身が「役割をもっている」と実感し、他者のために活動する機会をもつという、質の高い生活の一部として欠くことのできないものであることを説明した。そのうえで、教育の意図として、施設内・家庭内だけで完結しない対象者の役割づくりを検討すること、利用者が地域においてどのような役割を担っているかを発見することについて、授業で展開する必要性を示した。

(2)については、「チームケアを推進するためのマネジメント」というテーマで、チームマネジメントが介護福祉士のカリキュラムにおいて必要とされた意図および全体像の理解を図った。この点

については、旧カリキュラムでも「コミュニケーションを基盤としたチームケア」が重要視されていたところ、そのチームケアを実践するためのマネジメントの視点を導入したのが今回のカリキュラムの改正におけるチームマネジメントの主旨であることを説明した。チームマネジメントにおいて欠かせない要素として「チームの目標の明確化と共有」「目標達成に向けたケアの展開」というチームの目標達成の重要性、それを左右する介護職のモチベーションを向上させるために必要なものが「リーダーシップとフォロワーシップ」であることを説明した。また、チームマネジメントにおけるもう一つの柱であるキャリア開発の支援としての人材育成と自己研鑽の必要性についても説明した。今回のカリキュラム改正では、介護福祉士が介護チームにおいて中核的な役割を果たすことができるよう養成する必要があると見直しがされた。その役割を発揮していくためにリーダーシップやフォロワーシップ、またチーム内の介護職に対する指導、介護サービスの質の向上や人材の定着が図られるように人材育成についての学習内容が新カリキュラムでは充実された。そこで(2)では、すでに承知のことであると思うが再度言葉の意味の確認を目的とし、人材育成方法に関する用語の説明の内容とした。

令和2年度生活困窮者救済労働支援事業費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

対象：全教員

分野Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること

科目4 基礎：新たな視点

①地域における介護実践

公開期間：令和3年3月3日～12日

井上 善行 / 日本赤十字秋田短期大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

求められる介護福祉士像を志向して介護福祉教育を展開するために、新カリキュラムにおいて教授が求められる地域における介護実践について理解する。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムにおける「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」の観点の教育上の展開 地域共生社会の実現に資する介護福祉実践の理解。 	40分
(2)	<ul style="list-style-type: none"> OJT、OFF-JT、ティーチング、コーチング、スーパービジョンなど人材育成の方法を概説する。 	20分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目①の講義の流れ

- 「**地域における介護実践**」が教育上必要とされる背景とそれぞれの**意図**および**全体像**を把握する
- 「**地域における介護実践**」の教育を展開する際に必要となる、**対象者と地域の捉え方**について考察する
- 「**チームケアを推進するためのマネジメント**」が教育上必要とされる背景とそれぞれの**意図**および**全体像**を把握する

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像における「地域」の位置づけ

- 尊厳と自立を支えるケアを実践する
- 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
- 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
- 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
- QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
- 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる**
- 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
- 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
- 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる**
- 介護職の中で中核的な役割を担う
- 高い倫理性の保持

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程教育内容の見直しにおける「地域」の視点

②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上

対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められていることから、各領域の特性に合わせて地域に関連する教育内容の充実を図る

- 「社会の理解」の教育に含むべき事項に、**地域共生社会を追加**
⇒ **地域共生社会**の考え方と地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その**実現のための**制度や施策を学ぶ内容
- 「介護実習」の教育に含むべき事項に、**地域における生活支援の実践を追加**
⇒ **対象者の生活と地域との関わり**や、**地域での生活を支える施設・機関の役割**を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容

出典：「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「社会の理解」「介護実習」以外の地域における介護実践教育例

- **介護の基本**：対象者の地域生活の重要性、地域を意識した介護実践と対象者のQOLの関連
- **生活支援技術**：多様な環境における支援を可能にする技術の修得
- **介護過程**：家庭内・施設内だけに限定しない生活の実現の工夫
- **発達と老化／認知症の理解／障害の理解**：対象者の特性を理解した地域生活の可能性

全領域に関わる→科目間のすりあわせが重要

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

コミュニティについて

地域 area

縁／絆 common ties

社会的相互作用／社会交流

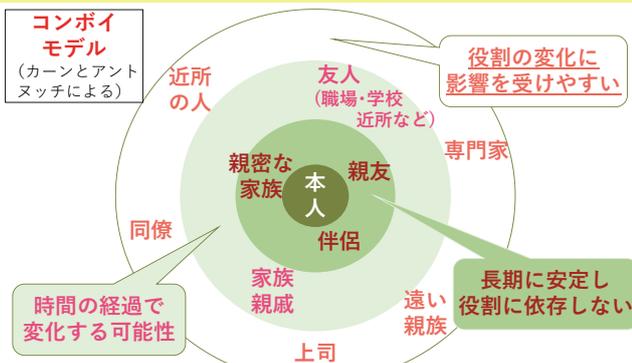
social interaction

コミュニティの力の減少 ⇒ 孤立感・疎外感不安の増大

※バーチャル・コミュニティ：地理的近接性のないコミュニティ(SNSなど)

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ソーシャルサポートのネットワーク



9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

生活の構造

生理的活動 (自分の心身のメンテナンス)

ADL/IADL、休養、睡眠など

社会的活動 (他者のために行為する)

学業、家事、就業、ボランティアなど

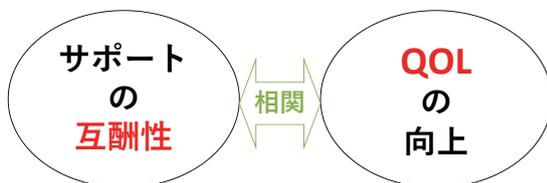
役割をもつ

余暇活動 (自由・無心になれる)

遊び、レクリエーション、娯楽、趣味など

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ソーシャルサポートの授受とQOLの関係



11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

地域共生社会の理念

制度・分野の枠や

「支える側」「支えられる側」という

従来の関係を超えて

人と人、人と社会がつながり

一人ひとりが生きがいや役割をもち

助け合いながら暮らしていくことのできる

包摂的なコミュニティ、地域や社会を創る

出典：地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会最終とりまとめ

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

対象者の生活と地域の関わり

施設内・家庭内だけで
完結しない
対象者の役割づくり

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

地域における役割の具体例

- 介護施設が存在→住民の安心感
- 介護施設が存在→地域の景観の一部
- 施設経営→地域経済の活性化
- 地域社会との交流→ダイバーシティの推進
- 対象者の存在それ自体→「世の光」

日々の介護実践で対象者から得ている「光」を
どうしたら地域の方々にも理解してもらえるか？

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

求められる介護福祉士像 における「チーム」の位置づけ

- 1 尊厳と自立を支えるケアを実践する
- 2 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
- 3 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
- 4 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
- 5 QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
- 6 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
- 7 **関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する**
- 8 **本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる**
- 9 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
- 10 介護職の中で中核的な役割を担う



高い倫理性の保持

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程教育内容の 見直しにおける「チーム」の視点

① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充

介護職のグループの中での**中核的な役割**やリーダーの下で**専門職としての役割を発揮**することが求められていることから、リーダーシップやフォロワーシップを含めた、チームマネジメントに関する教育内容の拡充を図る。

※人間と社会に関する選択科目に配置されていた「組織体のあり方、対人関係のあり方（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方についての学習」を整理

- 「人間関係とコミュニケーション」の教育に含むべき事項に、**チームマネジメントを追加**（30時間→60時間）
⇒ **介護実践をマネジメント**するために必要な**組織の運営管理**、人材の育成や活用などの**人材管理**、それらに必要な**リーダーシップ・フォロワーシップ**など、**チーム運営の基本**を理解する内容

（参考 コミュニケーションに関する教育の内容を、各領域の目的に沿って整理）

- 「人間関係とコミュニケーション（領域：人間と社会）」：人間関係の形成やチームで働くための能力の基盤となるコミュニケーション
- 「コミュニケーション技術（領域：介護）」：介護の対象者との支援関係の構築や情報の共有化等、介護実践に必要なコミュニケーション

出典：「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」について

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

チームマネジメントの全体像

チームの目標の
明確化と共有

目標達成に向けた
ケアの展開

情報の統制や共有・解釈共有・
評価の共有など

キャリア開発の支援（人材育成・自己研鑽）

コミュニケーションを基盤としたチームケア

モチベーション
目標達成に向けた

メンバーシップ

リーダーシップ

フォロワーシップ

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

対象：全教員

分野Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること

科目4 基礎：新たな視点 ②チームケアを推進するためのマネジメント

公開期間：令和3年3月3日～12日

新口 春美 / 金城大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

求められる介護福祉士像を志向して
介護福祉教育を展開するために、
新カリキュラムにおいて教授が求め
られるチームケアを推進するための
マネジメント方法について理解する。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムにおける「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」の観点の教育上の展開 地域共生社会の実現に資する介護福祉実践の理解 	40分
(2)	<ul style="list-style-type: none"> OJT、OFF-JT、ティーチング、コーチング、スーパービジョンなど人材育成の方法を概説する 	20分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

チームケアを推進するために、
必要とされる人材育成に関する
用語の基本的な説明です

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

はじめに

報告書

「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」

➡ 介護職のグループの中で中核的な役割を果たす

➡ 専門職としての役割
リーダーシップ、フォロワーシップ…その他人材育成

チームケア
を推進する
ために…

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

用語について

- J T (On-the-Job-Training)**
 職場で仕事をさせながら、あるいは仕事の合間に教えるもの
 プリセプターシップ、メンターシップ、エルダー制…
- f f - J T (Off-the-Job-Training)**
 職場を離れて行う教育
 職場外での研修、職場にある分野の専門家を招く

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

• **SD (Self Development)**

自己啓発

介護職に関連した研修・講習や資格取得…

• **スーパービジョン (SuperVision)**

解決したい事柄についてアドバイスをくれる人(スーパーバイザー)が、アドバイスを受ける人(スーパーバイジー)に対して定期的に適切な指導をしていくこと

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

• **ティーチング**

指示や助言によって相手に答えを与えること

• **コーチング**

相手から答えを引き出し、自己決定や自己解決を支援すること

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

• **リーダーシップ**

○リーダーシップとは、集団の目標達成に向けてなされる集団の諸活動に影響を与える過程

○ある状況のなかで、コミュニケーションというプロセスとしてフォロワーを目標に向けて動かす影響力

• **フォロワーシップ**

自律的・主体的にリーダーに働きかけ、支援する

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目5 専門基礎：教育方法の基礎_シラバスの意義及び授業計画（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> よい授業をつくるためには、授業の技術や方法を工夫するだけでは十分とはいえません。授業を展開するためには、その授業のシラバスや授業案を十分に行うことが、より良い授業をつくるために必要不可欠なものになります。その「シラバス」や「授業案」の意義や作成手順を学びます。
講師	<ul style="list-style-type: none"> 白井 幸久／群馬医療福祉大学短期大学部
研修概要	<p>(1) シラバスの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの記述内容と方法 学生の学習状況を理解すること、担当する科目の位置づけを把握すること、授業の目的や到達目標を設定すること、シラバスの記述内容と方法など <p>(2) 授業案の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業案の作成方法 授業案「(導入)・(展開)・(まとめ)」など
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 共通 1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（福祉編）」文部科学省

教育方法の基礎では、新任の教員などが赴任した介護福祉士養成施設の大学・短期大学・専門学校で、教育や研究を始めて、キャリアを積み重ねていく一つとして、ここでは、より良い授業をつくるための方法として、「シラバスの意義及び授業計画」について学びます。

具体的には「シラバスの意義と作成方法」と「授業案の意義と作成方法」の2つに分けて学習を進めます。

「シラバスの意義と作成方法」では、第1に「シラバスの意義」、第2に、シラバスなどを組み立てるために必要なこととして、「学生の学習状況を把握すること」と「担当する科目の位置づけを把握すること」、第3に「シラバスの作成方法」で構成されています。

第1に「シラバスの意義」では、カリキュラムを構成する介護福祉士を養成するための各教科・科目などについて、目標や教材、学習指導計画、評価の概要等を記載した計画書について理解を深めます。

第2に、「学生の学習状況を把握すること」と「担当する科目の位置づけを把握すること」の2つは、より良い授業を組み立てるための第一歩といえます。具体的には、研修で使用したパワーポイントを参照してください。

第3に、「シラバスの作成方法」では、シラバスを、介護福祉士の養成校で行われる授業の年間の学習案内であって、これから何を、何のために、いつ、どのように学ぶのかを知らせるものと位置づけて、具体的な作成方法を学びます。

「授業案の意義と作成方法」では、授業案とは授業の設計図や航海図と呼ばれているものといえます。具体的には、「授業づくりと授業案」と「授業案の作成方法」の2つに分けて学習を進めます。

「授業づくりと授業案」では、授業の成り立ちとして、学習活動における教員の一連の行為としての指示や発問などについて理解を深めます。

次に「授業案の作成方法」では、研修で使用したパワーポイントで示したようになっていますが、特に演習や実習など学生自身が主体的に取り組む活動が中心となる授業があっても、説明は授業を進めるために必要不可欠なもので、授業では重要な部分です。

この説明部分では、「鍵の概念」と「構造と目的」が大切となっています。この鍵の概念では、学生に理解してもらうことが必要となる『鍵』となる内容があります。このことが明確になれば、理解しやすくなります。また、構造と目的では、授業の中で学生に示される鍵の概念は、バラバラに示されるのではなく、お互いに関連を持って、学生に『順番』をきちんと整理し、説明できるようにするとともに、何のために説明するのか、説明の『目的』をはっきりさせておくことが大切です。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること

科目5 専門基礎：教育方法の基礎 ～シラバスの意義及び授業計画～

公開期間：令和3年3月3日～12日

白井 幸久 / 群馬医療福祉大学短期大学部

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目(シラバスの意義)の流れ

- 1.本科目の目的～はじめに～
- 2.シラバスの意義
- 3.学生の学習状況を把握する
- 4.担当する科目の位置づけを把握する
- 5.シラバスの必要性
- 6.シラバスの作成の目的
- 7.シラバスの構成事項
- 8.シラバスの作成
- 9.まとめ

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1.本科目(シラバスの意義)の目的 ～はじめに～

教育方法の基礎では、新任の教員が赴任した介護福祉士養成施設の大学・短期大学・専門学校で、教育・研究を始めて、キャリアを積み重ねていくための一つとして、ここでは、より良い授業をつくるための方法を学びます。

- 学生の学習の状況を把握すること
- 担当する科目の位置づけを把握すること
- シラバスの作成

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2.シラバスの意義①

介護福祉士養成のための授業に求められるポイント
授業を組み立てるための基本

⇓⇓⇓

教員 → 「何を教えるのか」が問われるのではなく

⇓⇓⇓

学生 → 「何ができるようになるのか」

が求められています。

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2.シラバスの意義②

○より良い授業を組み立てるには
授業の方法や授業の技術を工夫するだけでは不十分
といえます。では、何が必要なのでしょう。

🏠 **授業の前の準備が重要です。**

そのためには、授業のシラバスや授業案を十分に組み立てる
ために必要なことは、基本的には以下の事柄になります。

- ・学生の学習の状況を理解する
- ・担当の科目の位置づけを把握する

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3.学生の学習状況を把握する

A) 授業前に学生が、どの程度の知識を習得しているのか
を把握する。

B) 授業の期間内に学生がどの程度の能力を習得するのか。

⇓⇓⇓

C) 学生が、どの程度の知識や技能を習得しているかを理
解することが必要なのか。

⇓⇓⇓

授業を展開する方法を考える

D) 学生が、どの程度の知識や技能、態度を身につけな
ければならないでしょうか。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 担当する科目の位置づけを把握する

A) どのような学生が受講していて、どのような力を身につけさせるか。

- ・この視点から授業を組み立てることを考えましょう。



B) 担当する授業科目がカリキュラム体系の中で、どのように位置づけられているのかを把握する。

- ・基本的な科目情報を把握する。
例えば、必修科目・選択科目など、それぞれの科目との関連性、学生の履修状況を把握する。

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. シラバスの必要性

A) 担当する授業科目で、習得させるべき知識・技術・態度は何かを判断して、それを授業を組み立てるときに、盛り込むことが必要になります。

- ・ここで必要なことは、カリキュラムを無視したような独りよがりな授業にならないことが必要です。

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

6. シラバスの作成の目的

A) シラバスとは

学校などで行われる授業の年間の学習案内であって、これから何を、何のために、いつ、どのように学ぶのかを知らせるものです。



- ・教員と授業のはじめに学生に配布する授業計画のことです。
- ・これは、教員と学生との契約といえます。

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

6. シラバスの作成の目的

B) 授業の目標を明らかにし、授業の内容を統計立て、授業法を明示することです。

C) これらのことを公開し、自己点検を行ったり、学生による授業評価を受ける際の資料となります。

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7. シラバスの構成事項

**養成校で配られたシラバスがあれば
手元に用意してください。**

シラバスの構成事項

- ① 授業のタイトル（科目名）
- ② 授業の種類（講義、演習、実習など）
- ③ 授業の回数（時間数、単位数）
（授業期間、配当学年、授業人数（定員））
- ④ 授業の目的及びねらい

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7. シラバスの構成事項

- ⑤ 授業終了時の到達課題（到達目標）
- ⑥ 授業全体の内容の概要
- ⑦ 単位認定の方法及び基準
（試験やレポートの評価基準など）
- ⑧ 使用テキスト・参考書
- ⑨ 授業の日程と各回のテーマ（講義主題）、
内容、授業方法など

※ 事前・事後の自宅学習も含めて考えましょう。

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. シラバスの作成①－ 1

学生の学習状況と担当科目の位置づけを把握した上で、授業の目的と到達目標を設定しましょう。

⇓⇓⇓

教員が教えたい知識や技能をリストアップするのではなく、学生が習得すべき内容を具体的に設定することが大切です。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. シラバスの作成①－ 2

学生が習得すべき内容

⇓⇓⇓

授業で得た知識・技能・態度を日常生活に結びつけたり、介護現場へ応用する能力を身につけることも含まれています。

到達目標は、学生を意味上の主語として「～ができるようになる」という形式で書くことが基本となります。

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. シラバスの作成①－ 3

⇓⇓⇓

教員の立場から理想的な目標を設定するのではなく、学生の視点に立って、どのような効果をあげれば単位習得できるのかを分かりやすく記述します。

⇓⇓⇓

ここで課題となるのが、学生に求められる学習の量（必要な学習時間）です。

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. シラバスの作成①－ 4

⇓⇓⇓

📖 学習時間は、授業時間だけではなく、予習や復習の時間を含めて考えましょう。

⇓⇓⇓

授業の組み立てでは、授業時間外の学習を重視しましょう。

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. シラバスの作成②

授業の目標と到達目標が決まれば、授業方法を選択しましょう。

⇓⇓⇓

次に、一回ごとの授業計画を立てるとともに、成績評価を設定します。

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. シラバスの作成③

授業の実施方法、評価方法などが決まれば、このことをシラバスに記述します。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

9. まとめ

授業を進めるために



学生の置かれている状況や変化を理解する。



教員が「何を教えるのか」ではなく、学生が「何ができるようになるか」に重点を置いて作成することです。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目(授業計画)の流れ

- 1.本科目の目的～はじめに～
- 2.授業づくりと授業案
- 3.授業行為について
- 4.授業における説明スキル
- 5.授業案の作成方法
- 6.まとめ

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1.本科目(授業計画)の目的 ～はじめに～

教育方法の基礎では、新任の教員と新任の非常勤講師が赴任した介護福祉士養成施設の大学、短期大学、専門学校で、教育・研究を始めてキャリアを積み重ねていくための1つとして、ここでは、より良い授業をつくるための方法を学びます。

- 授業づくりと授業案
- 授業案の作成方法

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2.授業づくりと授業案

1) 授業はわかりやすく・楽しく

- 教員のパーソナリティ
- 教材の工夫
- 学習活動の工夫
- 授業の展開の工夫

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2.授業づくりと授業案

2) 授業の成り立ち ①

教員の授業行為

学習活動における教員の一連の行為であり、**指示**や**発問**で始まります。

教育内容

てんこ盛りは授業が分からなくなります。

教材

具体的で分かりやすく。

学習者(学生)の学習活動

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. 授業行為について

発問とは

- 授業の骨格を決める問といえます。
- 発問は「フルセンテンス」で話す言葉に書きましょう。

例えば ➡ 「なぜ食事をするのか」

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. 授業行為について

指示とは

- 学習活動を指示するのは教員の言葉です。
- 指示づくりのコツ
例えば ➡
「これから大切なことを4点述べます」
※ この言葉がけで学生は準備します。

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. 授業行為について

ここでは、小学校の教員の研修で示されるものですが、参考にしてください。

- **意図的にAをさせたいならBと言う。**
 - ➡ 「先生の方を向いてください」と指導するよりも
「おへそをこっちに向けてください」
 - ➡ 「G班静かにしてください」
「G班の聞き方が素晴らしいので、皆さんまねしてほしいな」

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. 授業行為について

教材

- 重要な説明はレジュメ（プリント）を配布しましょう。
- 声にだして読むとよいでしょう。

学生の学習活動

- ➡ グループワーク、作業、ロールプレイなど

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 授業における説明スキル

📖 授業における説明は、学習内容がわかるように述べましょう。

- 1) 説明のスキルを成り立たせるもの
- 2) 学生に教員の説明に耳を傾かせる工夫
- 3) 説明する内容を構成する基本的な手立て

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 授業における説明スキル

📖 1) 説明のスキルを成り立たせるもの

- 短く簡単な言い回しで述べましょう
- 大切な部分がはっきりと分かるように教材・教具の提示を工夫しましょう
- 意識的に身振り、手振りなど非言語的活動を取り入れましょう

29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 授業における説明スキル

📖 2) 学生に教員の説明に耳を傾かせる工夫

- 話す内容は、学生の理解度に合うものにしましょう
- 学習のねらいに沿った説明にしましょう
- 学生に理解させたい、考えさせたい部分を明確にしましょう
- 日常生活に関連するエピソードを取り上げましょう

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 授業における説明スキル

- 📌 3) 説明する内容を構成するための基本的な手立て
＜教材研究を通して＞
- 説明する柱立てを決めましょう
 - ➡ 中心となる説明内容の部分がどこなのかを明確にしましょう
 - 補助的な説明事項を決めましょう
 - ➡ 説明内容の中心となる部分に導くための補助的な説明事項を整備しましょう

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

1) シラバスと授業案

シラバス

- カリキュラムを構成する各教科・科目などについて、目標や教材、学習指導計画、評価の概要等を記載した計画書のことです。
 - ➡ 学生に対して、学習の到達目標等を意識させて、主体的な学習を促します。

授業案

- 指導案のことです。また、授業の設計図、航海図といわれています。
- 授業の質を高め、授業の方向をたしかなものにします。

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

2) 授業の導入部で考えること①

- 授業の導入部では
 - ⇓⇓
- 授業の冒頭から理論を展開するのではなく
 - ⇓⇓
- 前回の授業の要点を振り返る
- 今回の授業の概要を説明する

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

2) 授業の導入部で考えること②

- 授業のテーマや授業の流れをレジュメ（プリント）にする、または板書します
- 📌 導入部分では、学生に本日の授業の全体像は把握できるようにする
- 今回の授業のポイント
 - 何を学ぶことができるのか

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

3) 授業のまとめの部分で考えること

- 授業の流れを振り返る ➡ 授業のまとめのレジュメを配布
 - 次回の授業の予告 ➡ 次回の授業のテーマに即した課題
- 📌 学生が
授業時間以外に学ぶことができるようにする
- 授業を安心して進めるために

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

4) 授業案の単元・目標

- 単元を定める
指導案のテーマを定める
- 目標を設定する
指導を通して育てたい学生の姿を具体的に考える

📌 何を学ばせたいのか

📌 何を身につけさせたいのか

例えば ➡ 「身体の負担の少ない移乗・移動の介護を行うことができる」
「移乗の原則を理解する」

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

5) 授業の展開方法（教育項目）①

教育項目

導入 → 展開 → まとめ

授業時間

大学・短期大学・専門学校では
授業時間は90分間

- ・ 導入部分 10分～15分
- ・ 展開部分 60分程度
- ・ まとめ部分 10分～15分

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

5) 授業の展開方法 ②

授業内容

- ・ 実習・演習（実験）など学生が主体的に取り組む活動が中心となる実技の授業であっても、教員の説明が全くないという授業はありません
- ・ 説明は、授業を進めるに当たって必要不可欠なものであり、しかも、授業において大切な部分です

38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

5) 授業の展開方法③

🔑「鍵の概念」と「構造と目的」です。

「鍵の概念」

- ・ 授業には、学生に理解してもらいたい「鍵」となる内容があります。このことが明確になっていないと、授業は単なるおしゃべりになってしまいます。

「構造と目的」

- ・ 授業の中で学生に提示される鍵概念は、バラバラに存在するのではなく、お互いに関連をもっています。学生がより説明内容を理解できるように話す「順番」を整理します。
- ・ また、何のために説明するのか、説明の「目的」をはっきりさせておく必要があります。

39 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

6) 授業案の作成方法①

時間	展開	ねらい	講師の活動	学生の活動
各項目に要する時間を記入 例) 10分～15分	導入 ・ 授業の展開に沿って行う学習内容を明示する ・ 課題を提示する 例) 食事をする時の姿勢	・ 何故、それを行うのか意図を記入する ・ どのようにして目標に到達するのか	・ 発する言葉を明示する ・ 受講生に対して主な発問を具体的な言葉で明示する ・ 指示や発問を具体的に明示する	・ 受講生の活動 ・ 予想される受講生の反応を具体的に明示する

40 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

6) 授業案の作成方法②

時間	展開	ねらい	講師の活動	学生の活動
各項目に要する時間を記入	展開 ・ 目標に到達させるために何を入れ込むのか、何をおさえるのか	・ 根拠を記述する	例えば ・ 教員が介護技術のデモンストレーション（見本）を見せる ・ 見本を2回見せて、学生にメモをとらせる ・ 何故そうするのか。介護技術の根拠を考え、理解させる	・ 学生の活動 ・ 予想される受講生の反応を具体的に明示する。

41 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 授業案の作成方法

6) 授業案の作成方法③

時間	展開方法	ねらい	講師の活動	学生の行動
各項目に要する時間を記入する	まとめ ・ 授業の振り返り ・ 次回の予告			

42 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

6. まとめ

- 1) 授業案を作成する方法を学ぶ
 - 教員の教授行為 ➡ 指示や発問から始まる
- 2) 教育内容
 - てんこ盛りは学生にとって授業内容が理解できなくなる

43 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

参考文献等について

- 共通1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」
- 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（福祉編）」文部科学省
- 「まんがFDハンドブック おしえてFDマンVol【新任教員編】」京都FD開発推進センター
- 「教員養成に関する資料（平成30年度用）」（株）日本医療企画

44 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目6 専門基礎：授業の評価方法_授業評価の基礎（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	・授業の実施が終了すれば、その教育効果を検証するために「成績評価」を行い、学生の理解度を把握することで、次年度の講義の改善等を図るために行います。その成績評価の基礎を学びます。
講師	・白井 幸久／群馬医療福祉大学短期大学部
研修概要	(1) 成績評価の目的と機能 ・成績評価の目的 ・教育・学習評価の種類（講義、演習、実技など） ・教育評価機能など (2) 成績評価の方法と特徴
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分
参考文献	・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（福祉編）」文部科学省

授業の評価方法では、各介護福祉士の養成校の学習活動の特質、評価の観点や評価の基準、評価の場面や学生の発達の段階に応じて、学生との対話、観察すること、ノート、学習カード、レポート、演習、実技、ペーパーテスト、質問紙など様々な評価方法の中から、それぞれの学習場面において、学生の学習状況などを評価ができる方法を考えていきます。

具体的には、授業評価の基礎として「成績評価の目的と機能」と「成績評価の方法と特徴」の2つに分けて学習を進めます。

「成績評価の目的と機能」では、第1に「基準による評価」、第2に「実施段階による評価」、第3に「評価する場合の注意点」、第4に「授業の到達目標と評価基準」で構成されています。

この「成績評価の目的と機能」では特に「基準による評価」と「実施段階による評価」の2点について説明します。

第1に「基準による評価」では、「評価の必要性」と「評価方法の種類」の2つからなっています。「評価の必要性」では、介護福祉士養成の各科目の学習指導評価については、学習指導の段階に応じて、学生の学習状況を適切に把握することを学びます。

第2に「実施段階による評価」では、評価を大きく分けると、「基準による評価」と「実施の段階による評価」の2種類に分けられています。

- ① 「基準による評価」には、「相対評価（他人と比べる）」、「絶対評価・到達度評価（教育目標と比べる・他人と比べない）」、「個人内評価（学生自身と比べる）」の3つからなっています。
- ② 「実施段階による評価」には、「診断的評価（一人ひとりの学生に適した指導を行うために、指導前に学生の状況を把握する方法）」、「形成的評価（学習指導の過程で学習の到達度を評価する方法）」、「総括的評価（指導後のまとめとして行う方法）」の3つからなっています。

「成績評価の方法と特徴」では、授業の場面や学習内容に応じて、以下のいくつかの方法を用いています。例えば、授業の中で学生の発言や行動に対して評価の言葉を繰り返すことや、机の間を回って指導を行う場合、学生のノートやプリント(ワークシート)の記入状況を見て、支援を行うとともにチェックなどを入れて評価を行うことができます。また、授業の終了後に、ノートやプリント(ワークシート)を集めて、コメントを付けて、評価を学生に伝えることができます。このように、いくつかの方法を用いて多面的に評価することが大切なことといえます。いくつかの評価方法を以下のように示します。

「観察法(学生の活動状況や態度などを観察します)」、「自己評価(学生自身が、自分の学習を振り返ります)」、「相互評価(学生同士がお互いを評価し合います)」、「パフォーマンス評価(習得した知識や技術を使いこなす能力を評価します)」、「ポートフォリオ評価(教員が、学生の学習活動の過程や成果などを計画的に集めたもの)」、「ペーパーテスト(教員が学生の学習状態を捉えて作成したテスト)」などの6つがあります。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅱ 介護教員講習会の基礎分野に関すること

科目6 専門基礎：授業の評価方法 ～授業評価の基礎～

公開期間：令和3年3月3日～12日

白井 幸久 / 群馬医療福祉大学短期大学部

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目(授業評価の基礎①)の流れ

はじめに

1. 評価の必要性
2. 評価方法の種類
3. 基準による評価・実施段階による評価
4. 指導と評価の一体化
5. 介護福祉士養成の領域
6. 評価する場合の注意点
7. 授業の到達目標と評価基準
8. まとめ

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目(授業評価の基礎①)の目的 ～はじめに～

ここでは、各介護福祉士養成校の学習活動の特質、評価の観点や評価の基準、評価の場面や学生の発達段階に応じて、学生との対話、観察すること、ノート、学習カード、レポート、演習、実技、ペーパーテスト、質問紙などさまざまな評価方法のなかから、それぞれの学習場面において、学生の学習状況などを評価できる方法を考えていきます。授業評価の基礎について、以下の二点を学びます。

- ①評価方法
- ②評価方法の特徴

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の必要性

- 介護福祉士養成各科目の学習指導の評価は、学習指導後の学生の状況を記録するために行うものとして捉えていますか。
- では、評価がなぜ必要なのでしょう。

学習指導の段階に応じて、学生の学習状況を適切に把握することで何ができるのか。

- ☞ ◆ 教員が自分自身の授業の進め方の見直しができます。
- ◆ 個に応じた指導の充実が図れます。
- ◆ 学生自身が自分の学習を見つめ直し、その後の学習に役立てることができます。
- ◆ 教員は学習評価に関する妥当性や信頼性を高めるとともに、説明責任を果たすことが大切です。

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. 評価方法の種類

- 評価は大きく分けると、「**基準による評価**」と「**実施の段階による評価**」の二種類に分けられています。
- 何のために評価を行うのか、その目的を明らかにすることから始めましょう。
- まず最初に「**基準による評価**」から考えてみます。

1. 評価方法①～基準による評価～
ここでは、**相対評価**（他人と比べる）、**絶対評価**・**到達度評価**（教育目標と比べる・他人と比べない）、**個人内評価**（学生自身と比べる）
2. 評価方法②～実施段階による評価～
ここでは、**診断的評価**、**形成的評価**、**総括的評価**
3. **指導と評価の一体化**

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. 評価方法①～基準による評価～

基準による評価

- A) 相対評価**（他人と比べる）
相対評価とは、学生の属する集団の成績水準に基づいて、個人の成績を評価する方法で、一般的な5段階の評価や偏差値に該当します。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3.評価方法①～基準による評価～

B) 絶対評価・到達度評価

(教育目標と比べる・他人と比べない)

教育目標などを基準として、どこまで達成しているのかを評価する方法です。

評価表には、教育目標から到達度が示され、「できる、努力が必要、できない」などの段階評価が用いられます。

C) 個人内評価 (学生自身と比べる)

個人内評価では、講義の開始時の知識や技術を終了時と比べて、個人のなかでどれだけ成長したかを評価します。

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3.評価方法②～実施段階による評価～

実施段階による評価

D) 診断的評価

診断的評価とは、一人ひとりの学生に適した指導を行うために、指導前に学生の状況を把握する方法です。

☞ 学習の前提となる要因

基礎的な知識や技術が備わっていますか？

☞ 学習内容に関する「興味」・「関心」の傾向

この傾向を知ることによって

➡ 単元の授業案の作成や授業の構想の資料となります。

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3.評価方法②～実施段階による評価～

E) 形成的評価

形成的評価とは、学習指導の過程で学習の達成度を評価する方法です。

☞ この形成的評価によって学習活動と指導の方法を修正することがあります。

- ・ 教員は、授業中の学生の様子を観察しながら、適切な声掛けをします。
- ・ 授業の進め方を修正する場合があります。
- ・ 補充指導を行う場合があります。

☞ 上記のように、形成的評価と指導が一体的に授業が展開されることが大切です。

☞ 単元の途中でも、形成的評価を用いて、次に続く指導の改善と個別の支援に取り入れていくことが必要です。

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3.評価方法②～実施段階による評価～

F) 総括的評価

総括的評価は、指導後のまとめとして行います。

☞ 単元等の学習を総合的に評価する方法です。

☞ この評価によって、以降の学習や指導に役立てることにつながります。

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3.評価方法②～実施段階による評価～

実施段階による評価は、

「**診断的評価**」「**形成的評価**」「**総括的評価**」
の**3つの分類**になっています。

☞ この3つの分類は、ベンジャミン・ブルーム (Benjamin Bloom) によって提唱された。

- ・ ベンジャミン・ブルーム (Benjamin Bloom)、アメリカの心理学者 (1913年～1999年)
- ・ 1956年に「教育目標の分類学：認知領域」を発表されました。
- ・ このなかで、教育目標を「知識」、「理解」、「応用」、「分析」、「統合」、「評価」の6つに分類されました。

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 指導と評価の一体化

● 学習指導と評価

⇓⇓⇓

● 授業案などの作成 (Plan)

⇓⇓⇓

● 授業案を踏まえた指導の実施 (Do)

⇓⇓⇓

● 学生の学習状況や授業などの評価 (Check)

⇓⇓⇓

● 授業内容などの改善 (Action)

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 指導と評価の一体化

PDCAサイクルで繰り返し行われていく
ことが必要なことです

このサイクルを機能させていくことが
評価の場面・方法や時期を工夫する



評価結果を学習指導の工夫・改善の
工夫・改善に生かすことが必要です

・一連の評価活動が学習のプロセスの一部となっています。

※「社会福祉士学校及び介護福祉士学校の設置及び運営に係る指針について」
(第9次改正 平成30年8月7日、30文科高第327号、社援発0807第3号)

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 介護福祉士養成の「領域」 授業評価の基準 ①

法第40条第2項第1号の介護福祉士学校関係

領域「人間と社会」の目的

- 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。
- 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。
- 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。
- 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。
- 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 介護福祉士養成の「領域」 授業評価の基準 ①

法第40条第2項第1号の介護福祉士学校関係

領域「介護」の目的

- 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。
- 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。
- 本人、家族等との関係性の構築や、チームケアを実践するためのコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。
- 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。
- 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。
- 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 介護福祉士養成の「領域」 授業評価の基準 ①

法第40条第2項第1号の介護福祉士学校関係

領域「こころとからだのしくみ」の目的

- 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
- 認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
- 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. 介護福祉士養成の「領域」 授業評価の基準 ①

法第40条第2項第1号の介護福祉士学校関係

領域「医学的ケア」の目的

- 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

6. 評価する場合の注意点

評価で心がける基本は、客観的で公平であることが求められています。

評価が客観的で公平であれば、学生自身が妥当と考え、納得できるはずですが、では、どのようにすればよいのでしょうか。

- シラバスに記載することから始まります。
科目の特質に基づき評価基準を明確にすること。
- 学生に評価基準を説明し、了承をえることです。
初回の授業で、評価基準を明らかにすることで、学生の学ぶ方向性が明確になります。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7.授業の到達目標と評価基準

授業の到達目標とは、授業を通じて、教員が到達したい理想を示すものではなく、学生が到達すべき水準を明確に示すことが重要となります。

- ☞ そのために必要なことは、
学生を主語にして、学習内容を具体的に、
わかりやすく書くことだといえます。

⇓⇓⇓

- 授業の到達目標や評価基準を明確にすることで、学生の学習意欲を高めることにつながると考えます。
- ➡ 教員が学生に示すことで、「評価の公平性を担保」することになります。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7.授業の到達目標と評価基準

厳格な評価とは

厳格な評価をするためには、試験を難しくし、合格するための最低点を高くすることではありません。

- ➡ このことは、多くの学生を意図的に落とすことにはなりません。

⇓⇓⇓

シラバス等で示した評価方法（到達目標・評価基準）を厳格に守って公平性・客観性を保つことにあります。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. まとめ

ここでは、各介護福祉士養成校の学習活動の特質、評価の観点や評価の基準、評価の場面や学生の発達段階に応じて、学生との対話、観察すること、ノート、学習カード、レポート、演習、実技、ペーパーテスト、質問紙などさまざまな評価方法のなかから、それぞれの学習場面において、学生の学習状況などを評価できる方法を考えていきます。

- 1) 評価方法の種類
 - 評価は大きく分けると、「基準による評価」と「実施の段階による評価」の二種類に分けられています。
- 2) 授業の到達目標と評価基準
 - 学生が到達すべき水準を明確に示すことが重要となります。

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目（授業評価の基礎②）の流れ

はじめに

1. 評価の具体的な方法
2. 単元における評価
3. まとめ

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目（授業評価の基礎②）の目的 ～はじめに～

ここでは、各介護福祉士養成校の学習活動の特質、評価の観点や評価の基準、評価の場面や学生の発達段階に応じて、学生との対話、観察すること、ノート、学習カード、レポート、演習、実技、ペーパーテスト、質問紙などさまざまな評価方法のなかから、それぞれの学習場面において、学生の学習状況などを評価できる方法を考えていきます。
授業評価の基礎について、以下の二点を学びます。

- ① 評価方法
- ② 評価方法の特徴

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法

授業評価は、学習場面や学習内容に応じて、いくつかの評価方法を用いて行うことが必要になります。

具体的には（授業中では）

- 学生の発言や行動に対する、教員の評価を繰り返しています。
- 机間の指導では、学生のノートやワークシート（レジュメ）の記入状況をみて行います。
- 授業の終了後に、ノートやワークシート（レジュメ）を回収し、コメントを付けて学生に戻すことで、評価を伝えることができます。

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法

主な評価の方法としては以下の方法が考えられます。

- ① **観察法** ➡ 学生の活動の活動状況や態度などを観察します。
- ② **自己評価** ➡ 学生自身が、自分の学習を振り返ります。
- ③ **相互評価** ➡ 学生同士がお互いを評価し合います。
- ④ **パフォーマンス評価** ➡ 習得した知識や技術を使いこなす能力を評価します。
- ⑤ **ポートフォリオ評価** ➡ 教員が、学生の学習活動の過程や成果などを計画的に集めたもの。
- ⑥ **ペーパーテスト** ➡ 教員が学生の学習状態を捉えて作成したテストです。

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法

- 評価を適切に行うためには、できるだけ多様な評価を行うとともに、多くの情報をえることが大切です。
- 多様な評価を行うことだけに追われてしまえば、十分に学習指導ができなくなるおそれがあります。
- 学生の学習状況を適切に評価を行い、その評価を指導に生かすことが重要になります。

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法

- 後から説明しますが、ペーパーテストは、評価の1つの方法としては有効ですが、このペーパーテストで得られる結果が、学習状況の全てを表すものではありません。

⇓⇓⇓

- そこで、例えば、ワークシートなどへの記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」の評価にも活用することが可能であり、学生の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられます。

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法

ここでは、

- ①観察法
- ②自己評価
- ③相互評価
- ④パフォーマンス評価
- ⑤ポートフォリオ評価
- ⑥ペーパーテスト

を詳細に見てみましょう。

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ①観察法

①観察法

- 教員が、さまざまな学習場面で、学生の活動状況や態度を観察することです。
- さまざまな学習場面などの観察では、評価に重要な資料となります。

例えば

➡ 「生活支援技術」の「自立に向けた家事」のなかで、調理実習で、『関心・意欲・態度』を学生の行動を観察で評価する場合。

例えば、評価基準を「見本を見て、材料を適切な大きさに切る」と設定したとします。

29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ①観察法

⇓⇓⇓

教材を切るという学生の行動を観察するとともに、評価基準に照らして、その状況を評価することになります。

⇓⇓⇓

評価するための観察に重点が置かれてしまえば、適切な学習指導ができなければ、何のために評価するのが、分からなくなってしまいます。

- 評価すべき行動や状態を規定しておく必要があります。
- 学生の行動を予測して、つまずきに対応できるようにしなければなりません。

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ②自己評価

②自己評価

- 自己評価では、学生自身が評価する主体となって、自分自身の学習を振り返ることで。
 - 学んだことを自分から評価することによって、主体的に学習できるように促します。
- ⇓⇓⇓
- 学生は、教員が学生自身を受け入れてもらっているという、思いがなければなりません。
 - 自己評価で学生自身が思ったことや、気づいたことを率直に話すことができなくなることもあります。

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ②自己評価

- 学生が否定的な自己評価があったとしても、教員は、認めたり、励ましたりすることによって、次の学習につなげられるような自己評価になるとよいと思います。
- ⇓⇓⇓
- 学生と教員の良好な人間関係があることによって、適切な自己評価つながるといえます。

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ③相互評価

③相互評価

- 相互評価では、学生同士がお互いを評価し合う方法です。
- 大切なことは、学生がお互いに信頼して、認め合うことが、相互の評価が成立することにつながります。

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ④パフォーマンス評価

④パフォーマンス評価

- パフォーマンス評価では、習得した知識や技術を使いこなす能力を評価します。
- 評価の方法では、日常的な観察や対話による評価、また、筆記テストや実技テストによる評価などが含まれます。

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ⑤ポートフォリオ評価

⑤ポートフォリオ評価

- 教員が学生の学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集めたものです。
- このポートフォリオを用いて、学習のプロセスや成果を長期的に評価する方法です。
- 学生同士の相互評価や教員のコメントなども加えながら、多面的に評価を行います。
- 長期の指導計画を実施する場合や、「思考力・判断力・表現力」のような長期間かけてはぐくまれる能力の評価には有効な評価となっています。

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 評価の具体的な方法 ⑥ペーパーテスト

⑥ペーパーテスト

- 教員が学生の実態を的確に捉え、効果的な指導をするために作成することがテストです。

⇓⇓⇓

- 単元ごとや1単位時間ごとに行う小テストと期末テストなどの定期テストがあります。
- テストの結果をもとにして、次の授業の改善に結び付けていくことが重要といえます。

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. 単元における評価

単元目標と評価基準の設定

☞ 単元目標は、その単元の学習活動を通じて学生たちが身につけさせようとする目標です。

☞ 資質や能力を明確にするために、観点別に設定しましょう。

⇓⇓⇓

☞ 各科目などの介護福祉士養成のカリキュラム内容をしっかりと読み、学生の実態把握のための診断的評価を取り入れ、適切な目標を設定しましょう。

⇓⇓⇓

☞ 目標の現実状況を判断する評価基準を設定します。

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. まとめ

- 評価には、「観察法」、「自己評価」、「相互評価」、「パフォーマンス評価」、「ポートフォリオ評価」、「ペーパーテスト」などがあります。
- 評価を適切に行うためには、できるだけ多様な評価を行うとともに多くの情報をえることが大切です。
- 単元目標は、その単元の学習活動を通じて学生たちが身につけさせようとする資質や能力を明確にするために、観点別に設定しましょう。

38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

◆科目7 介護過程の展開方法A（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。 ・介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。 ・「Ⅲ-8. 介護過程の展開方法B」研修を受講するためのレディネス形成ができる。
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・上田 剛／河原医療福祉専門学校 介護福祉科
研修概要	<p>(1) 概論：「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像（専門職として自律的に介護過程の展開ができる）を示す。</p> <p>(2) 小事例からの理解：小事例を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。（容易に想像できる事例を使用）</p>
時間数	30分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・共通4) 「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

介護過程について聞いたことはあるがよく分からない、説明できない等「新任教員・非常勤教員」向けに作成したものであり、詳しい説明については「科目の目的」にもある「介護過程の展開方法B」へつなげるための内容としました。そのため専任教員にとっては当たり前の内容であるため、本科目の対象者が「新任教員・非常勤教員」であることをご理解頂きたいです。「介護過程の展開方法B」への接続を考慮して進めております。まず、前半の内容は、介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけについて説明しております。後半は、「介護過程の展開」を、「旅行計画」という馴染みのある計画をする過程から、介護過程の展開について身近なものとする内容です。

本科目の工夫した箇所は繰り返しになりますが、「新任教員・非常勤教員」の理解が深まり、それぞれ担当する科目と「介護過程」の関係の理解度の向上、難しいと勘違いされている「介護過程」について、特別な事ではなく普段から考えられている事であり、身近な行為として理解できるようにしております。小事例は「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書～介護過程の思考過程の理解を深める～旅行計画の作成」から引用しており、広く配布されている事から使用が容易であることから、本研修においても使用いたしました。

研修を行う上で配慮すべき事は、初めから高い達成度は求めず、客観的な情報を基に自由な発想を促し、具体的に考察することの楽しさを教員自ら実感し「介護過程」の理解が深まるような配慮が必要と考えますが、本研修を受ける方のレディネスの把握は必要です。

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

科目7 介護過程の展開方法A

公開期間：令和3年3月3日～12日

上田 剛 / 河原医療福祉専門学校

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。
- 介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。
- 「介護過程の展開方法B」研修を受講するためのレディネス形成ができる。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	【概論】 「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像(専門職として自律的に介護過程の展開ができる)を示す。	30分
(2)	【小事例からの理解】 小事例(介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書)を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。(容易に想像できる事例を使用)	20分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成教育における 介護過程の位置づけ

「介護過程」は他の関連科目で学んだ専門知識や技術を、実際の利用者支援に向けてどのように生かしていくのかを考える科目である。

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の展開を軸とした介護実習や、 介護実践の際に不可欠な支援方法

介護実習では、一連の介護過程を展開する中から、専門的で計画的な介護サービスを提供できる能力を身に付ける。

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程とは①

「利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス」をいう。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程とは②

介護過程は、介護実践の根拠（エビデンス）となるものであり、利用者の生活支援において、個別ケアの方向性や具体的な介護方法を示すものである。

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程とは③

対象者が一人の人間として、自分らしく日常生活を営むための支援方法を探求する過程であることを意味している。

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

具体的には

- 人間として当たり前の日常生活を送るうえでの生活課題を解決するための、科学的活動のプロセスです。

※生活課題

生活上の困難、支障、本人の望む生活が実現できていないなど

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の意義

介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者のQOLの向上につながる。

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の目的

介護過程の目的は、利用者が望む生活を実現する上で生じている生活課題を解決することにある。

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の構成要素



12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

まとめ

- 介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。
- 「介護過程」以外の教科の協力が必須である。
- 介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。
- 「介護過程」を実践する上で、知識・技術を活用するためには、倫理・理念も必須である。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	【概論】 「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像(専門職として自律的に介護過程の展開ができる)を示す。	30分
(2)	【小事例からの理解】 小事例(介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書)を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。(容易に想像できる事例を使用)	20分

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

小事例からの理解

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

事例5：介護過程の思考過程の理解を深める

配付資料5	旅行計画の作成(河原医療福祉専門学校)
講義・演習の特徴	介護過程の課題解決的思考法を理解する
教育のねらい・効果	<ul style="list-style-type: none"> 旅行という学生にとっても身近な問題について考える →介護過程の思考過程を理解する 「旅行計画を作りましょう」で演習の流れを提示 →問題点を予想→解釈・関連付け・統合化→計画立案 登場人物の情報(体の問題、本人の希望等)を項目番号にする →考察時間を十分にとりつつ演習時間を短縮する

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

①はじめに考えてみましょう

- 眞鍋さんは、これから友達の前さん、河野さん、阿部さんの4人で、旅行に行こうと思います。情報としては、どんなことが必要でしょうか。
- ①何処へ行きたいか
 - ②どんな旅行がしたいか、交通手段は?
 - ③日程はいつがいいか
 - ④費用の上限は
 - ⑤体調は

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②それぞれの情報(アセスメント)①

①眞鍋さん(65歳)

近県で話題性がある所に行きたい。美味しいものが食べたい。膝関節痛があるため、忙しい旅程は難しい。仕事はしているが自由に休める。経費的に問題ない。

②原さん(70歳)

温泉に浸かりたい。有名な観光地に行きたい。昔働いていた姫路を見たい。魚好き、お肉が苦手。体力には自信がある。仕事はしていない。経費的に問題ない。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③それぞれの情報（アセスメント）②

③河野さん（68歳）

四国以外の近県に行きたい。列車の旅を楽しみたい。お魚が食べたい。膝関節痛があるため、ゆっくり楽しみたい。自営業のため時間は自由。経費的に問題ない。

④阿部さん（69歳）

城好き、旅行好き。寒くなってきたので温かい物が食べたい。首と肩が痛い症状あり。仕事はしていない。経費的に問題ない。

※初めに声掛けした眞鍋さんがお世話人を買って出た。全員昼間からお酒を楽しみにしている。子ども孫からお土産を期待されている。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

旅行計画を作りましょう

- ① まずは4人の情報を基に旅行中に起こる可能性の高い問題点を「まずはじめに考えてみましょう」の5点に絞って解釈・関連付け・統合化してみましょう。（個人作業）
- ② 続いて分析して浮かび上がった問題点を更に考察して「旅行計画」に書き込みましょう。（個人作業）
- ③ 2～3人で5点の必要な事についてまとめて発表出来る様にして下さい。（グループワーク）

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

この情報をもとに 計画立案

- 岡山経由で新幹線で姫路へ。基本的に駅から姫路城までは歩く。膝が痛くなったら姫路からタクシーに乗る。温泉までは旅館から送迎車を依頼する。
- 姫路城は、眞鍋、河野は膝が痛くなったら天守閣には上がらず下で待つ。
- 初日の、姫路城の疲れを温泉でゆっくり癒す。
- 経費は、JRを除き、〇〇万円集金し、お世話人が支払う。
- 食事は、4人の嗜好も考慮して、魚中心で野菜たっぷりのコースを選ぶ。
- お土産は、2日目に時間を取り、最後にする。

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

このように 要望をアセスメントして

具体的な計画を 立て実行することは、

普段からされていること！

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

まず介護過程とは？①

- 介護は意図的に行われる行為であり、介護過程は**介護を提供するまでの道筋を科学的思考と問題解決志向**に基づいて説明していくものである
- その人がその人らしく（個別的）生きるための多面的で根拠（なぜそうするのか、その理由を説明できること）ある援助計画

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

まず介護過程とは？②

- 介護を進めていくうえでの手順や経過（目的は1つ方法はたくさん）
- **思考過程を明確**にすること
- アセスメント・計画・実施・評価で構成されている
- 利用者が望む生活の実現に向けて、意図的・計画的な介護を展開するためのプロセス（過程）

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

情報の解釈・関連づけ・統合化用紙

資料の番号 4人それぞれ の順番に 記載番号	旅行計画 4人それぞれの情報を解釈・ 関連づけ・統合化する(～ではないか)	情報を解釈・関連づけ・統合化して 立てた旅行課題 (～という事から) (旅行課題)	新しい解釈に するために 検討しない といけない 点がある	資料の番号 4人それぞれ の順番に 記載番号	旅行計画 4人それぞれの情報を解釈・ 関連づけ・統合化する(～ではないか)	情報を解釈・関連づけ・統合化して 立てた旅行課題 (～という事から) (旅行課題)	新しい解釈に するために 検討しない といけない 点がある

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

旅行計画

お客様氏名 _____ 旅行大目標 _____ 作成者氏名 _____

旅行課題も解決した状態 中目標 (～できる)	中目標を解決するための 小目標 (中目標を中受するための目標) (～する)	旅行の手助け	手助けの具体的方法	手助けの 頻度	手助けの 評価

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

おわりに

- 「介護過程」は苦手ではなく、楽しい
- 利用者の方を幸せにする計画書
- 教員も楽しんでほしい
- ネガティブな考えは利用者を不幸にする
- そんなはずはないのだが・・・
- 科学的で根拠ある介護実践ができる介護福祉士の養成
- 更に学びを進めたい方は「介護過程の展開方法B」へお進みください。

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目8 介護過程の展開方法B（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する ・介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげることができる
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・平野 啓介／旭川大学短期大学部 生活学科生活福祉専攻
研修概要	<p>(1) 概論：介護過程およびその展開：介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項を示す。次に、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）について、養成校として教授する部分および視点を共有する</p> <p>(2) 実践事例の素材紹介：介護協発行「報告書（下記文献）」に掲載されている実践事例を紹介し、教材のブラッシュアップへつなげていく</p>
時間数	(1) 40分／(2) 20分 計 60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通2) 「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3) 「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・共通4) 「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

「介護過程の展開方法B」は、専任教員の皆様を対象としたモデル研修でした。

介護過程は、利用者本人の望む生活の実現に向け、アセスメント、計画立案、実施、評価のサイクルに基づき、かつ介護の実践根拠を利用者、家族、同職種、他職種へ示す重要なものであり、介護福祉士養成の中核科目ともいえます。

それゆえ養成校の諸先生方から、多様な生活経験のある学生にどう理解してもらうか、介護過程の教授や指導方法、教材開発の確立に日々ご苦勞されていることを耳に致します。介護過程の理解は、介護実習の成果にも直結することから、実習施設（指導者）との連携も網羅しながら展開していく必要があります。

本モデル研修では、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の調査・研究報告書を参考にし、研修目的を2つにしました。第一に概論として「介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する」、第二に事例紹介として「介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげる」としました。

概論は約40分間で、介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）において教授する部分および視点に触れました。事例紹介は約20分で、「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書（2020）」にある全国の養成校教員が実践している取り組み事例を紹介させていただき、本モデル研修担当の指導経験も加えました。

介護過程は、介護福祉士養成教育の「介護」領域に含まれますが、サービス利用者の最善の利益を担保するため「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の領域で得た知識、技術を総合的に活用していく必要があります。そのためには、指導教員間で「介護福祉士養成課程にお

ける修得度評価基準」と「教育に含むべき事項と留意点」を事前に共有化しておくことが極めて重要であると考えます。

介護過程の目的・意義・構成要素等を教授する際には、誰のための介護過程なのかということ。アセスメントでは、国際生活機能分類（ICF）の構成要素に代表されるように様々な視点から俯瞰する力と生活課題（ニーズ）導き出す力が求められます。計画立案では、利用者、家族はもちろん、同職種で標準化した介護ができ、さらに多職種連携を推進させるための文章化・言語化が求められます。実施では生活支援技術で学修する介護の原則と実施記録が必要です。評価は、計画立案の通り実施できたか、アセスメントも含めた成否を確認する力が求められます。列挙した内容はほんの一部ではありますが、介護過程を単に循環させるだけではなく、専門職としての倫理観、介護観、利用者との関係性を醸成させつつ、サービス利用者の人生に関わっていくという点も教授する必要があります。

本研修は介護過程の展開方法について教授する共通部分を示すに留まりました。介護過程を研究領域とする諸先生方のご意見等々あると存じますが、今後も中核科目である介護過程のより良い教授方法を検討できれば幸いです。

主な対象：専任

分野Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

科目8 介護過程の展開方法B

公開期間：令和3年3月3日～12日

平野 啓介 / 旭川大学短期大学部

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する。
- 介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげることができる。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	【概論】介護過程およびその展開 介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項を示す。 次に、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程(アセスメント、計画、実施、評価)について、養成校として教授する部分および視点を共有する。	40分
(2)	【実践事例の素材紹介】 介護協発行「報告書」に掲載されている実践事例を紹介し、教材のブラッシュアップへつなげていく。	20分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本研修の目的



【概論】介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する

- ①「本人の望む生活の実現に向けて」→「利用者の最善の利益」探求
- ②介護過程の展開経験は「実習施設」で
- ③介護過程→5者(利用者、家族、学生、実習指導者、教員)が関係
- ④学生を送り出す側である養成校の役割【現状(課題)をふまえて】

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

【概論】介護過程およびその展開

- 1 介護過程の教育内容のねらい
- 2 教育に含むべき事項
- 3 ケアプランと個別介護計画の関係性
- 4 介護過程の意義と目的
- 5 展開過程の教授する部分および視点
 - (1) アセスメント
 - (2) 計画
 - (3) 実施
 - (4) 評価

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本研修の参考・引用文献

	「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」 (2020)
	「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 介護福祉士養成課程 新カリキュラム教育方法の手引き」 (2019)
	「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 (2019)

【発行】いずれも公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1 介護過程の教育内容のねらい

平成19年改正

他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案。適切なサービスの提供ができる能力を養う学習とする。

↓
 社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会（介護福祉士養成課程における教育内容の見直し〔平成30（2018）年2月15日〕をもとに新カリキュラム内容を報告

2019年度から順次新カリキュラム導入

本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習。

介護過程の展開・指導の現状

◆介護福祉士養成課程におけるカリキュラムの見直し

介護福祉の専門職として、介護職チームの中核的な役割を果たし、認知症高齢者や様々な障がいを抱えた方等の増加に伴う介護ニーズの複雑化、多様化、高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要がある。

↓
 具体的実現のために「介護過程」が重要

◆授業展開・指導の現状（課題）

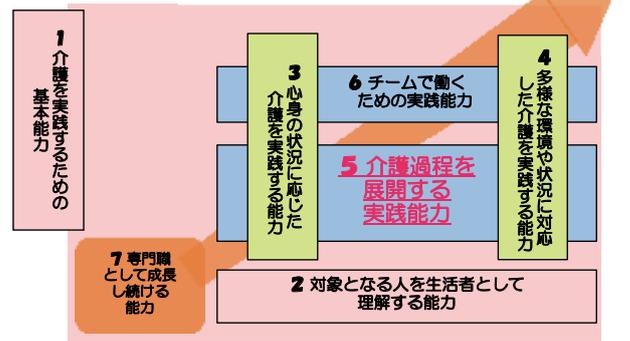
- (1) 介護過程の教授、指導方法、教材開発の確立
- (2) 多様な生活経験のある学生指導
- (3) 養成校で用いるテキスト、介護過程の書式の差異
- (4) 養成校（教員）と実習施設（指導者）の連携
- (5) 実習指導者の介護過程の指導経験・人材確保・キャリア 等

2 教育に含むべき事項 介護過程（150時間）教育に含むべき事項と留意点

教育に含むべき事項	留意点
①介護過程の意義と基礎的理解	介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。
②介護過程とチームアプローチ	介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画（介護計画）との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。
③介護過程の展開の理解	個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。

介護福祉士養成課程における 修得度評価基準としてのコアコンピテンシーとその構造

コアコンピテンシー（core competency）とは「中核となる能力・実践能力」



3 ケアプランと個別介護計画の関係性



【注】連携者総合支援法においては、以下のように置き換えられます
 ①ケアプラン＝サービス利用計画、②介護支援専門員＝相談支援専門員、③個別介護計画＝個別支援計画
 ④介護福祉士＝生活支援員

4 介護過程の意義と目的

- (1) 介護過程とは
 「利用者が望む生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセス」をいう。
- (2) 介護過程は、介護実践の根拠となるものであり、利用者の生活支援において、個別ケアの方向性や具体的な介護方法を示すものである。
- (3) 利用者が一人の人間として、自分らしく日常生活を営むための支援方法を探求する過程であることを意味している。

学生に教授している部分および視点

- ①「意図的に行う介護の実践」であり、それには全て根拠がある。我々は、その根拠を説明できるところまで求められる。
- ②生活場面“さりげなく”実践（それゆえわかりづらい）
- ③日常の多くの時間、利用者とかかわる。実践内容は、利用者の尊厳に影響を及ぼす。我々が行う実践には責任が伴う。
- ④介護過程の道筋にそって思考する。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の意義

介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者のQOLの向上につながる。

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

- ①個別性
例 排泄介助（トイレ誘導…オムツを交換…動作は同じに見える）でも排泄介助に至った背景・プロセス・実践の根拠は異なるはず…
- ②「場当たり」的に実践するものではない
“何故”それを実践するのか
「説明のつかない」介護をしてはいけない
- ③“何故”を説明するには「ことば」「文章」で伝える必要がある
- ④経験年数のみに依拠すると利用者に不利益が生じる（ベテランはできるが新人は…）

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

- ⑤計画に基づく支援→評価可能→ケアの質担保（介護福祉士の存在意義が高まる）
- ⑥根拠に基づいたケアができる
- ⑦展開過程にそって検討ができる
- ⑧誰が実践しても一定のレベルで提供できる（ベテラン・新人、誰か一人上手でもだめ）
- ⑨利用者の参画・同意を得て検討→利用者主体
- ⑩その人らしさ、よりよい生活へ

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

- ⑪その人らしさ
 - ・その人（例 利用者Aさん）とその人（介護者B）との関係だけで、Aさんらしさは決めることはできない。
 - ・今までの歴史・価値観等が、その人らしさをつくる
 - ・誰がきめるの？「その人（Aさん）」がきめるもの
 - ・周囲から見たAさんは○○な人…でも違ったら？誤ったAさんのとらえ方になる
 - ・「個別性」「唯一性」→皆同じケアはありえない
 - 人生は「その人の価値観」が基盤となっている
- ⑫介護福祉職は「その人らしさ」の部分に立ち入らせて（踏み込ませて）もらう
- ⑬全て知ることは難しいが「その人らしさ」とは何かを探求することが大切

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の目的

- ・介護過程の目的は、利用者が望む生活を実現する上で生じている生活課題を解決することにある。

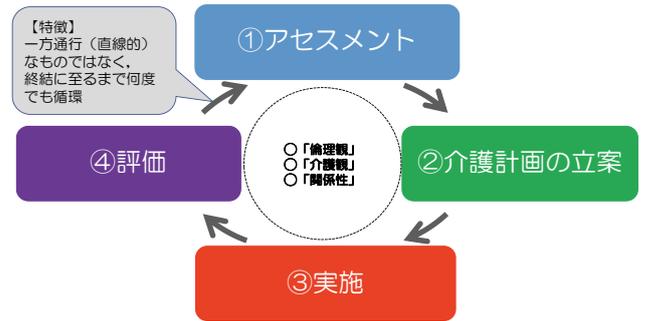
18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

- ①生活課題を解決するために
介護実践のために、どの部分を観るのか
- ②何故その介護が必要か「言語化」
 - ・考えていることを言語化しないと
本人、家族、同職種・他職種に伝わらない
 - ・用い方が不適切であれば利用者の尊厳にも関わる
 - ・だから用いる言葉一つひとつにこだわる
- ③利用者の目標を共有化する
 - ・ゴールがいくつもあると利用者が困る
 - ・共有化するには連携、理解、信頼が必要
 - ・コミュニケーション、記録等の総合的学習が重要

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の構成要素^{注1)}



【注】介護過程の構成要素の概念、アセスメントに含む要素の考え方は一つではないが、ここでは上記図に基づき説明する。

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5 学生に教授する部分および視点

「介護過程を展開する実践能力」の具体的な4つの能力

展開する実践能力
介護過程を

- (1) 対象となる人をアセスメントする能力
- (2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
- (3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力
- (4) 実践を評価し、改善する能力

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(1) 対象となる人をアセスメントする能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

91. 介護実践におけるアセスメントの意義と着眼点を説明できる
92. 事例と実習を通して、情報の分析・解釈・統合ができる
93. 状況に応じた介護や生活支援という目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる
94. 利用者の活動に影響をおよぼしている人間の心理、人体の構造と機能について説明できる

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(2) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

95. 介護実践における介護計画立案の意義について説明できる
96. 立案した介護計画の根拠や内容について、同職種や他職種に説明できる
97. アセスメントにより設定した生活課題と介護の方向性に基づき、介護計画を立案できる

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(3) 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

98. 立案した介護計画を、チームメンバーと連携し、指導のもと実践できる
99. 立案した介護計画を、利用者の状況にあわせて指導のもと実践できる
100. 日々の介護実践を、専門職の支援として記録できる
101. 具体的な支援の根拠を説明できる

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(4) 実践を評価し、改善する能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

- 102. 介護実践における評価の意義を説明できる
- 103. チーム（同職種・多職種）における評価の意義を説明できる
- 104. 介護計画にそって実施できたか、介護計画は適切・妥当であったかについて評価できる
- 105. 目標到達の状況を踏まえ、再アセスメントの必要性について検討できる

(1) アセスメント

- (1) 利用者が望む生活の実現に向けて、利用者が抱えている個別の生活課題（解決しなければならないこと）を様々な視点から把握する
- (2) 現在の必要だけでなく、将来を含め利用者が本当に必要としている客観的・総合的なもの
- (3) 本人の要望（ディマンド）と、介護福祉士からみでの要り様も
- (4) 顕れているものとそうでないもの、その背景に潜むものも把握
- (5) アセスメントに含まれるもの
「情報収集」「情報の分析・解釈・統合」「生活課題の抽出」
- (6) アセスメントで「必要な支援とその理由」を明確に文章化
- (7) 利用者に関わる介護福祉職で共有

アセスメントの視点

様々な視点

- (1) 利用者が望む生活への阻害要因を生活全般から明らかに
- (2) 利用者の希望や意思を確認することが必要

<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の言動」や「思いや願い」を出発点にアセスメントする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFの「生活機能モデル」から生活をとらえ、生活課題の4要素から支援を検討する ・「活動」「参加」に注目する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「できること」と「できないこと」を把握し、「できること」を維持する工夫や、「生活の再構築」の視点から検討する
--	--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの3つの視点 <p><自立の視点> (もてる力の発揮、もてる力を発揮するうえでの支援・困難、福祉用具の活用、意思表示の状況)</p> <p><快適の視点> (プライバシーや自尊心の保持、生活スタイルや嗜好性の維持、パフォーマンスを高める状態の維持)</p> <p><安全の視点> (生命の危険を悪化させている原因や悪化を招きうる状況の把握、リスクマネジメントを要する状況の把握)</p>	<p>例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程展開の視点 <p><実践の目的（支援の指標）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動（ADL、IADL）の維持・改善 ・参加や役割の維持・拡充・実現 ・健康の維持・改善 ・社会生活や社会関係の維持・拡充 ・安心・安楽、生活の満足感 <p><実践の基盤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の願い、思い ・介護サービスの理念 （尊厳の保持、利用者主体、自立支援）
---	-----------------	--

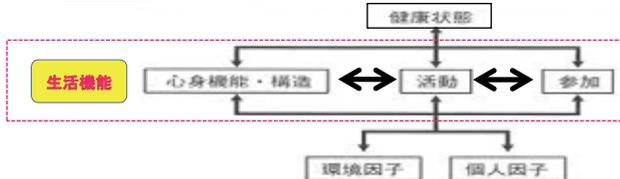
(1) - ① 情報収集の展開方法と留意点

「情報収集」	<ul style="list-style-type: none"> ①「利用者を総合的に理解」し「介護実践」するための第一歩 何の情報を収集するのか ②「観察」と「コミュニケーション技術」を活用し直接かかわる ③【情報源】 本人から収集（を大切に）、周囲（他職種、第三者、記録等） ④客観的情報 ⑤主観的情報（利用者の思い、考え） <p>【教授する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実をありのままとらえることができるか 意味付けしない＝自分の解釈入れない→情報が違ったものに
--------	--

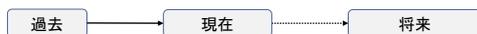
【留意点】 各養成校では情報収集のための様式がある
【利点】 一定の枠組みからの情報収集が可能→必要な情報をとらえ収集できる
 情報収集の標準化（これがあれば一定の情報収集が可能）
 「利用者の全体像」が俯瞰できる→個人情報管理の重要性も認識
【限界点】 介護の目的・介護サービス種類、利用者状況等により違う
 項目にない情報ももれる可能性
 項目以外は着目しない（収集しなくてもよい）と考えてしまう可能性

国際生活機能分類（ICF）

- (1) 様々な視点から利用者の**全体像を捉える**枠組み
- (2) 多職種連携に必要な**共通言語**



- (3) この枠組みを用いることで「**全体的俯瞰**」が可能
- (4) 「**現在**」の状況を理解し「**将来**に向かって」介護実践するには「**過去**」を知る必要も



(1) - ② 情報の分析・解釈・統合の展開方法と留意点

「分析・解釈・統合」	<ul style="list-style-type: none"> ①分析：ある事柄の内容・性質などを明らかにするため、事柄を構成する要素・条件などに分けて解明すること ②解釈：物事や行為などを判断し理解すること、またはその説明 ※ここで介護福祉職が「どのように理解したか」言語化・文章化 ③統合：2つ以上のものを合わせて1つにすること <p>【教授する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の状況は何故生じているの？→原因・背景 ・現在の状況から将来に向かって予測される可能性（期待）は？ または危険性は？ ・利用者の希望、心情を人物像も含めて考えてみよう
------------	--

【留意点】 情報の分析・解釈・統合に時間を要する → 気づかせる伝え方
 ・介護実践の方向性を決定するために必要（展開過程に沿っているか）
 ・言語化・文章化が問われる
 ・今までの学習した内容を思い出してみよう
 ・全体を俯瞰し、情報と情報をつなぎ合わせないといけない
 ・一方的な思い込み・決めつけになっていないか（分析者の生活経験・価値観に偏る、あるいは根拠がない）

(1) - ③生活課題の抽出の展開方法と留意点

「生活課題」	<ol style="list-style-type: none"> ①「解決しなければならない」こと ②「利用者の望む生活や、期待できる利用者の状態を目指すための課題」 ③プラス面（強み・長所）、マイナス面（機能低下や問題）など多面的な要素を含む ④介護福祉職が支援を行うことで解決・改善・維持・実現できる ⑤「情報の分析・解釈・統合」をふまえて抽出する <p>【教授する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活課題は「利用者を主語」に表現 ・表現方法は様々あるも「～したい」「～になりたい」など目標指向型で表現→ご本人の意欲的・主体的取り組みが重要 ・生活課題が複数ある場合は優先順位を検討
【留意点】	<p>生活課題の抽出にに時間を要し→気づかせる伝え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現在の状態」と「望む生活」の差の部分に介護の専門職としての実践を ・利用者はどのようになりたいと思っているのか？（表現できない場合も含め） ・課題→利用者（健康状態、心身機能・身体構造、個人因子）にある場合、生活環境にある場合 ・優先順位の要素は様々な個性をふまえて検討し「言語化」「文章化」する

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(2) 計画

- ① 介護計画の立案では、アセスメントによって明確になった生活課題を解決するための「介護目標」を設定し、その介護目標を達成するために必要な支援内容及び方法を組み立てる。
- ② 介護計画は、本人や家族への説明と同意のもと、介護福祉職チームのメンバーが利用者一人ひとりに応じた介護方針や介護内容・方法を共有するものである。

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護計画立案の展開方法と留意点

「介護計画」	<ol style="list-style-type: none"> ①介護目標設定 <ul style="list-style-type: none"> ・長期目標:生活課題を解決し、最終的に目指す生活状態像と評価日（6ヶ月～1年程度）を設定 ・短期目標:長期目標の達成に至る段階的な目標の達成期間を設定 ②支援内容・支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への支援内容・支援方法を共通理解しケアの統一を図る ・支援内容は介護福祉職が実施する内容を記す ・支援方法は支援内容を実現する具体的な方策を記す <p>【教授する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が納得でき、介護福祉職と共有できる ・利用者の意思を反映し、自己実現を目指し取り組める ・現実的で達成可能か？評価（測定）できるか？ ・記載内容は、かわかる介護福祉職が同じく実践できるか？ ・利用者の能力を活かすように無理のない支援内容・支援方法か？ ・利用者や家族へ説明し同意を得ているか？
【留意点】	<p>文章化に時間を要する→学生とのやり取りが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語化、文章化のサポート（SW1H、わかりやすい記載） ・評価を想定した客観的な記載かどうか

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(3) 実施

- ① 介護計画を介護福祉職チームで共有し、介護計画に基づく介護実践をすること。
- ② 介護過程の展開における「実施」は、日々の介護の実践そのものであり、立案した計画を実行することである。
- ③ 介護実践においては、介護福祉職チームの意識統一、サービス提供の態勢が重要であり、介護目標の達成度に影響を与える。

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

実施の展開方法と留意点

「実施」	<ol style="list-style-type: none"> ①「目標」と「具体的方法」を確認して行う <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が目指している状態像の確認 ・目標の達成を基準とした観察の視点の確認 ・支援内容や方法について介護福祉職チーム全体での共有 ②利用者の反応をみながら、安全に留意して行う <ul style="list-style-type: none"> ・正しい介護技術を身につけ事故防止に努める ・利用者との信頼関係の構築 ・肯定的な心理的サポート ③実施時の利用者の反応などを記録する <ul style="list-style-type: none"> ・計画した援助内容をどのように実践したか記録 ・実践のなかで利用者はどのようであったか記録 ・記録は事実のまま、簡潔に記入 <p>【教授する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目の知識を引き出す、自己の身体の違いが重要 ・「評価」につながる部分であること→記録
【留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・座学で基礎を学び、演習で体得 ・他科目「生活支援技術」「介護実習（または介護総合演習）」との連携 ・介護実習前（後）指導が重要

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

(4) 評価

- ① これまでのプロセスを振り返り、目標が達成できているか検証すること。
- ② そのうえで、実践された介護を今後どのようにするのかを検討する。介護実践の後には、その評価を客観的に行う必要がある。
- ③ 評価は立案時に設けた期限（評価日）及び利用者の生活状態に変化が生じたときに行う。

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

評価の展開方法と留意点

目標が達成できたか否か

→ 目標が達成された場合

- 今後も具体的な方法を継続する必要があるか否かを判断する
- 完全に解決された場合には新たな生活課題について再アセスメントする

→ 目標が達成されなかった場合

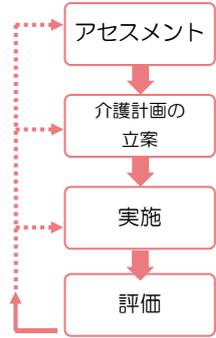
- 介護過程の各段階にさかのぼって検討し、見直しを行う **【留意点】** 介護過程の展開を再認識してもらう

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の各段階に沿った評価の視点

※評価の順番は、(1) → (2) → (3) → (4)

- (4) 情報収集、利用者への情報提供に不足や偏りはなかったか
- (3) 生活課題や介護の方向性の判断は適切であったか
- (2) 利用者にとって適切な内容、妥当な内容であったか
計画は無理のないものであったか
- (1) 実施は計画に沿って行われていたか
実施していかなくて、利用者の反応はどうだったか



38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本研修のまとめ



【概論】介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する

- ①「本人の望む生活の実現に向けて」→「利用者の最善の利益」探求
- ②介護過程の展開経験は「実習施設」で
- ③介護過程→5者（利用者、家族、学生、実習指導者、教員）が関係
- ④学生を送り出す側である養成校の役割（現状（課題）をふまえて）

39 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成教育の基本的体系

- ①「人間と社会」
その基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する
 - ②「介護」
「尊厳の保持」「自立支援」の考え方を踏まえ生活を支える知識と技術
 - ③「こころとからだのしくみ」
多職種協働や適切な介護の提供に必要な根拠
- +
- 「医療的ケア」

「その人らしい生活」を支えるために必要な介護福祉士としての専門的技術・知識を「介護」で学ぶ



40 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本研修の参考文献一覧

【注】スライド6のほか

1. 家子敦子・東海林初枝（2018）「介護過程展開様式のプロセスからみえた介護過程スキル向上のための課題—介護過程展開法施設研修の5年間の取り組み」『仙白女大紀要』22(0)、63-73.
2. 石野育子編著（2014）『介護過程』メチカルフレンド社
3. 北海道老人福祉施設協議会 倫理綱領 http://roushikyo-hokkaido.jp/pdf/rinri_koryo.pdf
4. 介護福祉教育研究会編（2018）『新版 楽しく学ぶ介護過程』時潮社
5. 介護福祉士養成講座編集委員会（2015）新・介護福祉士養成講座9『介護過程第3版』中央法規出版
6. 介護福祉士養成講座編集委員会（2019）『介護過程』中央法規出版
7. 公益社団法人日本介護福祉士会「令和元年度 新カリキュラム対応介護実習指導研修」資料
8. 森繁樹編著（2015）『事例で読み解く介護過程の展開』中央法規出版
9. 日本介護福祉士養成施設協会編（2014）『介護の基本/介護過程』法律文化社
10. 中家洋子（2019）「介護過程におけるアセスメントに焦点化した思考過程の可視化に向けた効果的な教育方法」『大阪人間科学大学紀要』（18）、83-93.
11. 高木剛（2017）「介護過程における課題分析の文章作成に資するワークシートの考案—課題分析の文章例の構成要素を踏まえて—」『社会事業研究』第56号、42-51.

41 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

【実践事例の素材紹介】



「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書（2020）」に実践事例を紹介

全国の養成校で、介護過程に携わる教員が日々努力を重ねた成果を掲載（参考・励みになるもの）

詳細は左記報告書で御覧ください
お取り扱いには充分ご注意ください

【発行】公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

42 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

課題	実践事例
介護過程の展開	(1) 学生に身近な例を挙げて学習する (2) 教材を開発（自作）→養成校独自のシート →情報収集が行いやすいようDVDを作成している養成校も (3) 教科書のほか視聴覚教材 [利用者（例 健康状態、生活環境、発したことば、表情など）理解、専門職がどのように関わっているか（例 介護福祉職のほか、他専門職の専門性を視聴し、教科書で調べさせる、介護の専門職としての倫理観やディレンマの理解に役立つ ・再生、ストップ、指導ポイントの強調が可能、記録のトレーニングになる ・同じ教材でも修業年限により「気づき」「習熟度」が違う ・1年次は多様な事例を、2年次は一つの事例を深化（ディスカッション）できるような取り組みを→学生の意見から (4) 作成した介護計画を自分たち以外のグループで実施してもらい、動画として記録を残し、計画の検証・評価をする ・模擬カンファレンスの実施 ・（実習）個別介護計画について、多職種に入ってもらい、カンファレンスを実践してもらっている

43 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

課題	実践事例
学生指導	(1) 年度により学生の様子は違えど、教員が教材開発の努力を止めないこと→スライド、言葉の説明のわかりやすさ (2) 信頼関係の構築 [発言内容、学生との契約など普段の関わり] (3) 良い点を褒めてあげて、課題点を伝えている → わからない点をキャッチする教員のセンサーが重要 介護過程のどの部分を苦手としているかを、継続的に把握（授業・提出物）していくしかない (4) 介護過程では、アセスメント、計画に時間を割く傾向（他方で、実施、評価に十分な時間が割けないという課題に） (5) 養成校で用いる介護過程書式の重要ポイントを伝える、記録させる→介護実習担当教員との連携（情報共有が不可欠） (6) 個人指導を基盤としつつ、クラスメンバーの力を借りる（お互いに教え合う、他者との関わりで気づいた点、重要な点にフォーカスする） ※2020年度は新型コロナウイルス感染症による影響で、オンライン授業が本格的に導入された。反復学習が可能 普段発言しない傾向の学生が「投稿・チャット機能」だと積極的に（素直に喜べない部分もあるが…） (7) 学生が「わかった」「充実した」という体感が得られたあとのモチベーションは高い →関心を持たせる、考えさせる、言葉にこだわる、言葉で伝えるが文字に書けない、実践現場の中で育てあげる

44 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

課題	実践事例
連携	(1) 教員間 ①介護過程の教授状況（内容、視点）の共有化 ②学生の習熟度、日常生活の様子→情報共有 ③他科目、介護実習指導と運動→担当教員間で標準化した指導について確認が必要 (2) 実習施設（指導者） ①学生の様子を共有（学生と一緒に育てていく） ※実習指導者会議、実習報告会の開催 実習指導者に参画してもらうことが重要 ②学生の学習成果、疑問（つまづき）、指導方法の共有 ③介護過程の教授方法のシェア （本学では○○のように指導しています） 【注】養成校で介護過程の書式が異なり、指導が大変という報告も （例）養成校共通のシート作成、指導の観点を記した説明書 ④実習指導者（あるいは卒業生）の力 →施設見学、実習指導者会議、実習報告会など、教員以外の評価（助言）の機会を設ける

45 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

実践事例の紹介にあたり（まとめ）

(例)

- ・教授方法
- ・教材開発
- ・教員間の情報共有
- ・実習指導の連携

(例)

- ・学生の生活歴・背景
- ・学力、理解度
- ・実習場面での緊張感
- ・外国人留学生

(例)

- ・養成校の様式の差異
- 実習スーパービジョンに影響
- ・養成校との連携
- ・制度上の差（高齢・障害領域の個別介護計画の実施）

教員 学生 養成校 実習指導者

【実践事例】教材のブラッシュアップへの参考として紹介

- ・科目「介護過程」教材開発だけにとどまらない
- ・介護福祉士養成全体に波及することに気付かされる（他画像をご参照ください）

46 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目9 介護のためのケーススタディ（主な対象：新任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉現場に関わる事象からの気づきを、課題解決する研究方法について理解できる ・事例研究（ケーススタディ）からエビデンスを導き出す方法を選択できる ・介護福祉関連学会への参加ができる ・興味関心を深める研究活動に参画できる
講師	・野田 由佳里／聖隷クリストファー大学 社会福祉学科 介護福祉コース
研修概要	<p>(1) 概論：研究方法の入門から、実践報告及び事例検討、事例研究（ケーススタディ）の特徴について概説する</p> <p>(2) 方法論：ケーススタディの紹介を行う。事例を調べ、分析、検討する一連のプロセスを体験する。背後にある原理や法則を導き出すために、質的な調査方法を用いる。また帰納法についての理解を促す機会とする。一部ツール利用による量的分析を試みる</p>
時間数	①30分／②30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」

■科目の展開内容

当該科目は、初学者を対象とした科目です。介護の現場では、より質の高いケアを行うためにケースカンファレンスや事例研究が行われています。介護福祉士養成過程においても、介護福祉士の学びを通して、介護実習で介護過程を実際に展開し、その事実をもとにケーススタディを行っています。当該科目では、そのケーススタディを養成校がどのような指定科目で取り入れ、またどのような目的をもって取り組んでいるかを理解して頂くことを主軸に展開をしています。

特に【介護のためのケーススタディ】という科目名にした理由として、より質の高いケアを提供できる介護福祉士の輩出は、介護現場のサービスを保証し、介護の専門性の向上や、社会的評価を上げたいとの願いもこめ、介護福祉士の独自性である生活の場所で行う研究としての位置づけ、介護福祉実践を研究的視点で再検討する意義を考えたネーミングです。

■科目における工夫やねらい、今後に向けて

当該科目は、介護教員講習会の専門分野【研究方法】に位置づけられた科目の一部です。今回のモデル事業では、本調査研究事業の質問紙調査の回答から、従来の介護教員講習会の内容が、「短期的な研修にそぐわない」「現場の乖離が大きい」「実践現場経験を研究方法とする基礎的な内容が必要」との意見もあり、大学教育における卒業研究や、大学院等で学ぶ専門性の高い研究方法とは一線を画し、介護福祉実践からの学びを促すものとする事としました。研究方法は数多くありますが、介護福祉士養成で最も多く用いられているケーススタディについて理解をすることで、他科目との関連や、実習経験をどう学びに活かし、資格取得後の介護実践に必要な個別ケアや、チームア

アプローチなどをどう伝えるかなど具体的な教授方法を中心に構成しています。介護福祉士養成で学ぶ学生にとっての楽しみであり、新任として介護教員になられる方にとって、学生からの信頼を得るきっかけは『みずみずしい・リアルな介護実践』＝経験談ではないでしょうか？ 新任の先生方の直近の経験談は、学生にとっても興味関心が高く、テキスト内のペーパーシミュレーションにはない現場感覚を味わえ、実際の授業でも、介護福祉実践現場での支援内容を講義内容に組み入れる場面も多くなるのではないのでしょうか？ 経験談は、ある意味、ミニケーススタディになっている側面もあると思います。介護教員の資格要件であるこの現場経験5年以上の意味は、介護福祉実践を客観視できる点にあると思います。

改めて介護学生にとって介護実習の様々な経験（成功体験・失敗体験を含む）から、介護福祉士養成課程でケーススタディを行う意義を整理します。

・ケーススタディを行う意義

- ①介護実習の振り返り：実習目標・実習経験・気づき・自己課題の発見・問題意識
- ②分析的思考と学習経験：事例の客観化・実習で行った介護福祉実践の客観化
- ③研究的視点の習得：ケーススタディのプロセス・介護福祉実践への意識づけ
- ④学習意欲の向上

ケーススタディを通して、介護学生が自己覚知し、スキルアップを促す有効性の高い研究方法と考えています。

主な対象：新任

分野Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

科目9 介護のためのケーススタディ

公開期間：令和3年3月3日～12日

野田 由佳里／聖隷クリストファー大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護福祉現場に関わる事象からの気づきを、課題解決する研究方法について理解できる。
- 事例研究(ケーススタディ)からエビデンスを導き出す方法を選択できる。
- 介護福祉関連学会への参加ができる。
- 興味関心を深める研究活動に参画できる。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	概論 : 研究方法の入門から、実践報告及び事例検討、事例研究(ケーススタディ)の特徴について概説する。	30分
(2)	方法論 : ケーススタディの紹介を行う。事例を調べ、分析、検討する一連のプロセスを体験する。背後にある原理や法則を導き出すために、質的な調査方法を用いる。また帰納法についての理解を促す機会とする。一部ツール利用による量的分析を試みる。	30分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ

(1) 概要

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. 研究

研究って何かよくわからない

何について研究するか決まっていない

具体的な研究計画の作り方がわからない

研究方法にはどんなものがある、**自分のテーマ**にはどれがふさわしいかわからない

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ(1)【概要】

2. アイデア

現場の介護職であれば、日頃の業務の中でふと気づいたアイデアや、実際におこなって成果を上げている実践、前々からどうも気になっている職場の課題など。

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ(1)【概要】

3. 問題意識

問題意識がある程度はっきりして
研究が始まってからも、
「今調べていることは、
はじめに自分が明らかにしたかった
問題の解明に役立つのか？」
と自分に確認すること。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4. 研究成果

• 研究
他の人々によってこれまでに
蓄積されてきた研究成果をふまえる
1つの研究はそれまでの
さまざまな研究を土台として成り立ち
またそれに続く次なる研究の土台の一部
をなしていくことに大きな意義

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

5. アイデアを形にする方法

～アウトラインを描く～
研究を始めるには、
まずはおおまかなアウトライン（輪郭）
を描くことが重要。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

6. 量的研究か、質的研究か

仮説／命題

「仮説」とは、経験的事実を説明するために
定式化された未検証の命題（または命題群）。

研究方法の選択

「記述的仮説」ある1つの状態について記述
的に把握するための仮説。

「説明的仮説」それが起こっている原因を探
求したり、現状に対するなんらかの取り組み
の効果について明らかにする。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

7. 研究方法の選択

テーマに合った研究方法を選ぶ。

- 量的研究：比較的多数の対象について定型化された量的データを収集し、統計的手法を用いて変数間の関係について説明。
- 質的研究：比較的少数の対象について多様で詳細な質的データを収集し、柔軟な手続きにより対象を全体的にかつ深く理解。
- トライアングレーション：複数の調査技法を組み合わせて、それぞれの方法の長所を活かし、ことから多面的に把握。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

8. 量的研究の考え方と特徴

• 量的研究

大きく分けると

「実験」「調査」

介護研究においては、研究テーマや状況に応じて、どちらも有効な方法。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

9. 量的研究：全数調査／標本調査

▶ 全数調査

研究対象として想定されているすべての方について調査

調査結果がすなわち研究対象全体の回答

▶ 標本調査

研究対象として想定している方の一部を調査

全体についての情報を得ようとするもの

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

10. 質的研究の考え方と特徴

• 質的研究

人類学や歴史学、社会学の領域で使用

⇒ 幅広い領域で多様な展開

⇒ 注目を集めている方法

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

11. 数値化できない現実

明確に数値化できない現実のあり様

⇒ インタビューや参与観察など

⇒ さまざまなタイプの詳細なデータを蓄積し、分析する方法

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

12. 事例研究

介護研究の分野

「事例研究(ケーススタディ)」

として比較的親しまれている研究方法

⇒ 質的研究の一種として紹介される

⇒ 量的研究の方法を用いておこなう事例研究もある

* **事例研究 ≠ 質的研究**

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

13. 研究対象の秘密保持

研究対象

研究に協力することを同意

研究の過程および研究結果を公の場で発表する場合

⇒ **研究対象の方の秘密保持について十分気をつける必要**

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

14. 日本介護福祉士会倫理綱領

プライバシーの保護

介護福祉士は、プライバシーを保護するため、職務上知り得た個人の情報を守ります。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

15. ケーススタディとは何か①

▶ ケーススタディ（事例研究）

個別的な事例を題材として、そこから**一般化できる事象**、また、他の利用者・家族にも適用することのできる**援助や理論を導き出すこと**を目指していく手法

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

16. ケーススタディとは何か②

▶ ケーススタディ（事例研究）

ある事例でのケア内容や利用者・患者との関わりを整理・分析して、ケアの側面、または利用者・家族との相互関係を追及していく研究方法

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

17. ケーススタディとは何か②

▶ ケーススタディ（事例研究）

介護福祉士養成教育では

- **介護総合演習**・**介護過程** の一環として
- 事例研究 ・ 実習報告 ・ ケースレポート として多くの養成校で取り組まれている手法です。

また
ケーススタディ、卒業研究、介護研究方法 など指定科目外の独自科目として設定している養成校もあります。

介護のためのケーススタディ（1）【概要】

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護のためのケーススタディ (2) 方法論

*** 聖隷クリストファー大学 野田由佳里 ***

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

contents

- ▶ ケーススタディとは何か
- ▶ ケーススタディの進め方
- ▶ ケーススタディの実際

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か①

- ▶ 研究をする上で・・・
問題の所在（リサーチクエスション）
着想：何か気になる

- ▶ キーワード：
認知症、BPSD、介護拒否

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か②

▶ケーススタディ（事例研究）

ある事例でのケア内容や利用者・患者との関わりを整理・分析して、ケアの側面、または利用者・家族との相互関係を追及していく研究方法

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か③

▶ケーススタディ（事例研究）

個別的な事例を題材として、そこから**一般化できる事象**、また、他の利用者・家族にも適用することのできる**援助や理論を導き出すこと**を目指していく手法

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

26

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か④

▶ケーススタディ（事例研究）

介護福祉士養成教育では

- ・ **介護総合演習** ・ **介護過程** の一環として
 - ・ 事例研究 ・ 実習報告 ・ ケースレポート
- として多くの養成校で取り組まれている手法です。
また
ケーススタディ、卒業研究、介護研究方法
など指定科目外の独自科目として設定している養成校もあります。

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か⑤

▶ケーススタディ（事例研究）

「事例（症例）検討」との違い

利用者・家族の事例を取り上げ、検査データを集めて整理し、よりよい治療方針やケア方針を検討する。

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か⑥

▶ケーススタディを行う意義

新しいケアの方法や介護技術や福祉用具が発表

- ☞ ケアの見直し
- ☞ よりよい形でケアを利用者・患者に提供

新しい情報の収集、たくさんのデータのまとめ

- ☞ ケアが成果に結びついているかの検証
- ☞ 繰り返しが普遍的な技術・理論が確立

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

1. ケーススタディとは何か⑦

▶ケーススタディを行う中で・・・

Q,学生の疑問「**データってなんですか？**」

利用者・家族の状態を文字・図・記号・数値で表したものの。変化、正常・異常を可視化するもの。

- ☞ 介護学生には、アセスメントツールの利用や、プロセスレコードの作成を指導しています。実習施設で作成されている個人記録（ケース）の閲覧よりも「まず自分で集めた情報」を重視。

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種①

利用者Bさんの行動の意味を考える
どうして、どんな場合、どのような反応？
認知症のあるBさんは不定愁訴がある。

- いつでもあるの？
- どんな場合に起きるの？
- 誰といるとき強く訴えるの？
- ☞ 疑問点や小さな気づきからBさんの全体像を捉える

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種②

まずBさんを観察していると・・・

- ・ 夕方に不定愁訴が起きやすい
 - ☞ 何故？ 職員が近くにいない
 - Bさん自身やることがない
 - 窓から見える景色から夕刻を感じる
- ・ どんな場合に起きるの？
 - ☞ 何故？
 - 椅子でうたた寝していて覚醒した直後
 - 職員が忙しそうにしている落ち着かない
 - 自分ができることがなくキョロキョロ周囲を確かめる

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種③

まずBさんを観察して少し考えてみると・・・

- ・ どんな場合に起きるの？
 - ☞ 何故？
 - 椅子でうたた寝していて覚醒した直後
 - 職員が忙しそうにしている落ち着かない
 - 自分ができることがなくキョロキョロ周囲を確かめる
 - 隣に座っている人が「これで失礼します」という言葉を発した直後

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種④

まずBさんを観察して考えを深めてみると・・・

- 誰といるとき強く訴えるの？
 - ☞ 何故
 - 怒ってはかりいるCさんが近くにいる
 - 落ち着きなく、ポケットや机の周囲を何か探しているDさんがゴソゴソしている
 - でも、ニコニコしているEさんが傍にいと訴えは激減する
- ☞ 例：経験知や実践知で理解をしている
「多分、そうなんだろうな」

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方①

【介護実習の場合】

～テーマを見つけるためにすること①～

- 事例の整理からテーマを見つける
 - ・ 実習記録を振り返る
 - ・ 観察に用いられたさまざまなツール
 - 実習中の会話・関わりを振り返る
 - ・ 会話や関わり方
 - ・ 沈黙
- ☞ メモの振り返り

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方②

【介護実習の場合】

～テーマを見つけるためにすること②～

- 援助と利用者・患者の反応を振り返る
- 受け持ち事例と先行研究との比較分析過去の事例からのヒント（類似・相違）
- ブレインストーミング
 - 実習中のスーパービジョン
 - 実習後のグループスーパービジョン

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方③

➤ 食事中にむせこみが多い利用者の場合

- **心身状況**
(体調・自立度・覚醒・認知度・症状)
- **食材** (食形態・嗜好・食感)
- 温度 (食材の適温・室温)
- **姿勢** (座位保持・足底位置・前傾)
- 時間帯 (食事前・食事中・食後)
- 場所 (居室・食堂・静穏環境)

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方④

問題の所在 (リサーチクエスション)

- むせこみがなくなることで・・・
- **快適に**食事が可能になる
- **安心して**食事を楽しめる
- **安全**が守られ**自力摂取**が継続できる
- 食事量が確保できることで、体調良好を促し**体力の維持**も可能
- ☞ 日中の運動量、夜間の睡眠、排便

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方⑤

一般研究の例

- データ収集：質的記述的研究デザイン
聞き取り調査：具体的な方法：非構造化面接
同意と説明：調査協力者の同意を得て実施
分析方法：事例コードマトリックス
- (1) データ：ICレコーダーの録音の逐語録やメモを元にした調査協力者ごとにデータを作成
 - (2) 逐語録：調査協力者に内容確認の依頼
 - (3) データ分析：質的研究法
 - 文節をセグメントとしたオープンコーディング
 - 事例コードマトリックス
 - 共通点や相違点の抽出
 - (4) 倫理的配慮 匿名化 (個人名や事業所名削除)

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

39 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方⑥

【介護実習の場合の倫理的配慮】

- 養成校と実習施設との契約 (申し合わせ事項)
- 学生が**個人情報**の取り扱いに関する**誓約書**を実習先に提出
事前学習での丁寧な説明
- 実習記録の記録方法
 - ☞ アルファベット表記法の徹底指導
- 実習後のケーススタディ
 - ☞ ルール作り
 - 表記方法：利用者・患者さんをAさん
実習先をB事業所
年齢表記ではなく年代表記 等

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

40 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方⑦

プロセスレコードの作成

実習指導者・可能であれば対象となる利用者・患者・家族の同意を得て、プロセスレコードを作成

Aさんとの会話の抜粋

「私は、Cさんが好きなの。あの人の介助が安心なのよ。」
「Dさんの声あまり好きじゃないの。大きいからね。」
「夜勤がEさんになるとトイレは頼めないわ。怒られそうでもん。」
「Fさんは入浴の時はいいけど、トイレの時はカーテンを閉めてくれないから、ちょっと困るのよ。」

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

41 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方⑧

作成したプロセスレコードを、文脈性を前提にし、データのセグメント化を行った。

Aさんとの会話のセグメント化の一部

- 介助の時に安心感を望んでいる。
- 安心できる介助をしてくれる人が好き。
- 大きい声が嫌い。
- 怒られそうだと思うとトイレ介助は頼めない。
- 入浴の時はカーテンは不要。
- トイレの時はカーテンを閉めてくれないと困る。

介護のためのケーススタディ(2) 【方法論】

42 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2. ケーススタディの進め方⑧

作成したセグメント化したデータを、帰納的な性格を持つことを意識し、コーディングを行った。

Aさんのコーディングの一部

- 【安心感】【遠慮や気がね】
- 【頼みやすい職員】【羞恥心への配慮】
- 【苦手な職員の存在】

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

43 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. ケーススタディの実際

フローシートによる実践例

フローシート（経過一覧表）

ケア、アセスメント、特定の問題の経過

項目を設定し、図や記号など簡潔に状況を記載

日付	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14
体温					
チアノーゼ					
嘔吐					
呼吸					
尿					

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

44 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. ケーススタディの実際

文献研究による実践例

- ある分野の先行研究から知見や課題を見つけたことを目的としている
- どのような研究をする場合でも自分の研究に必要な文献を読むことや、まとめたりする作業は不可欠
- 文献によるケーススタディ
文献収集の方法・文献の分析
まとめ方・整理の仕方

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

45 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3. ケーススタディの実際

ケーススタディのまとめ方

一般的な構成

タイトル

I はじめに

II 目的

III 方法

IV 結果

V 考察

VI 結論

VII おわりに（結語）

引用・参考文献

図・表

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

46 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目10 学生指導（主な対象：専任）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成教育における学生指導の意義を理解する ・介護福祉教育の視点から学生理解を深め、今後の学生指導につなげることができる ・学生自身の力を引きだし、課題解決のための行動を学生自身が自ら考え、自ら実践する能力を導き出す
講師	・溝部 佳子／別府溝部学園短期大学 介護福祉学科
研修概要	<p>(1) 概論： 学生指導の意義と視点、その基盤となる学生理解や望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導を示す。さらに、学校全体で進める学生指導等を紹介する</p> <p>(2) 「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」から課題を抽出し、現在の学生傾向に合わせた学生指導や教員の職業的アイデンティティ（教職アイデンティティ）を学ぶ機会とする</p>
時間数	(1)20分／(2)40分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・「生徒指導提要」文部科学省

私は、これまで人の生活を支えることに興味をもって学びを続け、現在は短期大学副学長と介護福祉学科学科長を務め、組織的な教育の営みについて考えている。今回は、何か困難を抱えている学生ではなく、一般の学生をどのように指導していけばいいのかについて論じる。

ここ数年、中学校・高校への訪問講座に携わり、介護人材育成のための活動をする中で特に感じたことは、中学校での先生方の生徒指導がバラバラであったことに驚き不思議でもあった。

概論では、私自身、今回、学生指導を担当するにあたって、学生指導に関する基本書を探したが見当たらなかった。しかし、中学校での生徒指導の違いを感じてきた私が、生徒指導に関する基本書に出会った。養成校の先生方が出会う学生が今まで受けてきた文部科学省の「生徒指導提要」を紹介し、「生徒指導」を「学生指導」と置き換え、重要なポイントを提示した。**福祉と教育の違いが顕著であった。つまり、福祉はありのままの自分、教育は更なる成長をめざす（教育は、ありのままの自分ではなく、更なる自分を高めることが目標）。**また、学生指導の対象は個人だけでなく集団・学校全体でもあり、学生指導の3つの視点①学生理解、②集団指導・個別指導、③学校全体で進める学生指導の中の③について、今回は論じる。

皆様からいただいた、『介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査報告』結果では、学生指導に関連するものが多く抽出され、学生指導について知識を持つことが重要であることや、現在の学生傾向からも、学生は具体的な指導を求めていることから、学生への自己指導能力の育成との兼ね合いや道筋を集団で組織的に具体的に考えていく必要があることが示された。

提案【1】 学生指導では、組織的な教育方針の共有・教員集団をつくることが重要である。つまり、「学校全体で進める学生指導」が今の時代に大切で、学校は教育方針に基づいて、今こそ、授業時間外に組織的・計画的に学生指導が必要な時代だと考える。

提案【2】 教員の職業的アイデンティティを学ぶ機会を設ける。《教員個人としての学生指導から組織人としての学生指導へ～介護福祉職を担う人材から介護福祉職を養成する教員への転換～》教員集団でどのような学生を育てたいのか、どのような教員が求められているのか自問自答しながら、教員集団としてまとめ、公平な役割分担等を行うことが大切である。

結論としては、教員は基本理念・集団のまとめをもって教職アイデンティティを意識し発達させる。それによって、教員は組織的・計画的に学生指導に自信をもって取り組むことができ、そういう教員に出会った学生は健全な成長と自己指導能力の育成をめざすことができると確信する。

主な対象：専任

分野Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

科目10 学生指導

公開期間：令和3年3月3日～12日

溝部 佳子 / 別府溝部学園短期大学

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護福祉士養成教育における学生指導の意義を理解する。
- 介護福祉教育の視点から学生理解を深め、今後の学生指導に繋げることができる。
- 学生自身の力を引きだし、課題解決のための行動を学生自身が自ら考え、自ら実践する能力を導き出す。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	概論： 学生指導の意義と視点、その基盤となる学生理解や望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導を示す。さらに、学校全体で進める学生指導を紹介する。	20分
(2)	「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」から課題を抽出し、現在の学生傾向に合わせた学生指導や教員の職業的アイデンティティ(教職アイデンティティ)を学ぶ機会とする。	40分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

はじめに

①別府市内8中学校への訪問講座（別府市委託事業）
毎年約750人の中学生にクラス単位で、約6年間
延べ4,500人の中学生に「“福祉”ってなあに？」を実施

②県下の高校への訪問講座
毎年約400人、8～10クラス、4～5高校にて、約5年間
延べ2,000人の高校生に実施

【気づき】義務教育機関でも対応がバラバラ
生徒指導が行き届いているクラスもあれば、雑然としたクラスもあり、学校・担任のカラーが顕著
（例）クラス担任の在り方・関わり方の違い等

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

概論

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

生徒指導提要：文部科学省

- 生徒指導
学校がその教育目標を達成するための重要な機能
児童生徒の人格の形成を図る上で、大きな役割
- 生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等
時代の変化に即して網羅的にまとめた基本書等が存在せず、生徒指導の組織的・体系的な取組が十分に進んでいない
- 生徒指導提要
教員間や学校間で教職員の共通理解を図り、
組織的・体系的な取組を進めることができるようにした学校・教職員向けの基本書

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

留意点として

- 「生徒指導」を「学生指導」と置き換えられる箇所は置き換え、「学校」は、そのまま「学校」として表記

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生指導の意義

- 学校の教育目標を達成する上で学習指導と並んで重要
- 一人一人の学生の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動
- すべての学生のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての学生にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指す

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

更なる積極的な意義

各学校においては、学生指導が、教育課程の内外において一人一人の学生の健全な成長を促し、学生自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す（学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要）※福祉と教育の違い

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

自己指導能力の育成

発達の段階に応じた自己指導能力の育成を図るには、年齢と共に形成されてくる精神性や社会性の程度を考慮し、どの学生にも一定水準の共通した能力が形成されるような計画的な学生指導が必要（問題行動など目前の問題に対応するだけにとどめることがないようにする）

※対象は目の前の学生一人一人、問題行動のある学生だけではない

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生指導の3つの視点

- ①学生指導の基盤となる学生理解
- ②望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導
- ③学校全体で進める学生指導

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

①学生指導の基盤となる学生理解

- 学生指導を進めていく上で、その基盤となるのは学生一人一人についての学生理解の深化を図ること（学生はそれぞれ違った能力・適性・興味・関心等を保持）
- 学生を多面的・総合的に理解し、広い視野から学生理解を行うことが大切（学生の生育環境も将来の進路希望等も異なる故）
- 日頃から一人一人の言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢が重要

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導

- **学校教育は、集団での活動や生活を基本**とするものであり、学校での学生相互の人間関係の在り方は、学生の健全な成長と深く関わっている
 - **学生一人一人が存在感**をもち、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける**望ましい人間関係づくり**は極めて重要
 - 個か、集団かといった二分法に陥ることなく、個や集団の状態に応じた指導を行うことが大切
- ※集団が安定すると個人も安定

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③学校全体で進める学生指導

- 教員一人一人の努力を学生指導の目標の達成につなげるには、**学校全体の共通理解と取組**が不可欠
- そのためには、学生指導が学校全体として**組織的、計画的に行われていく**ことが必要

※全学生に対する教育の営み、今回は、ここを中心に報告する

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

私の疑問

- 中学校・高校での生徒指導は、千差万別
- 「生徒指導提要」は、組織的・体系的な取組を進めることができるようにした学校・教職員向けの基本書であるが、実際に基本書としてどのような位置づけとなっているのか



「生徒指導提要」があるにもかかわらず、その指導内容がバラバラ
実際、先生によって生徒指導が違っていいのだろうか？
私たち養成校教員は学生指導に対してどうなんだだろうか？
自信をもって対応しているのであろうか？

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成校における 教育上の課題と求められる 研修プログラムに関する調査報告

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」
質問3 新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
(1) そのように考える理由①～④

- **介護老人福祉施設等で勤務していたものが（ご利用者と接していた）、急に学生に対して「教える」「伝える」「指導」は難しい**
- **自分が教員として学生に指導していることが、これで良いのかと不安**
- **教員が同じ方向を向き、指導内容に差異がないようにするべき**
- **教員経験がない場合、教育について指導するだけでないことを意識してほしい**

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」
質問3 新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
(1) そのように考える理由①～④

- 人間的なものは教育の根幹をなすものだと思います。従って日々の自己研鑽の大切さ
- 教育理念を基本にした学科、特色のある教育方針を共通認識
- 学校・学科の理念を共有し、統一した指導
- 学校教育での指導方法
- 学校の歴史や教育方針の理解度の違いによって、**学生指導のあり方に差異**
- 大学の理念、方針や学生に関わる教育視点を共有、確認
- 標準化された対応

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」
質問3 新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
(1) どのような内容が必要か①～③

- 「現代社会における学生指導のあり方」
- 学生指導とは (7か所)
- 学生に対する指導 (14か所)
- 大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーなどの理解
- 学生と教員の距離感と教員のチームワークの大切さ
- 教員としての心構え (2か所)

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」
質問3 新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
(1) どのような内容が必要か①～③

- 学生指導。本校では全学的に様々なFDがあり、学生に対する理解を深めるような研修が行われていたりもします
- 学生の個性や、授業態度、教えるべき項目についての分担について必要
- 教育理念を共有し学科としての方向性、運用方法について連携することが必要
- 本学園の理念、新任教員としての心得
- 理念や指導について

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

研修プログラムに関する調査結果

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性 (1) どのような内容が必要か

- 学生指導とは (7か所)
- 学生に対する指導 (14か所)
- 教育理念を共有し学科としての方向性、運用方法について連携することが必要
- 教員としての心構え (2か所)

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性 (2) そのように考える理由

- 介護老人福祉施設等で勤務していたものが (ご利用者と接していた) 急に学生に対して「教える」「伝える」「指導」は難しい
- 教員経験がない場合、教育について指導するだけでないことを意識してほしい
- 学校・学科の理念を共有し、統一した指導
- 学校の歴史や教育方針の理解度の違いによって、学生指導のあり方に差異
- 標準化された対応

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

問題の所在 (5点)

- 文部科学省「生徒指導提要」を活用する者は、教員免許を取得した者←① 教員養成教育を満了した者←②
上述の教員の勤める「学校」は、組織化が図られ←③
県単位の教育委員会 (監視役) が稼働←④
幼少期から教員を志し、それを目標に歩んできた者が多い←⑤
 - 介護福祉士養成校の教員は、教員資格がなくても学校が専門性・資格を認めれば教員となる (教育力・学生指導力等よりも専門性・資格保持重視の傾向)
- 授業では、介護・福祉の実務者としての専門能力を育成するが、学生指導では、教員として、社会的資質や自己指導能力を育まなければならない
今日の成長途上にある若者の社会的資質に関する理解

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

現在の学生傾向：新しい学生指導の在り方と実践
『まずは学生の生活指導から』大学職員の教育分析

- 単に基礎学力が低いというだけでなく、**意欲が低い**という問題が包含
- 学力は数字で示されることが多く分かりやすいが、**意欲は定量化しにくい【学力が低く、同時に意欲も低い学生への対応が一番の問題】**
↓
- 「大学全入時代」の到来を控え、勉強以前の社会常識や生活態度まで学生に指導する大学が出現。中高生に接するような手取り足取りの指導を行うことが必要
- 「**意外にも、口うるさく指導されることを学生も嫌がらない**。指導を強化する大学はさらに増えるだろう」と予想（学生は道をつくりなさいと言われるより、道を示して欲しい）
※先生方の学生はいかがですか？

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

提案[1] 学生指導では、組織的な教育方針の共有・教員集団をつくることが重要

- 学生を組織人として育成する教育活動に取り組む
- 授業時間外であっても、教員一人一人が違う関わりを行うと、学生は混乱し、先生や学校への信頼関係が損なわれる
- 大学には、4つの教育方針がある
※先生方の学校では、学生の進むべき方向性が明確になっていますか？←みなさん、所属する学校の教育方針を今一度ご確認ください

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

各々の学校

- **アドミッション・ポリシー**（入学者受入れの方針）
- **カリキュラム・ポリシー**（教育課程編成・実施の方針）
- **ディプロマ・ポリシー**（学位授与の方針）
- **アセスメント・ポリシー**（学習成果の評価の方針）

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

アドミッション・ポリシー

（別府溝部学園短期大学：入学者受入れの方針）

- 別府溝部学園短期大学は、「**自立・自活できる人材の育成**」を建学の精神としています。自立・自活できる人材をめざして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組み、社会で能力を発揮できる溝部学園ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成をめざしています。別府溝部学園短期大学はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。
- ”別府溝部学園短期大学は、「**あなたはこの資格のほかになにができますか？**」という合言葉に表すとおり、**積極的に自らの能力向上をめざし、社会に貢献できる人材を期待**しています。”

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

カリキュラム・ポリシー

（別府溝部学園短期大学：教育課程の編成・実施の方針）

- 別府溝部学園短期大学では、その教育目標に基づき普遍的に求められる教養と専門性を備えた有為の人材を育成するために、ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、幼児教育学科、介護福祉学科を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。
 1. 基礎教育科目をとおして、**はば広い教養と豊かな人間性を育成**するとともに、心身ともに健康で国際化社会に対応できる人材を育成します。
 2. 各学科が設置する専門教育科目をとおして、**専門的な知識や技能の修得**を目指し、もって地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。
 3. 様々な教育プログラムをとおして、各学科の目指す資格の取得を図るとともに、**多様な資格の取得に取り組む意欲**のある人材を育成します。
 4. インターンシップ、キャリア教育、各種の実習をとおして、**実践的教育**を図るとともに、**就職支援**を行い持続的就業力を持つ人材を育成します。

29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ディプロマ・ポリシー

（別府溝部学園短期大学：学位授与の方針）

- 学則第5条に規定する期間在学し、所定の授業料等を納入し、所定の科目及び単位を修得し、次に示す方針に基づいた能力と態度を有するに至った者には、卒業証書及び学位を授与する。
 - 1) **はば広い教養と豊かな人間性を育む努力**ができる。
 - 2) **専門的な知識や技能の修得をめざし、もって地域社会の発展に貢献**できる。
 - 3) **各学科のめざす資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲**を持つ。
 - 4) **専門性を持った持続的就業力をつける**ことができる。

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

アセスメント・ポリシー

(別府溝部学園短期大学：学習成果の評価の方針)

- 別府溝部学園短期大学では、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：DP」「教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー）：CP」「入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）：AP」に基づき、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの3段階で学修成果を査定する方法を定めています。

機関レベル（別府溝部学園短期大学）のアセスメント・ポリシー

学生の志望進路（就職率、資格・免許を活用した進路への就業率など）から、学修成果の達成状況を査定します。

※具体的な検証方法

入学前・入学直後 APを満たす人材かどうかの判定	単位認定・進級判定 CPIに則って学修が進められているかの判定	卒業判定・卒業後 DPを見たす人材になったかどうかの判定
<ul style="list-style-type: none"> 各種入学試験 調査書等の記載内容 取得資格等 	<ul style="list-style-type: none"> GPA 学生生活に関するアンケート 休学率・退学率など 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業率 学位授与数 就職率 卒業時満足度調査

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

別府溝部学園短期大学 介護福祉学科の基本理念（コンセプト）

元気よく生活支援ができる
人の気持ちに寄り添える
礼儀正しい介護福祉士



32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

個人としての学生指導から 組織人としての学生指導へ

～介護福祉職を担う人材から
(介護福祉職を養成する) 教員への転換～

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

提案[2] 教員の職業的アイデンティティを 学ぶ機会を設ける

- FD (Faculty Development) : 学習者を中心とした大学改革を目指して、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための組織的取組
- SD (Staff Development) : 大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させる
- PD (Professional Development) : 大学教職員及び大学組織の職能開発の取組
- ED (Education Development) : 教育開発
- AD (Academic Development) : 大学開発

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

私自身の立ち位置（今までの歩み）

- 現在、副学長と介護福祉学科科長を兼任、多くの学生に教授（約40年間）
- 約20年間介護福祉学科での数多くの教員との出会い、学生を教育しているという同じ立場でありながら、教員の数々のハプニング・不思議に出会い、言葉に窮したことが多々もあった



“学生指導” 以前の “教員としての考え方・在り方”
への疑問・悩み

教員としての揺らぎを経験；事例（1）～（4）

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

事例（1）新任時に揺らぎを体験した出来事

《オムニバスの授業》

授業者はA先生。学生は映像教材を視聴中、多くの学生が居眠りをしていた。

【私】「注意をしましょうか？」

【A先生】「学生はもう大人なので、自己責任です。ここは高校ではないのですよ」と大声で返答があった。

結果：その後、学生はそのまま眠っていた。

私は、授業中に起こることは教員と学生の双方に責任があるのではないかと考えた。そのため、他教員に相談をした。その先生は、「教員が何もしないのは教育放棄ですよ」とおっしゃられた。学生である以上、また学習場面ではより一層責任をもち、関与することは大切であることを学んだ。

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

事例（2）新任時に揺らぎを体験した出来事

《学生相談》福祉視点から教育視点へ

管理職より「学生の相談にのってあげてください」という依頼があった。私は、学生の話を受容し、傾聴した。学生は、他の先生の不満を話していた。後日、管理職の先生に学生より、「『（私）先生にしかもう話をしない』と言われてますよ」と伝えられ、私は大変驚いた。学生に話を聞くと、「先生がわかってくれたから」と話し、学生のネガティブな気持ちが高まったようであった。私は、教員として相談にのることは受容、傾聴、共感だけではなく、事実の認識を促したり、俯瞰した捉え方等、思考のサポート・学生自身の振り返りを促すことも必要であることを学んだ。

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

事例（3）中堅時に揺らぎを体験した出来事

クラス全員が100点の評価であったことを同僚から相談を受ける。

【私】「個別にきちんとした評価が必要と思います」

【B先生】学生たちは入学したての4月に比べると、全員伸びているので全員が100点である。

※結果：全員100点

教員集団で会議し、個人内の比較ではなく、到達基準に応じた評価を求めた。その後は、シラバスの記載を詳細にし、到達基準をわかりやすく学生に提示し、自学習に励む環境を整えた。

38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

事例（4）管理職時に揺らぎを体験した出来事

学生の喫煙後の煙草のポイ捨てにより、発煙が確認された。学生には、ポイ捨てなどがあった場合、喫煙場所が建物より遠い、発火の可能性が低い場所に移動されることを明示していた。教員集団で会議し、喫煙場所を変更することとした。会議で承認されたが、クラスで伝達する際に、C先生が「学生の主体性が大事で、学生に決めさせたい」と突然発言された。

※教員間の見解が異なることで、学生およびクラスに混乱が起こった。分裂や分断の雰囲気生まれ、学生がそうした視点で教員を眺め、信頼が崩れることで、学ぶことの態度がくずれ、学習効果が薄れた。

39 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

気づき

- ・福祉視点から教育視点への切り替え
- ・援助職から教育職への切り替え
- ・不快体験を与えない関わりから、不快体験を乗り越える関わりへの変化

（学生と利用者さんの区別がし難い）

（教育現場に慣れていないため、良い人を演じやすい傾向・嫌われ役ではなく好かれ役を）

（学生・他の教員に優しくすることは良いことだという信じ込み）

（学生に歩み寄りすぎて、彼らの想いに共感し、押し切られたり、曖昧に許したり、諦めたりするので、フレンドリー傾向）

40 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員研究

教員の職業的アイデンティティ

教員の職業的アイデンティティに着目 （教職アイデンティティ）

アイデンティティとは、主体性・自己同一性
背景には「自らがどのような教員であるか」と
いう教員の自己意識が大切

教員の教授方法や職業的発達のあり方、教育現場の変化への反応等、教職の専門性に関わる
様々な教員の意識・行為を条件付ける

41 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員研究

教員の職業的アイデンティティ

教員集団内の教職アイデンティティの確立

同僚の存在が重要な他者として位置づけ

なぜなら教員の仕事の難しさは外部からは理解し難いため、同じ内部者である同僚からの評価や承認は、教職アイデンティティの安定化／らぎに大きく関わる

42 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

おわりに

学生指導とは、一人一人の学生の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現できるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の学生の自己指導能力の育成を目指すもの

そのために、日々の教育活動においては

- ① **学生**に自己存在感を与えること
- ② **学生間**に共感的な人間関係を育成すること
- ③ **学生**に自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること

43 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

“教員の揺らぎ”が“学生の揺らぎ”へ

- ① **教員同士**で自己存在感を与え合うこと
- ② **教員集団**に共感的な人間関係を育成すること
- ③ **教員一人一人**に自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること



「学生指導」につながる

44 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

私の考える学生指導

- ・教員としての考え方・在り方（教職アイデンティティ）が問われる。
- ・教員集団で話し合いながら、教育方針に基づいて前に進めていくプロセスである。

介護福祉職を目指す学生に対する学生指導

- ・教員は介護福祉職アイデンティティを築いてきた自覚を持ちながら、教員としての考え方・在り方を身に付けることが大切である。

教職アイデンティティの醸成・発達

- ・教員個人と教員集団アイデンティティの相互作用で構成される。

45 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

最後に、具現化するには・・・

- ・「学生指導とは？」をつきつめていくと、教員がどう学生の前で考え・どう立ち振る舞うかが非常に意味がある。
- ・学生・学生集団に、学生指導を教員集団で示していくことが大切。
- ・教員間でのプロ集団コミュニケーション図る。 <つながる教員><しつめる教員>という異なる教員役割・集団としての力動等。

46 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員…基本理念・集団のまとめ
教職アイデンティティの発達

47 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員は組織的・計画的
学生指導に自信をもって
取り組める
学生は健全な成長と自己
指導能力の育成を目指す

48 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目 1 1 実習指導方法（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習の位置づけ（カリキュラムや区分など）を理解する ・介護実習「前、中、後」におけるそれぞれの知識・技術などの指導方法を理解する ・介護実習における多様な学生に対しての効果的な指導を修得する ・巡回指導を非常勤講師に委ねている場合も多くみられ、養成校での指導内容を理解する
講師	・石岡 周平／町田福祉保育専門学校 介護福祉学科
研修概要	<p>(1) 実習前－実習前準備についての指導（実習の意義・目的、実習施設等の理解、記録の意義・目的・記入方法、実習先との連携、多職種協働、ルールなど）</p> <p>(2) 実習中－実習中の指導について（健康管理、コミュニケーション方法、個人情報、巡回指導〔方法・学生の悩み事例〕、反省会など）</p> <p>実習後－実習後の指導などについて（お礼状、実習報告会（振り返り）や反省、評価（自己評価と他者評価）、就職など）</p>
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・共通1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・「介護実習指導のためのガイドライン」日本介護福祉士会(2019年3月) ・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業報告書」日本介護福祉士会(2019年3月)

【授業内容】

■実習前：介護実習の指導をするためには、まず介護福祉士の養成カリキュラムについて理解する必要があります。総時間数1,850時間のうち、介護実習は450時間です。介護実習には、「実習区分Ⅰ」「実習区分Ⅱ」があり、それぞれに目的や規定などがあります。各養成校は、450時間の中で様々な期間や日程において介護実習を行なっています。以前からの様々な介護現場における学びだけでなく、新カリキュラムでは「介護過程の実践的展開」「多職種協働の実践」「地域における生活支援の実践」が重視された教育内容となっています。介護福祉士養成に関わるすべての科目が介護実習の準備につながる科目ですが、その中でも「介護総合演習」は、直接的な指導をする科目となり、実習前や実習後の指導はこの科目を通じて行われます。また、介護実習は資格取得時の「求められる介護福祉士像」達成に向けて、介護現場において実践や体験をする場ともいえます。

実習前の指導としては、まず介護実習の「意義と目的」をしっかりと学生に理解させるところからはじめます。そうすることで学生の介護実習に向けての意識が高まり、授業効率も高まることにつながります。介護実習においては、様々な介護現場を経験させることも必要となります。そのため、介護実習で経験する施設や事業所について、様々な種別や特徴などを理解させます。介護実習に向けて事前に「実習目標」を設定し、何を学びたいのか、どんな実習にするのかイメージさせ、実習中はそれを目標に行動していくこととなります。介護実習において、最大の難所となるのが「実習記録」で、毎日の実習中に疲れもある中で様々な指導を踏まえて書いていくことは限界がありま

す。できる限り「実習前」に養成校で記録に関する指導をしっかりとしておきたいものです。学生が実習に行く前に、養成校側と実習施設側の規定や実習内容など様々なことを実習施設と連携して打ち合わせておくといでしょう。

■実習中：実習中は健康管理をしっかりとしていく必要があります。近年は感染症のリスクもあり、より体調維持が重要となっています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「健康確認表」などを記入し、健康チェックを行なって実習に臨む必要がでてきています。学生が、介護実習で躓くポイントに「コミュニケーション」「個人情報の管理」などが挙げられます。健康管理も含め、この辺りは実習中だけでなく、実習前から指導をしておくといでしょう。巡回指導における規定を理解し、巡回指導に臨みます。巡回指導時に学生が悩む事例などを紹介しています。実習終了時には「反省会」が行なわれ、巡回指導教員が出席する場合があります。

■実習後：実習終了後には、お世話になった施設、利用者、指導者などに宛てた「お礼状」を書きます。実習はカリキュラムに位置づけられている科目の一つであるため、実習施設が「評価」をつけます。その施設がつける評価だけでなく、自己評価や実習報告会の発表の場などで客観的な反省ができると次の実習や就職後につながります。

※学生の実習が良い学びとなり、充実した実習となるには、実習指導をしっかりと行わなければなりません。各養成校において、細かな規定や実習の位置づけ、日程、指導法などは違いがあります。そのため、非常勤の巡回指導教員や各教員間で連携して、介護総合演習や実習に関連する学生への指導内容なども確認しておく必要があります。

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅲ 介護教員講習会の専門分野に関すること

科目11 実習指導方法

公開期間：令和3年3月3日～12日

石岡 周平 / 町田福祉保育専門学校

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護実習の位置づけ(カリキュラムや区分など)を理解する。
- 介護実習「前、中、後」におけるそれぞれの知識・技術などの指導方法を理解する。
- 介護実習における多様な学生に対しての効果的な指導を修得する。
- 巡回指導を非常勤講師に委ねている場合も多くみられ、養成校での指導内容を理解する。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	実習指導方法Ⅰ [介護実習前の指導や準備]	30分
(2)	実習指導方法Ⅱ [介護実習中や実習後の指導など]	30分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

実習指導方法Ⅰ [介護実習前の指導や準備]

【目次】(30分)

- ①カリキュラム
- ②介護実習の意義・目的
- ③施設・事業所の理解
- ④目標設定
- ⑤記録の意義、目的、書き方
- ⑥実習先(施設・事業所)との連携
- ⑦多職種協働
- ⑧地域との連携

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護実習前の指導

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

①カリキュラム [介護実習の位置づけⅠ]

介護実習の総時間数 = 450時間

【実習区分Ⅰ】

利用者の生活の場である多様な介護現場において、**利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置いた実習。**
「実習施設・事業等(Ⅰ)」

(区分Ⅱ) 介護実習の総時間数の1/3以上実施すること

【実習区分Ⅱ】

一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、**利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置いた実習。**
「実習施設・事業等(Ⅱ)」

6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

厚生労働省「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」より

①カリキュラム [介護実習の位置づけⅡ]

実習区分による実習施設の規定

【実習区分Ⅰ】

- ・介護保険法その他関係法令に基づく基準を満たす施設または事業で、利用者の生活の場である多様な介護現場
- ・実習指導者の資格は、介護福祉士資格を有する者、または3年以上の介護業務に従事した経験を持つ者

【実習区分Ⅱ】

- ・上記の施設で、介護過程を継続的に実践、指導できる施設
- ・実習指導者の資格は、介護福祉士として3年以上の介護業務に従事した経験を持ち、実習指導者講習会を修了した者、その他そのものに準ずる者で厚生労働大臣が別に定める者
- ・常勤の介護職員のうち、介護福祉士が3割以上配置されていること
- ・実習に関するマニュアル、サービス記録が適切に整備されていること

①カリキュラム [介護実習の日程例]

令和2年度 実習日程

合計：456時間

実習区分	実習名	実習時期	実習施設(種別)	時間
実習区分Ⅰ	基礎実習A [1年生]	令和2年6月8日～6月19日 令和2年11月9日～11月20日[延期]	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 など	10日 (80時間)
	基礎実習B [1年生]	令和2年10月5日～10月9日 令和3年3月8日～3月12日[延期]	認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 通所介護 通所リハビリテーション 知的障害者生活介護 短期入所生活介護 介護老人ホーム など	5日 (40時間)
	施設実習Ⅰ [1年生]	令和3年2月1日～2月26日	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 介護施設 身体障害者療養施設 重症心身障害者施設 など	20日 (160時間)
	居宅介護実習	令和2年10月19日～12月11日 【今年度中止→代替実習】	訪問介護事業所 (ヘルパーステーション)	2日 (16時間)
実習区分Ⅱ	施設実習Ⅱ (介護過程) [2年生]	令和2年8月24日～9月18日	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 介護施設 身体障害者療養施設 重症心身障害者施設 など	20日 (160時間)

①カリキュラム [介護実習の教育内容]

	教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例
介護実習 (450時間)	①介護過程の実践的展開	介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。	1) 実習を通じた介護過程の展開
	②多職種協働の実践	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。	1) 実習を通じた多職種連携の実践
	③地域における生活支援の実践	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。	1) 対象者の生活と地域との関わり 2) 地域拠点としての施設・事業所の役割

①カリキュラム [介護総合演習] ※実習の準備科目

	教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例
介護総合演習 (120時間)	①知識と技術の統合	・実習の教育効果をもつため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う内容とする。	1) 介護総合演習の意義目的 ・各領域で学んだ知識と技術の統合 ・介護観の形成 ・介護実習の枠組みと全体理解(実習区分Ⅰ・Ⅱ) (実習施設・事業) など ・介護実習の意義目的 ・実習計画の作成 ・実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり ・実習の準備 ・実習目標の設定 ・実習計画の作成 ・実習記録の意義と目的 ・方法、留意点 ・個人情報取り扱い ・健康管理 ・実習におけるスーパービジョン ・自己評価と客観的評価 ・実習のまとめ、実習報告会などを通じた学びの共有、深化 ・自己課題と指導
	②介護実践の科学的探求	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。	2) 実習に関する基礎知識 3) 実習の振り返り 1) 介護実践の研究 ・研究の意義と目的 ・研究方法の理解(質的研究・量的研究事例研究など) ・倫理的配慮 ・研究内容の発表

②介護実習の意義と目的Ⅰ

介護福祉士養成の目標

- 資格取得時の到達目標
1. 職業に共通で、習得の目標として掲げられる姿勢を身につける
 2. あらゆる介護職種に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
 3. 介護現場の環境を理解する
 4. 介護を必要とする人の権利を尊重し、尊厳・健康を守るための態度について理解する
 5. 利用者主体のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する
 6. 介護に関する社会保険の制度、施設について基本的知識が得られる
 7. 後の職種での役割を理解し、チームに貢献する能力を養う
 8. 利用者ができる限り自立した生活を送るよう支援が求められるよう、利用者主体の生活支援を学ぶ
 9. 介護現場の環境、施設について理解する
 10. 介護現場の環境、施設について理解する
 11. 介護現場の環境、施設について理解する

資格取得時の到達目標

実習では、「実践」「体験」を通して学ぶ

- 求められる介護福祉士
1. 基礎的な知識・技術の習得
 2. 介護現場の環境・施設について理解する
 3. 利用者主体のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する
 4. 介護現場の環境・施設について理解する
 5. 介護現場の環境・施設について理解する
 6. 介護現場の環境・施設について理解する
 7. 介護現場の環境・施設について理解する
 8. 介護現場の環境・施設について理解する
 9. 介護現場の環境・施設について理解する
 10. 介護現場の環境・施設について理解する
 11. 介護現場の環境・施設について理解する

②介護実習の意義と目的Ⅱ

【養成校からみた意義と目的】

- ・養成校で学んだ知識・技術の実践と統合化を図る
- ・介護過程などから、利用者主体の課題解決能力を養う
- ・対人援助職としてのコミュニケーションの実際を学ぶ
- ・チームケア、多職種協働、地域との関わりなどを学ぶ

専門職として、介護現場の実際を知る

【実習施設・事業所からみた意義と目的】

- ・次世代を担う後継者育成の場となる
- ・ケアを言語化することで、指導職員などの成長につながる
- ・実習生を受け入れることは、社会的に求められる役割

教えることは学ぶこと

③介護実習の施設・事業所の理解

【高齢者系】

- ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
- ・介護老人保健施設
- ・養護老人ホーム
- ・有料老人ホーム
- ・認知症対応型共同生活介護
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・通所介護
- ・居宅介護 など

- **関連する法律の理解**
「介護保険法」「障害者総合支援法」など
- **各種別の特徴などの理解**
「規定」「利用者の特徴」など
- **施設・事業所ごとの特徴**
「A施設」「B施設」「C事業所」「D事業所」など

【障害者系】

- ・障害者支援施設
- ・生活介護
- ・居宅介護 など

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

④介護実習の目標 I

『実習目標』を設定する

「何を学びたいのか」を「具体的に」「どのように」という視点で設定する。

- 【区分Ⅰ】
- ・施設の概要と職員の業務内容について理解する
 - ・職員の指導を受けながら、利用者の状態に合わせたコミュニケーションの方法を学ぶ
 - ・職員に同行する中で、様々な利用者に合わせて生活支援技術を学ぶ
- 【区分Ⅱ】
- ・日々の利用者との関わりや職員の指導の下、アセスメントし、ニーズに合わせた計画立案、実践、評価ができるようになる

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

④介護実習の目標 II

「実習目標」やその他の記録物の書式などは、



『実習の手引き』『実習要綱(要項)』 → 各養成校ごとの介護実習に関する「マニュアル」のようなもの

- ・当該養成校の規定
- ・様式集
- ・書き方
- ・実習施設一覧 など

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

④介護実習の目標 III

「実習計画書」「ガイドライン」 → 実習期間中に、計画書にある学習スケジュールに沿って実習生は、実習を行っていく

『実習計画書』の例

実習期間：令和 年 月 日 ~ 月 日 (10日間)		実習施設への経路(交通機関)	
種別	実習施設名	種別	実習施設名
実習日数	施設	実習日数	施設
1週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
2週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
3週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
4週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
5週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
6週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
7週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
8週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
9週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数
10週目	実習の日数	実習の日数	実習の日数

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑤実習記録の意義・目的・書き方 I

実習記録の意義・目的

- ・介護実践の証明としての記録となる
- ・サービスの質の維持、向上につながる
- ・情報共有ができ、チームアプローチにつながる
- ・利用者、家族との信頼関係構築につながる

実習記録の書き方

『5W1H』

『専門用語』

- 【5W1H】
- ・When 「いつ」(時間)
 - ・Where 「どこで」(場所)
 - ・Who 「誰が」(主体)
 - ・What 「何を」(目的となる人や物)
 - ・Why 「なぜ」(理由)
 - ・How 「どのように」(手段)

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑤実習記録の意義・目的・書き方 II

『客観性』 → 主観で書かない

『叙述体』 → 時系列に沿って書く

記録の時間

★毎日の実習の中で、日誌を書く「記録の時間」がある。

『記録の時間を実習時間に入れて差し支えない』となっている。

毎日の日誌を書くのは大変なので、善意で時間を取ってくださる。

(学生の声)

- ・記録の時間が施設(事業所)によって違う。[30分/1時間など]
- ・記録の時間がない施設(事業所)がある。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑥ 実習施設・事業所との連携 I

実習指導者

【実習区分 I】

- ・実習指導者の資格は、介護福祉士資格を有する者、または3年以上の介護業務に従事した経験を持つ者

【実習区分 II】

- ・実習指導者の資格は、介護福祉士として3年以上の介護業務に従事した経験を持ち、実習指導者講習会を修了した者、その他そのものに準ずる者で厚生労働大臣が別に定める者

『実習指導者講習会の修了者』⇒ 1名につき、実習生5名まで受け入れ可能

実習指導者…実習施設・事業所にて「実習生を受け入れる指導責任者」
 実習担当者…実習生の「その日の実習を担当する職員」
 実習担当教員…養成校などで「実習に関する事前事後指導をする教員」

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

日本介護福祉士会「介護実習指導のためのガイドライン」より

⑥ 実習施設・事業所との連携 II

実習指導者講習会

各都道府県の介護福祉士会や事業者、一部の養成校などで実施している。

【講習会の一例】

- ・介護実習の現場への期待 (1.5時間)
- ・実習生の理解 (2時間)
- ・介護福祉士養成課程における介護実習の目標と課題 (2時間)
- ・介護実習における実習生への指導方法 I・II (14時間)
- ・実習指導者に求められるもの (3時間)

【講習会参加者の声】
 ・多様な学生がいることがわかった
 ・養成校のことが何となくわかった など

厚生労働省「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」より

《現在の養成校は、多様な学生が在籍》

- ・学力が不足している学生
- ・コミュニケーションが苦手な学生
- ・精神的なものを抱えた学生
- ・外国人留学生 など

実習施設と、
密にコミュニケーションを
取ることが重要

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑦ 多職種協働

【介護現場で関わる多職種】

- ・医師、歯科医師
- ・看護師
- ・理学療法士 (PT)
- ・作業療法士 (OT)
- ・言語聴覚士 (ST)
- ・管理栄養士
- ・介護支援専門員
- ・サービス管理責任者
- ・相談支援専門員
- ・児童発達支援管理責任者 など



それぞれの専門職の役割などを
しっかり事前学習しておく
必要がある

- ・ケースカンファレンスへの参加
- ・各種会議や打ち合わせなどへの参加
- ・各専門職への同行実習 など

カリキュラムで明示されているように、
実習施設へ
「多職種連携」
「チームケア」
の学習機会を依頼する必要がある

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑧ 地域との連携

【養成校が取り組むべきこと】

- ・実習施設周辺の地域環境や資源、文化や歴史を事前に学習する
- ・地域性や実習施設の取り組みなどを学習する
- ・実習終了後は、実習での体験を実習生間で情報共有を行なう

【実習施設が取り組むべきこと】

- ・通所介護や短期入所の送迎等の機会に、地域環境や資源などの説明
- ・実習施設での地域行事やイベントなどへ実習生の参加機会をもつ
- ・施設の地域開放や講座、災害時の地域での役割など学ぶ機会の提供
- ・施設や介護福祉士などが、地域の課題にどう取り組んでいるか学ぶ

日本介護福祉士会「介護実習指導のためのガイドライン」より

カリキュラムで明示されているように、
実習施設へ
「地域との連携」につながる
学習機会を依頼する必要がある

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

【参考文献・引用文献】

- ・「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した 介護教員講習会の教育内容等について～」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会(2019年3月)
- ・「介護福祉士養成課程 新カリキュラム教育方法の手引き」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会(2019年3月)
- ・「介護実習指導のためのガイドライン」
公益社団法人日本介護福祉士会(2019年3月)
- ・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業報告書」
公益社団法人日本介護福祉士会(2019年3月)

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	実習指導方法 I [介護実習前の指導や準備]	30分
(2)	実習指導方法 II [介護実習中や実習後の指導など]	30分

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

実習指導方法 [介護実習中や実習後の指導]

【目次】

【実習中の指導】（20分）

- ①実習中の健康管理
- ②コミュニケーション
- ③個人情報の管理
- ④巡回指導の方法
- ⑤反省会

【実習後の指導】（10分）

- ⑥お礼状
- ⑦実習の評価
- ⑧実習報告会
- ⑨就職

25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護実習中の指導

26 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

①実習中の健康管理Ⅰ

(1)規則正しい生活

- 実習に集中する
- 日誌を熱心に書くとする学生は「寝不足」に
- 体力の低下は「感染症」のリスクが

実習へのモチベーションを維持したい

(2)体調の優れないときは「休む」勇気を

- 体調不良での介護は、利用者のケガ等のリスク
- 感染症の場合、利用者に生命の危機も…
- 真面目な実習生ほど、無理をする傾向

介護は、利用者の命を守る仕事!!

27 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

①実習中の健康管理Ⅱ

新型コロナウイルス感染症関連の通知

厚生労働省 事務連絡(令和2年4月7日)

「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」

別紙 P2

「社会福祉施設等(入所施設・居住系サービス)における感染防止に向けた対応について」

→感染者が発生した場合に積極的疫学調査への円滑な協力が可能となるよう、
症状出現 2 日前からの接触者リスト、利用者のケア記録(体温、症状等がわかるもの)、
直近 2 週間の勤務表、施設内に入入りした者等の記録を準備しておくこと。

これに準じていると思われる、実習施設側から健康観察の実施が求められる。

養成校も健康管理をして実習に送り出すため、「健康管理の記録」を記入する。

28 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

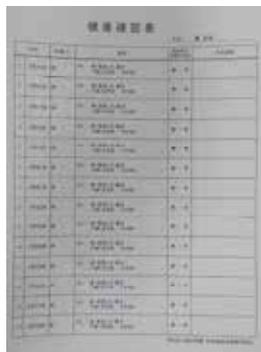
①実習中の健康管理Ⅲ

健康確認表の例

【記録内容】

- ・体温
- ・症状の有無
- ・家庭内体調不良者の有無
- ・外出記録(行動記録)

など



29 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②コミュニケーションに関する指導Ⅰ

(実習生の悩み)

「利用者とコミュニケーションの取り方がわからない」

- 認知症の人や聞き取れない場合の対応がわからない
- 話が途切れた時の沈黙が怖い

→何を話したらいいのかわからない

【対策】

- ・利用者の名前を覚える
- ・利用者の特徴、個性を知る
- ・対象者(高齢者、障害者)に合わせた話のネタを探る

30 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②コミュニケーションに関する指導Ⅱ

実習施設から指摘されること
「(実習生が)利用者にタメ口で話してしまう」
(崩れた言葉遣い)

→『認知症の利用者などとの会話は、
「敬語」では伝わらない』の誤解

【コミュニケーションの技法】
言語コミュニケーション
非言語コミュニケーション

・表情
・声の大きさや抑揚
・ジェスチャー
・身体的接触
・雰囲気

言葉の使い分けは、かなりの「慣れ」がないと難しい

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③個人情報の管理に関する指導Ⅰ

個人情報保護法

【第2条】 生存する個人の情報(死者の個人情報は含まない)

①氏名、年齢、生年月日など特定の個人を識別することができるもの

②個人識別符号(購入の際のカードや書類、電子計算機などに供するため、変換して個人を識別できる文字、番号、記号)が含まれるもの

【第3条】 個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、その適正な取扱いが図られなければならない。

社会福祉士および介護福祉士法
(秘密保持義務)

第46条 社会福祉士または介護福祉士は、正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。社会福祉士または介護福祉士でなくなった後においても同様とする。

介護保険法
(秘密保持義務)

第28条7 指定居宅介護支援事業者等(介護老人福祉施設など様々な種別含む)、もしくはその職員や介護支援専門員またはこれらの職に就いた者は、正当な理由なく当該委託業務に関して知り得た個人の秘密を漏らしてはならない。

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③個人情報の管理に関する指導Ⅱ

【実習中に注意すべき点】

(1) 日誌や介護過程など、利用者名は「イニシャル」
→実習開始直後は、意識が薄くなっている

(2) 記録物の紛失など注意する
→記録物を帰宅途中で紛失したり、
コンビニのコピー機に置き忘れないように注意

(3) 実習施設外で、実習に関することを話さない
→行き帰りの公共交通機関などで話さない
→SNS等で、実習に関することを書き込まない

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

④巡回指導の方法Ⅰ

【巡回指導とは】

厚生労働省社会・援護局長 通知(平成20年3月28日)

「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について」

9 実習に関する事項

(8) 介護福祉士養成施設において介護実習を担当する教員が、実習期間中に各介護実習施設等を週1回以上巡回して、個々の生徒について実習の課題を把握し、当該介護実習施設等における実習目標の達成状況を踏まえ、目標達成のための具体的な方法について指導を行うこと。ただし、これにより難しい場合においては、介護実習施設等との十分な連携の下、実習期間中に生徒が介護福祉士養成施設において学習する日を設け、指導を行うこととしても差し支えないこと。(→帰校日)

【巡回指導教員】

実習は領域「介護」に該当する教育内容であるため、介護教員講習会を修了した専任教員によって巡回指導を行うことが望ましいと考えていますが、

それにより難しい場合については、専任教員以外の教員が巡回指導を行うことも可能です。

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「社会福祉士養成課程及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しに関するQ&A」より

④巡回指導の方法Ⅱ

【学生の相談内容例】

- (1) 実習担当者によって言うことが違う
- (2) 学校と現場の違い
- (3) 介助が怖い
- (4) お菓子をもらった
- (5) 職員から個人的に連絡先を聞かれた

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑤反省会 (スーパービジョン)

【反省会とは】

→実習最終日などに、実習期間を振り返っての反省や今後の課題などを明確にするために行われる。



※ 巡回教員は反省会に出席できないこともある。

- 反省会の進行例
- ① 開始の挨拶
 - ② 実習生の反省
 - ③ 施設職員等からのコメント
 - ④ 巡回教員からのコメント
 - ⑤ 実習終了にあたっての事務確認等

・実習生が司会を任せられる実習施設もある
・実習生の反省は、実習前に立てた「目標」に沿って話すことよ
・記録物の提出方法などについて確認
・宿治や施設の名事を利用していた場合は清算する

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護実習後の指導

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑥お礼状の作成について

【お礼状】

→日々の生活を見せてくれた利用者、多忙の中指導してくれた指導者、受け入れてくれた施設へ感謝の気持ちを伝える。

- ・新卒の学生などは、「手紙」を書いた経験が少ない
- ・手紙の文章だけでなく、封筒の書き方、切手の買い方なども指導する必要がある



38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑦実習評価Ⅰ

【実習施設の評価】

⇒「区分Ⅰ」「区分Ⅱ」によって評価する項目は違う。
各養成校で定めた「評価表」を実習施設が記入する。

- 【評価内容】
- ・基本姿勢
 - ・実習施設の理解
 - ・利用者の理解
 - ・生活支援技術
 - ・コミュニケーション
 - ・介護過程（区分Ⅱ）
 - ・多職種協働の理解
 - ・地域との連携の理解
など



39 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑦実習評価Ⅱ

【自己評価と他者評価】

- ・自己評価⇒実習生自身がする評価
- ・他者評価⇒実習施設がする評価

実習生に
自己評価を
させたい

自己評価と他者評価に「違いは出るもの」だが、これを近づけることができれば、将来に役立つ。

- ・近年の学生は「自己評価」が極端
→すごく低い(自信がない)、すごく高い(客観性がない)
- ・他者評価(実習施設の評価)もバラつきがある。

40 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑧実習報告会

【実習報告会や振り返りの場のメリット】

- ・実習生の学びの振り返りにつながり、客観的に課題を捉え、今後の成長につながる。
- ・他の実習生の報告や振り返りを聞くことで、自身の反省にもつながり、新しい発見も得られる。
- ・養成校での学びと、実習施設での学びを統合する機会になる。

41 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑨実習施設に就職を誘われた場合

【実習施設に就職を誘われた】

・実習生も実習施設に「就職を希望している」場合は、実習指導担当者や採用担当者、養成校の就職担当者などと連携して進める。

・実習生が実習施設に「就職を希望しない」場合は、実習生の不利益とならないように、お断りする。

実習施設に、当該養成校の卒業生が増えると、養成校と実習施設の連携も取りやすくなり、実習も充実したものになる傾向がある。

42 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

【参考文献・引用文献】

- ・「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査
研究事業報告書 ～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応
した 介護教員講習会の教育内容等について～」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会(2019年3月)
- ・「介護福祉士養成課程 新カリキュラム教育方法の手引き」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会(2019年3月)
- ・「介護実習指導のためのガイドライン」
公益社団法人日本介護福祉士会(2019年3月)
- ・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制
のあり方に関する調査研究事業報告書」
公益社団法人日本介護福祉士会(2019年3月)

IV 教育方法に関すること

◆科目 12 アクティブラーニングを活用した授業展開（対象：全教員）

目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成に必要なアクティブラーニングの理念と理論を理解する ・自分の授業の現状と課題を把握し、改善方策を見いだす
講師	・藤村 裕一／国立大学法人鳴門教育大学 学校教育研究科
研修概要	(1) アクティブラーニングが必要な背景 （介護福祉士に求められる資質・能力と、学生に求められる学力） (2) 具体的な授業設計論 <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習指導の改善策 ・問題発見・解決学習の授業設計 （アクティブラーニングに必須な個別最適な学びと協働的な学びの両立）
時間数	(1)30分／(2)30分 計60分

介護福祉士には、利用者の個別性に着目し、自立支援に向けて、利用者・利用者の家族等の関係者・介護者みんなの Well-being を目指して、創造的に思考・行動していなければならぬ。そのようなことを可能にする中核的な能力は、問題発見・解決能力である。この力は、従来の教員主導の知識注入型一斉授業で指示待ち人間を量産するような授業では、育成することが不可能である。

そこで、アクティブラーニング^{注1)}への授業改善が、介護福祉士養成のためには必要になる。もちろん、安全指導やコンプライアンス指導などのように、基礎・基本として教師主導で確実に教えるべきこともあり、基礎・基本2割、アクティブラーニング8割程度が妥当であると言われている。

次に、このような授業改善を実現するための各種理論と具体例を紹介した。まず、「学力向上に対する4つの授業タイプごとの役割」を説明した。基礎・基本を育成する「教師主導の講義・実習・習熟型授業」を2割程度に絞り込み、次に「教師主導の課題解決学習」（学習課題^{注2)}を教師が与え、追求方法も教師が指定する学習）で学び方を鍛え、練習として「学生主体の課題解決学習」（学習課題は教師が与えるが、追求方法は学生が自由に決める学習）で練習をするようにする。そして、最終形である探求型の学習「問題解決学習」（現在は「問題発見・解決学習」と呼ぶこともある）で、介護福祉士に必要な、問題発見・解決能力を育成していく。

さらに、「問題解決学習における思考モデル」を紹介し、具体的な授業デザインのポイントを説明し、それぞれの場面で活用できるようにする思考が異なることを説明した。

注1) 現在は、単に活動させればよいとの誤解があるため、要件によってネーミングした「主体的・対話的で深い学び」という語が用いられている

注2) 教育工学では教師が与える問いを「学習課題」と呼び、学生が発見したものを「学習問題」と呼ぶ

次に、学生一人ひとりの特性の違いをいかし、主体的に問題発見・解決ができるようにするための「個別最適な学び」の背景にあるA T I（適正処遇交互作用）の理論と、それを実現する「E d T e c hによる個別化」（A Iドリル等の活用）と、教材研究と学生の反応予測から、学生をタイプ別に複線化して学生を支援する「個性化」の理念と手法について説明した。

また、介護福祉士養成で非常に重要な役割を担う実習指導の、アクティブラーニングの視点からの改善についても説明した。実習指導に優れた教員のコンピテンシー研究を基に、学生の「意欲の引き出し」、学生の悩みや考えに耳を傾ける「傾聴」、学生の前向きな取り組みを評価する「承認」、学生を安心させる「寄り添い」、より深い学びを主体的に引き出せるようにする「質問」などが、求められることについて解説した。

最後に、上記のようなアクティブラーニングへの授業改善を進めるために、授業や実習指導の様子を教員・学生の手承を得た上で記録したビデオを視聴しながら、改善の具体的方策について検討する省察の場の提供が有効であることについて説明した。

令和2年度生活困窮者救済費等補助金(社会福祉推進事業分)
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」
介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

対象：全教員

分野Ⅳ 教育方法に関すること

科目12 アクティブラーニングを活用した授業展開

公開期間：令和3年3月3日～12日

藤村 裕一／国立大学法人鳴門教育大学
学校教育研究科准教授

1 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の目的

- 介護福祉士養成に必要なアクティブラーニングの理念と理論を理解する。
- 自分の授業の現状と課題を把握し、改善方策を見いだす。

2 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

(1)	アクティブラーニングが必要な背景 (介護福祉士に求められる資質・能力と、学生に求められる学力)	30分
(2)	具体的な授業設計論 ● 介護実習指導の改善策 ● 問題発見・解決学習の授業設計 (アクティブラーニングに必須な個別最適な学びと協働的な学びの両立)	30分

3 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生にこんな傾向は見られませんか？

<例>

- 授業に集中できない
- 授業中にスマホをいじっている
- 指示されたことはするが、それ以外はしようとしていない
- 課題を提出できない
- 実習になんとか取り組み、トラブルを起こす

学生が悪い？

4 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉の神髄は教えられるか？

何でもしてあげるのではなく、自立支援した方がいい？

一人一人みんな違うのでどうしたらいいのかわからない！

利用者が選んで決められるようにした方がいい？

こんなことしたら、利用者の尊厳が傷つくじゃないかな？

利用者はそう言うけど、家族が困るんじゃないかな？

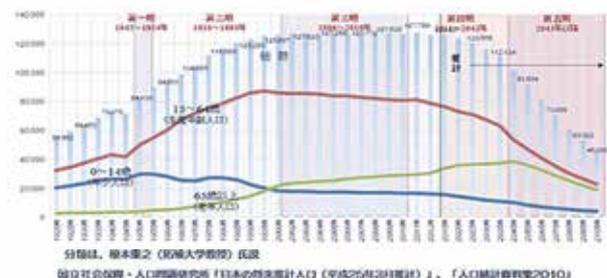
利用者に頼まれたことだけをすればいいのかな？

問題発見・解決能力

利用者の周りの様子で気付くというのは難しいな！

5 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

図1 日本の人口推移・推計（年齢3区分別）



6 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

こんな大学・短大・高専・専門学校になっていませんか？

- 最初からテキストを開き読み解く学習
- 走り書きの板書(非構造的な板書)
- 全員前を向いた机の配置
- 教員を向いての発言
- 学習課題・学習問題と対応した解決が、不明な授業
- 教師の指示のみで進行する授業
- 学生の思考と活動の流れを想定しない授業
- ワークシートが誘導になり、思考を奪っている

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

どんなに**変化が激しく、困難な状況でも**
利用者と**家族等**の関係者・**介護者**
みんなのWell-beingを
創造的に実現できる**学生(介護福祉士)**を
 育成するための**学力観・授業観の転換**

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



内閣府https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/より引用

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

現代社会・これからの社会の本質的な特徴

VUCA World

変化が激しく
 予測困難な
VUCA World
 を生き抜く人材を
 育てなければならない

教師主導の一斉型
 授業(知識再生型)
 チョークとトークでは
 無理



Beritz Global Blog (<https://www.beritz-globalblog.com/vuca>)
 文部科学省初等中等教育局学びの先端技術活用推進室・桐生室長の
 プレゼンテーション

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

どんなに変化の激しい社会でも、たくましく生きていける学生の育成
 (介護福祉の世界がどんなに変化しようとも対応可能な人材の育成)



11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

21世紀型能力

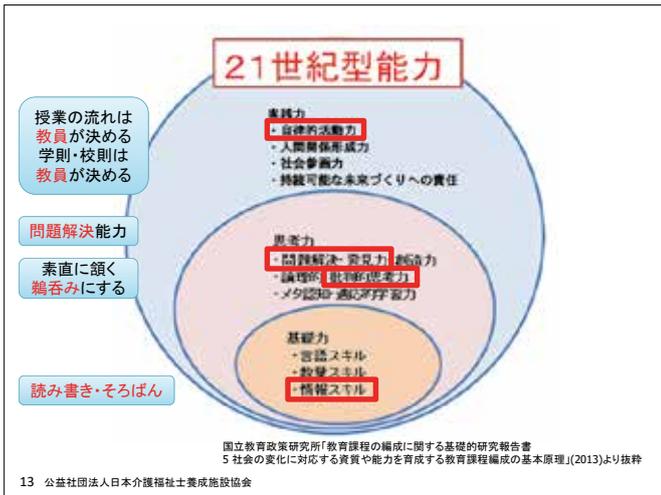
専門力
 ・自律的行動力
 ・人間関係構築力
 ・社会参画力
 ・持続可能な未来づくりへの責任

思考力
 ・問題解決・発想力
 ・批判的思考力
 ・メタ認知・適応学習能力

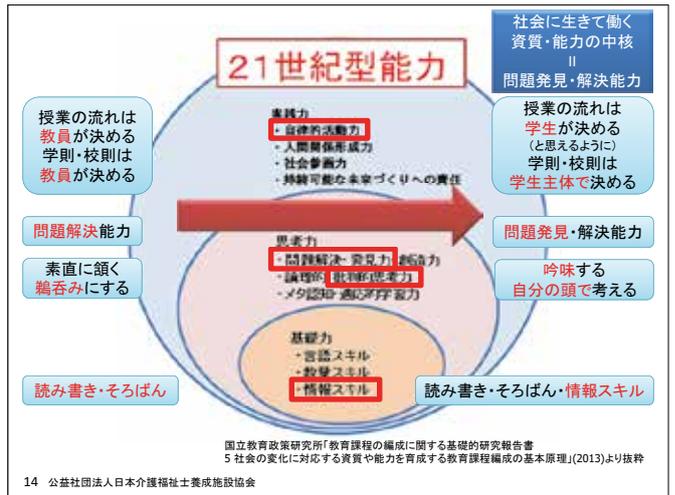
基礎力
 ・言語スキル
 ・数値スキル
 ・情報スキル

国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎的研究報告書
 5 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」(2013)より抜粋

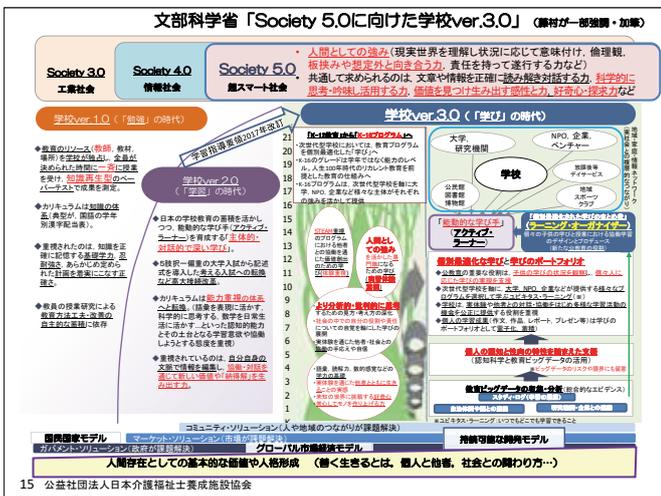
12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会



18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会